

児童教育学科 幼児保育専攻

児童教育学科児童教育専攻学科科目一覧

科目コード	2011年度入学生		2010年度入学生		2009年度入学生		2008年度入学生	
13100	キリスト教教育論	2年次配当	キリスト教教育論		キリスト教教育論		キリスト教教育論	
13101	全人教育論	2年次配当	全人教育論		全人教育論		全人教育論	
13102	教育原理Ⅰ		教育原理Ⅰ		教育原理Ⅰ		教育原理Ⅰ	
13103	保育の心理学Ⅰ		教育心理学Ⅰ		教育心理学Ⅰ		教育心理学Ⅰ	
13104	統計入門		統計入門		統計入門		統計学入門	
13105	発達支援論	2年次配当	発達支援論		発達支援論		発達支援論	
13106	音楽Ⅰ		音楽Ⅰ		音楽Ⅰ		音楽Ⅰ	
13107	美術Ⅰ		美術Ⅰ		美術Ⅰ		美術Ⅰ	
13108							造形表現	
13109	基礎演習		基礎演習		基礎演習		基礎演習	
13110	幼児保育演習Ⅰ	3年次配当	幼児保育演習Ⅰ	3年次配当	幼児保育演習Ⅰ		幼児保育演習Ⅰ	
13111	幼児保育演習Ⅱ	4年次配当	幼児保育演習Ⅱ	4年次配当	幼児保育演習Ⅱ	4年次配当	幼児保育演習Ⅱ	
13112	教育原理Ⅱ		教育原理Ⅱ		教育原理Ⅱ		教育原理Ⅱ	
13113	教育心理学Ⅱ	休講	教育心理学Ⅱ	休講	教育心理学Ⅱ	休講	教育心理学Ⅱ	休講
13114	保育原理Ⅰ		保育原理Ⅰ		保育原理Ⅰ		保育原理Ⅰ	
13115	保育者論		保育原理Ⅱ	3年次配当	保育原理Ⅱ		保育原理Ⅱ	
13116	社会的養護	2年次配当	養護原理		養護原理		養護原理	
13117	児童家庭福祉	3年次配当	児童福祉	3年次配当	児童福祉		児童福祉	
13118	社会福祉	2年次配当	社会福祉		社会福祉		社会福祉	
13119			社会福祉援助技術		社会福祉援助技術		社会福祉援助技術	
13120	キリスト教保育	2年次配当	キリスト教保育		キリスト教保育		キリスト教保育	
13121	子ども文化論	2年次配当	子ども文化論		子ども文化論		子ども文化論	
13122	心理学入門		心理学入門		心理学入門		心理学概論	
13123			発達心理学		発達心理学		発達心理学	
13124	生涯発達心理学		生涯発達心理学		生涯発達心理学		生涯発達心理学	
13125	発達障害学	2年次配当	発達障害学		発達障害学		発達障害学	
13126	発達障害学演習	2年次配当	発達障害学演習		発達障害学演習		発達障害学演習	
13127	発達臨床研究法	3年次配当	発達臨床研究法	3年次配当	発達臨床研究法		発達臨床研究法Ⅰ	
13128							発達臨床研究法Ⅱ	休講
13129	言語発達心理学	2年次配当	言語発達心理学		言語発達心理学		言語発達心理学	
13130	乳児保育	2年次配当	乳児保育	3年次配当	乳児保育		乳児保育	
13131	障害児保育	3年次配当	障害児保育	3年次配当	障害児保育		障害児保育	
13132	社会的養護内容	2年次配当	養護内容		養護内容		養護内容	
13133	家庭支援論	2年次配当	家族援助論		家族援助論		家族援助論	
13134	保育臨床相談	3年次配当	保育臨床相談	3年次配当	保育臨床相談		保育臨床相談	
13135	地域発達臨床論	3年次配当	地域発達臨床論	3年次配当	地域発達臨床論		地域発達臨床論	
13136			精神保健	3年次配当	精神保健		精神保健	
13137			小児保健Ⅰ		小児保健Ⅰ		小児保健Ⅰ	
13138			小児保健Ⅱ		小児保健Ⅱ		小児保健Ⅱ	
13139			小児保健実習	3年次配当	小児保健実習		小児保健実習	
13140	子どもの食と栄養	3年次配当	小児栄養	3年次配当	小児栄養		小児栄養	
13141	幼児体育	2年次配当	幼児体育		幼児体育		幼児体育	
13142	身体表現	2年次配当	身体表現	3年次配当	身体表現		身体表現	
13143	音楽Ⅱ	2年次配当	音楽Ⅱ		音楽Ⅱ		音楽Ⅱ	
13144	美術Ⅱ	2年次配当	美術Ⅱ		美術Ⅱ		美術Ⅱ	
13145							保育実践研究A	
13146							保育実践研究B	
13147	幼児保育特講	休講	幼児保育特講	休講	幼児保育特講	休講	幼児保育特講	休講
13148	卒業研究	4年次配当	卒業研究	4年次配当	卒業研究	4年次配当	卒業研究	
13149					総合演習		総合演習	
13150	保育内容総論	2年次配当	保育内容総論		保育内容総論		保育内容総論	
13151	保育内容研究・健康	2年次配当	保育内容研究・健康		保育内容研究・健康		保育内容研究・健康	
13152	保育内容研究・人間関係		保育内容研究・人間関係		保育内容研究・人間関係		保育内容研究・人間関係	
13153	保育内容研究・環境	2年次配当	保育内容研究・環境		保育内容研究・環境		保育内容研究・環境	
13154	保育内容研究・言葉		保育内容研究・言葉		保育内容研究・言葉		保育内容研究・言葉	
13155	保育内容研究・表現Ⅰ	3年次配当	保育内容研究・表現Ⅰ	3年次配当	保育内容研究・表現Ⅰ		保育内容研究・表現Ⅰ	
13156	保育内容研究・表現Ⅱ	3年次配当	保育内容研究・表現Ⅱ	3年次配当	保育内容研究・表現Ⅱ		保育内容研究・表現Ⅱ	
13157	保育方法の研究	3年次配当	保育方法の研究	3年次配当	保育方法の研究		保育方法の研究	
13158	幼児理解と教育相談	2年次配当	幼児理解と教育相談		幼児理解と教育相談		幼児理解と教育相談	
13159			保育実習指導Ⅰ		保育実習指導Ⅰ		保育実習指導	
13160	保育実習Ⅰ（施設）	2年次配当	保育実習ⅠA		保育実習ⅠA		保育実習ⅠA	
13161	保育実習Ⅰ（保育所）	3年次配当	保育実習ⅠB		保育実習ⅠB		保育実習ⅠB	
13162	保育実習Ⅱ（保育所）	3年次配当	保育実習Ⅱ	3年次配当	保育実習Ⅱ		保育実習Ⅱ	
13163	保育実習Ⅲ（施設）	3年次配当	保育実習Ⅲ	3年次配当	保育実習Ⅲ		保育実習Ⅲ	
13164	保育環境デザイン	2年次配当	保育環境デザイン	3年次配当	保育環境デザイン			
13165	保育実践研究A	4年次配当	保育実践研究A	4年次配当	保育実践研究A	4年次配当		
13166	保育実践研究B	4年次配当	保育実践研究B	4年次配当	保育実践研究B	4年次配当		
13167	保育実習指導Ⅱ	3年次配当	保育実習指導Ⅱ	3年次配当	保育実習指導Ⅱ			
13168	教職論		教職論		教職論			
13169	教育行政学	2年次配当	教育行政学		教育行政学			
13170	教育方法論	2年次配当	教育方法の研究		教育方法の研究			
13171			初等教育実習Ⅲ（事前事後指導1単位を含む）	3年次配当	初等教育実習Ⅲ（事前事後指導1単位を含む）			

科目コード	2011年度入学生		2010年度入学生		2009年度入学生		2008年度入学生	
13172			初等教育実習Ⅳ	3年次配当	初等教育実習Ⅳ			
13173	小学校国語科研究	3年次配当	小学校国語科研究	3年次配当	小学校国語科研究			
13174	小学校算数科研究	3年次配当	小学校算数科研究	3年次配当	小学校算数科研究			
13175	小学校生活科研究	3年次配当	小学校生活科研究	3年次配当	小学校生活科研究			
13176	小学校体育科研究	3年次配当	小学校体育科研究	3年次配当	小学校体育科研究			
13177	保育・教職実践演習(幼稚園)	4年次配当	保育・教職実践演習(幼稚園)	4年次配当				
13178	相談援助	2年次配当						
13179	保育の心理学Ⅱ							
13180	子どもの保健Ⅰ	2年次配当						
13181	子どもの保健Ⅱ	3年次配当						
13182	保育課程論							
13183	保育相談支援	2年次配当						
13184	保育実習指導Ⅰ	2年次配当						
13185	初等教育実習Ⅲ(事前事後指導I単位を含む)	2年次配当						
13186	初等教育実習Ⅳ	3年次配当						

13100 キリスト教教育論

(Introduction to Christian Education)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 結城 敏也

履修可能学科

E Pc C W F

関連資格

到達目標

宗教としてのキリスト教を理解し、キリスト教理念に基づく教育についての概観を把握する。キリスト教理念に基づいた指導ができるようにする。

授業計画

1. 宗教と教育の関係
2. キリスト教とはどんな宗教か
3. キリスト教の理念
4. 宗教とカルトの違い
5. カソリックとプロテスタント
6. キリスト教神学
7. キリスト教的教育とは
8. 聖書とは 旧約1
9. 旧約2
10. 新約1
11. 新約2
12. イエス伝承
13. キリスト教伝承
14. 宗教と哲学の違い キリスト教とは何か?
15. 総括

授業概略

宗教とは何だろうか?生きていく上で「宗教」は何故必要なのだろうか。「宗教」と「道徳」とはどう関係するのだろうか?現在の日本の学校教育では、私立学校においては「道徳」ではなく「宗教」を当てることができる。社会のありかたによっては、「宗教」を教えるのは学校の役割ではない。しかしながら社会が正常に存続するためには、市民に「宗教」あるいは「道徳」を教え、規範意識を持たせることが不可欠である。市民の大多数が規範意識を失ったとき、その社会は劣化し、衰亡する。現在の日本の社会状況においては、「宗教」は等閑視される。初詣をしたり、クリスマスを祝ったりはするものの「宗教」の意義について考えることは少ない。キリスト教教育とは、「キリスト教」という宗教を媒介として「人間」をあるべき姿へと導くことを目標とする教育である。ここでは、宗教、キリスト教、そしてキリスト教を介した宗教教育について概括したい。

教科書

随時、プリントを配布、あるいはIC-UNIPAで公開。

参考書

聖書(新約・旧約)

「キリスト教の歴史」 小田垣雅也 講談社学術文庫

1995

「『新約聖書』の『たとえ』を解く」 加藤隆 ちくま新書 2006

「人を生かすキリスト教教育」 船本弘毅 創元社 2008

「キリスト教文化の常識」 石黒マリーローズ 講談社現代新書 1994

「キリスト教教育の背景」 小林公一編著 ヨルダン社 1979

成績評価の方法・基準

講義中に提示する課題レポート提出、期末試験

事前準備学習

前講義時に指定された、ハンドアウト、テキストの範囲などを読んでくる。

講義中に指定された課題を調べる。

13101 全人教育論 a

(Survey of Education for the Whole Man a)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 渡部 芳樹

履修可能学科

E Pc C W F

関連資格

到達目標

[目的]

全人教育について考え実践する上で不可欠である基礎理論を理解すると共に、教育・保育の専門家としての在り方を考えるための観点と態度の習得を目指す。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 全人教育と知・徳・体—全人教育の基礎—
3. 知・徳・体と「生きる力」—全人教育と今日の教育(1)—
4. 学校週5日制—(2)—
5. 心の教育—(3)—
6. 公立中高一貫制—(4)—
7. 規制緩和と学校選択制—(5)—
8. 教育のプライバタイゼーション—(6)—
9. 教育のアカウントビリティー—(7)—
10. 義務教育—(8)—
11. 生涯学習—(9)—
12. ノンフォーマル・エデュケーション—(10)—
13. 脱学校論—(11)—
14. 全人教育の今後の在り方
15. 全人教育論の再考

授業概略

[内容] [方法]

全人教育とは、「知・徳・体」の調和的な成長を目指す教育である。本講義では、この「知・徳・体」の内容と構造について理解を深めると共に、それ(ら)に関する今日の教育的課題について検討をおこなう。基本的に、テキストおよび資料を用いた講義形式で授業をおこなう。

教科書

小澤周三編、『教育学キーワード』(第3版)、有斐閣

※「教育原理Ⅱ」のテキストと同一である。

参考書

1. 小澤周三他著、『教育思想史』、有斐閣(有斐閣Sシリーズ)

2. 小玉重夫、『シティズンシップの教育思想』、白澤社

成績評価の方法・基準

[評価]

学期末試験の得点を評価の全て(100%)とする。なお、私語等の性行不良の行為を止めない受講者には退室を命じ、かつ、学期末試験の受験資格を与えない。

事前準備学習

[注意]

1. 予習を前提として講義をおこなう。
2. 高等学校程度の「歴史(世界史および近現代史)」は理解しておくこと。

13101 全人教育論 b

(Survey of Education for the Whole Man b)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 渡部 芳樹

履修可能学科

E Pc C W F

関連資格

到達目標

[目的]

全人教育について考え実践する上で不可欠である基礎理論

を理解すると共に、教育・保育の専門家としての在り方を考えるための観点と態度の習得を目指す。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 全人教育と知・徳・体—全人教育の基礎—
3. 知・徳・体と「生きる力」—全人教育と今日の教育(1)—
4. 学校週5日制—(2)—
5. 心の教育—(3)—
6. 公立中高一貫制—(4)—
7. 規制緩和と学校選択制—(5)—
8. 教育のプライバタイゼーション—(6)—
9. 教育のアカウントビリティ—(7)—
10. 義務教育—(8)—
11. 生涯学習—(9)—
12. ノンフォーマル・エデュケーション—(10)—
13. 脱学校論—(11)—
14. 全人教育の今後の在り方
15. 全人教育論の再考

授業概略

[内容] [方法]

全人教育とは、「知・徳・体」の調和的な成長を目指す教育である。本講義では、この「知・徳・体」の内容と構造について理解を深めると共に、それ(ら)に関する今日の教育的課題について検討をおこなう。基本的に、テキストおよび資料を用いた講義形式で授業をおこなう。

教科書

小澤周三編、『教育学キーワード』(第3版)、有斐閣
※「教育原理Ⅱ」のテキストと同一である。

参考書

1. 小澤周三他著、『教育思想史』、有斐閣(有斐閣Sシリーズ)
2. 小玉重夫、『シティズンシップの教育思想』、白澤社

成績評価の方法・基準

[評価]

学期末試験の得点を評価の全て(100%)とする。なお、私語等の性行不良の行為を止めない受講者には退室を命じ、かつ、学期末試験の受験資格を与えない。

事前準備学習

[注意]

1. 予習を前提として講義をおこなう。
2. 高等学校程度の「歴史(世界史および近現代史)」は理解しておくこと。

13102 教育原理 I a (Principles of Education I a)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 矢田 訓子

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育 社教 学芸

到達目標

受講者が、すべての教育実践のかなめである教育の基本原則を理解すること、教育に関する基礎的基本的な知識と考え方を獲得することが本講義の目標です。

授業計画

講義のテーマは以下の通りです。

1. オリエンテーション—「教育原理」とは何か
2. 「教育」とは何か(1)—教育と学習
3. 「教育」とは何か(2)—教育の起源
4. 教育思想の源泉—古代ギリシア・アテネの教育
5. 近代社会の契機と教育—ルネサンスの教育改革
6. 近代学校の構想—近代学校の教育方法・内容
7. 近代公教育の成立とその性格(1)—近代公教育の三原則

8. 近代公教育の成立とその性格(2)—学校制度の確立
9. 日本における近代公教育制度の確立
10. 「新教育運動」とその取り組み—子ども中心主義の教育理念
11. 現代の教育課題(1)—教育の現代化
12. 現代の教育課題(2)—「確かな学力」と「生きる力」
13. 現代の教育課題(3)—学校—家庭—地域の連携
14. 現代の教育課題(4)—日本の教育のゆくえ
15. まとめ—改めて「教育」とは何かを考える

授業概略

本講義では、教育の理念と仕組みについて、教育の歴史、特に教育の思想の変遷を整理し概観することを通じて検討します。そして、この知見と受講者のこれまでの教育経験とを関連付けながら、今日の私たちの社会における教育の捉え方・考え方を検討します。

教科書

小澤周三・影山昇・小沢滋子・今井重孝著『教育思想史』有斐閣Sシリーズ、有斐閣、1993。

授業にて資料を配布します。

参考書

授業にて随時提示します。

成績評価の方法・基準

学期末の試験及び、授業内に課すレポート、および授業参加態度に基づいて総合的に判断します。なお、具体的な配点については、第一回講義にて説明します。

事前準備学習

原則として、実際の講義回数の3分の1以上を欠席した者は受講放棄とみなします。

13102 教育原理 I b (Principles of Education I b)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 矢田 訓子

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育 社教 学芸

到達目標

受講者が、すべての教育実践のかなめである教育の基本原則を理解すること、教育に関する基礎的基本的な知識と考え方を獲得することが本講義の目標です。

授業計画

講義のテーマは以下の通りです。

1. オリエンテーション—「教育原理」とは何か
2. 「教育」とは何か(1)—教育と学習
3. 「教育」とは何か(2)—教育の起源
4. 教育思想の源泉—古代ギリシア・アテネの教育
5. 近代社会の契機と教育—ルネサンスの教育改革
6. 近代学校の構想—近代学校の教育方法・内容
7. 近代公教育の成立とその性格(1)—近代公教育の三原則
8. 近代公教育の成立とその性格(2)—学校制度の確立
9. 日本における近代公教育制度の確立
10. 「新教育運動」とその取り組み—子ども中心主義の教育理念
11. 現代の教育課題(1)—教育の現代化
12. 現代の教育課題(2)—「確かな学力」と「生きる力」
13. 現代の教育課題(3)—学校—家庭—地域の連携
14. 現代の教育課題(4)—日本の教育のゆくえ
15. まとめ—改めて「教育」とは何かを考える

授業概略

本講義では、教育の理念と仕組みについて、教育の歴史、特に教育の思想の変遷を整理し概観することを通じて検討します。そして、この知見と受講者のこれまでの教育経験

共

通

E

P

e

P

c

C

生

活

基

礎

F

看

護

基

礎

経

営

基

礎

卒

外

とを関連付けながら、今日の私たちの社会における教育の捉え方・考え方を検討します。

教科書

小沢周三・影山昇・小沢滋子・今井重孝著『教育思想史』有斐閣Sシリーズ、有斐閣、1993。
授業にて資料を配布します。

参考書

授業にて随時提示します。

成績評価の方法・基準

学期末の試験及び、授業内に課すレポート、および授業参加態度に基づいて総合的に判断します。なお、具体的な配点については、第一回講義にて説明します。

事前準備学習

原則として、実際の講義回数の3分の1以上を欠席した者は受講放棄とみなします。

13103 保育の心理学 I a

(Psychology for Child Nursing I a)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 江尻 桂子

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

人の心や行動が一生を通じてどのように変化してゆくのか、また、乳児期から老年期までの各発達段階において、人がどのような課題に出あうのかを理解します。その際、ことばの発達、認知発達、社会性の発達など、領域ごとの発達についても理解します。

授業計画

- 第1回：この授業の到達目標と概略
- 第2回：生物進化のなかでのヒト：人の発達の特徴
- 第3回：生物進化のなかでのヒト：人間はなぜ言語を獲得したのか
- 第4回：遺伝と環境（1）
- 第5回：遺伝と環境（2）
- 第6回：胎児期・新生児期の発達
- 第7回：乳幼児期の知的な発達
- 第8回：乳幼児期のことばの発達
- 第9回：乳幼児期社会性の発達
- 第10回：児童期の発達
- 第11回：青年期の発達
- 第12回：成人期の発達
- 第13回：老年期の発達（1）
- 第14回：老年期の発達（2）
- 第15回：人間の発達のみとめ

授業概略

この授業では、人のからだや心が、一生を通してどのようにして発達してゆくのかを学びます。胎児期から始まり、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期について概説するとともに、言語・認知、社会性の発達、個性の発達、親子関係、育児不安、虐待問題など、様々な観点から学びます。さらに、発達のなかで出あうさまざまな課題や、近年注目されている発達障害についても学びます。これらの学びを通して、皆さんが様々な発達段階の人々に対して、発達心理学的な観点から観察し、理解できるようになることが目的です。授業のあとに、感想や意見を書いて提出していただきます。試験に際しては、十分な準備が必要となります。レポート提出やグループディスカッション、個人での発表なども予定していますので、授業への積極的な参加を期待します。

教科書

授業に関連する資料は全て配布します。

参考書

授業中に適宜紹介します。

成績評価の方法・基準

1) 出席回数、2) 授業態度、3) 授業内容に対するコメント、4) 期末試験、レポートなどにより総合的に評価します。

事前準備学習

可能であれば、発達心理学や教育心理学の入門的テキストを読んでおくといよいでしょう。

備考

授業中の私語、携帯メール、音楽を聴く、飲食など、他の受講生に迷惑をかける行為やマナー違反と考えられる行為については積極的に注意し、評価に反映させます。この授業では座席を指定します。

13103 保育の心理学 I b

(Psychology for Child Nursing I b)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 江尻 桂子

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

人の心や行動が一生を通じてどのように変化してゆくのか、また、乳児期から老年期までの各発達段階において、人がどのような課題に出あうのかを理解します。その際、ことばの発達、認知発達、社会性の発達など、領域ごとの発達についても理解します。

授業計画

- 第1回：この授業の到達目標と概略
- 第2回：生物進化のなかでのヒト：人の発達の特徴
- 第3回：生物進化のなかでのヒト：人間はなぜ言語を獲得したのか
- 第4回：遺伝と環境（1）
- 第5回：遺伝と環境（2）
- 第6回：胎児期・新生児期の発達
- 第7回：乳幼児期の知的な発達
- 第8回：乳幼児期のことばの発達
- 第9回：乳幼児期社会性の発達
- 第10回：児童期の発達
- 第11回：青年期の発達
- 第12回：成人期の発達
- 第13回：老年期の発達（1）
- 第14回：老年期の発達（2）
- 第15回：人間の発達のみとめ

授業概略

この授業では、人のからだや心が、一生を通してどのようにして発達してゆくのかを学びます。胎児期から始まり、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期について概説するとともに、言語・認知、社会性の発達、個性の発達、親子関係、育児不安、虐待問題など、様々な観点から学びます。さらに、発達のなかで出あうさまざまな課題や、近年注目されている発達障害についても学びます。これらの学びを通して、皆さんが様々な発達段階の人々に対して、発達心理学的な観点から観察し、理解できるようになることが目的です。授業のあとに、感想や意見を書いて提出していただきます。試験に際しては、十分な準備が必要となります。レポート提出やグループディスカッション、個人での発表なども予定していますので、授業への積極的な参加を期待します。

教科書

授業に関連する資料は全て配布します。

参考書

授業中に適宜紹介します。

成績評価の方法・基準

1) 出席回数、2) 授業態度、3) 授業内容に対するコメント、4) 期末試験、レポートなどにより総合的に評価します。

事前準備学習

可能であれば、発達心理学や教育心理学の入門的テキストを読んでおくとよいでしょう。

備考

授業中の私語、携帯メール、音楽を聴く、飲食など、他の受講生に迷惑をかける行為やマナー違反と考えられる行為については積極的に注意し、評価に反映させます。この授業では座席を指定します。

13104 統計入門 a

(Introduction to Statistics a)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 有澤 正樹

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

統計学の分析概念を理解し、基本的な統計処理を行うことができる。

授業計画

- 【第01回】 統計学はどのような学問か
- 【第02回】 復習および課題 1
- 【第03回】 標本分布の特性値
- 【第04回】 復習および課題 2
- 【第05回】 確率と確率分布
- 【第06回】 復習および課題 3
- 【第07回】 一様分布と正規分布
- 【第08回】 復習および課題 4
- 【第09回】 標本平均の分布と母平均の推定
- 【第10回】 t 分布と母平均の推定
- 【第11回】 復習および課題 5
- 【第12回】 χ^2 分布と母標準偏差の推定
- 【第13回】 仮説検定
- 【第14回】 復習および課題 6
- 【第15回】 まとめ

授業概略

統計学とは、アンケートや観測によって採取された、大量のデータの中に存在する法則性を扱う科学的分析方法であり、自然科学、社会科学、人文科学等の分野で広く利用されている。教育の分野においても、大勢の学生、生徒、児童に関するデータ（試験の点数かも知れないし、身長や体重などの健康に関するデータ、児童の心理を調べるための調査データかも知れない）を客観的（科学的）に扱っていく上で、統計学は必要不可欠である。ここでは、統計学の基礎について、演習を取り入れながら解説する。

教科書

鳥居泰彦 『はじめての統計学』 日本経済新聞社、1994年参考書

なし

成績評価の方法・基準

最終試験（6割）および課題（4割）による総合点から欠席1回につき5点を減じた点数(100点満点)か、もしくは、最終試験の素点を100点満点としたもののどちらか高い点数を成績とする。

事前準備学習

数学が不得意のものは、四則演算、分数、 $\chi^0=1$ など、受講までに各自で簡単な復習を行っておくこと。

備考

平方根（ルート）計算ができる電卓を持参すること。

13104 統計入門 b

(Introduction to Statistics b)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 有澤 正樹

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

統計学の分析概念を理解し、基本的な統計処理を行うことができる。

授業計画

- 【第01回】 統計学はどのような学問か
- 【第02回】 復習および課題 1
- 【第03回】 標本分布の特性値
- 【第04回】 復習および課題 2
- 【第05回】 確率と確率分布
- 【第06回】 復習および課題 3
- 【第07回】 一様分布と正規分布
- 【第08回】 復習および課題 4
- 【第09回】 標本平均の分布と母平均の推定
- 【第10回】 t 分布と母平均の推定
- 【第11回】 復習および課題 5
- 【第12回】 χ^2 分布と母標準偏差の推定
- 【第13回】 仮説検定
- 【第14回】 復習および課題 6
- 【第15回】 まとめ

授業概略

統計学とは、アンケートや観測によって採取された、大量のデータの中に存在する法則性を扱う科学的分析方法であり、自然科学、社会科学、人文科学等の分野で広く利用されている。教育の分野においても、大勢の学生、生徒、児童に関するデータ（試験の点数かも知れないし、身長や体重などの健康に関するデータ、児童の心理を調べるための調査データかも知れない）を客観的（科学的）に扱っていく上で、統計学は必要不可欠である。ここでは、統計学の基礎について、演習を取り入れながら解説する。

教科書

鳥居泰彦 『はじめての統計学』 日本経済新聞社、1994年参考書

なし

成績評価の方法・基準

最終試験（6割）および課題（4割）による総合点から欠席1回につき5点を減じた点数(100点満点)か、もしくは、最終試験の素点を100点満点としたもののどちらか高い点数を成績とする。

事前準備学習

数学が不得意のものは、四則演算、分数、 $\chi^0=1$ など、受講までに各自で簡単な復習を行っておくこと。

備考

平方根（ルート）計算ができる電卓を持参すること。

13105 発達支援論

(Survey of Developmental Support)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 細川 美由紀、中島 美那子

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

保育

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

到達目標

- ・子どもの発達過程をふまえた援助の在り方について理解することができる。
- ・子どもの発達を支える周囲の人々、機関について知り、実際の連携のあり方についての理解を深めることができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 子どもの発達過程とその援助 (1) 1歳まで
- 第3回 子どもの発達過程とその援助 (2) 2歳・3歳頃
- 第4回 子どもの発達過程とその援助 (3) 4歳頃
- 第5回 子どもの発達過程とその援助 (4) 5歳頃
- 第6回 子どもの発達過程とその援助 (5) 6歳頃
- 第7回 前半のまとめ・小テスト
- 第8回 保護者支援 (1) 保護者に対する見方
- 第9回 保護者支援 (2) 支援の実際
- 第10回 行政から見た発達支援 (1) 行政の役割
- 第11回 行政から見た発達支援 (2) 支援の実際
- 第12回 子育て支援の現在・過去
- 第13回 これからの子育て支援
- 第14回 実際の発達支援一事例を通して一
- 第15回 総まとめ

授業概略

講義の前半では、保育所保育指針を踏まえ、子どもの発達過程について概観した上で、それぞれの発達段階における援助の在り方について考えます。後半では、前半の学習を踏まえつつ、子どもの発達を支える保護者、行政、地域について理解を深めます。子どもの発達を保障するためには、ときに保護者への支援を要し、また保護者・行政・地域との連携が必要になることもあります。子どもの個別な見方のみならず、多角的な視点で発達支援を学びます。

教科書

毎回授業の中で資料を配布します。

参考書

特になし

成績評価の方法・基準

前半・後半でそれぞれ課題や試験を行います。最終的には、前半・後半の総合点により評価します。

事前準備学習

特になし

備考

第1回～第7回は細川が、第8回～第15回は中島が担当します。

13106 音楽 I a

(Music I a)

配置年次 1

単位数 2 期間 通年

担当者 井上 修

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

幼児保育のための音楽活動の基礎作り

授業計画

前期

- 1 オリエンテーション／伴奏に必要な主要三和音のコード
- 2 五線、音部記号、大譜表について／4月の唱歌・伴奏
- 3 音符の種類、付点、変化記号／4、5月の唱歌・伴奏
- 4 休符、小節、縦線、複縦線、終止線、反復記号／5月の唱歌・伴奏
- 5 拍子記号／4、5月の唱歌弾き歌いの演習
- 6 音名と階名／6月の唱歌・伴奏

- 7 音の高さの表記、加線、高音域&低音域の表記／6、7月の唱歌・伴奏
- 8 ダ・カーポ、ダル・セーニョ、コーダマーク／7月の唱歌・伴奏
- 9 音程 (1) / 6、7月の唱歌弾き歌いの演習
- 10 音程 (2) / 8月の唱歌・伴奏
- 11 音程 (3) / 8、9月の唱歌・伴奏
- 12 音程 (4) / 9月の唱歌・伴奏
- 13 音程 (5) / 8、9月の唱歌弾き歌いの演習
- 14 前期楽典の総まとめ／弾き歌いレパートリーの演習
- 15 前期弾き歌いレパートリーの全体演習

後期

- 1 長調／10月の唱歌・伴奏
- 2 短調 (自然、和声、旋律短音階) / 10、11月の唱歌・伴奏
- 3 近親調／11月の唱歌・伴奏
- 4 和音の基本形と転回形／10、11月の唱歌弾き歌いの演習
- 5 三和音の種類 (ダイアトニックコード) / 12月の唱歌・伴奏
- 6 主要三和音、属七の和音／12、1月の唱歌・伴奏
- 7 和音の配置 (トニック、サブドミナント、ドミナント) / 1月の唱歌・伴奏
- 8 終止／12、1月の唱歌弾き歌いの演習
- 9 三和音、七の和音のコードネーム／2月の唱歌・伴奏
- 10 速度の表示／2、3月の唱歌・伴奏
- 11 発想標語／3月の唱歌・伴奏
- 12 その他の用語と記号／2、3月の唱歌弾き歌いの演習
- 13 楽典の復習／これまでのレパートリーの復習
- 14 後期楽典の総まとめ／弾き歌いレパートリーの演習
- 15 後期弾き歌いレパートリーの全体演習

授業概略

幼児保育の現場での音楽活動で必要とされる基礎的な能力を修得することを目的としており、ピアノや歌唱などの実技のほかに、楽譜を読むための知識を学びます。

童謡や季節の唱歌など、現場で子供たちに教えるために最低限必要とされるレパートリーを扱い、ピアノ伴奏による弾き歌いを含め、実践し体得していきます。そのために必要とされるコードの知識、また、楽譜を読むのに必要な楽典の知識を身につけ、新しいレパートリーでも楽譜からアプローチできる能力を身につけられるようにしていきます。

教科書

東京福祉保育専門学校編 『現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』 (ドレミ楽譜出版)

山本英子著 『ピアノのアトリエ 楽典レッスン (1)』 (共同音楽出版)

山本英子著 『ピアノのアトリエ 楽典レッスン (2)』 (共同音楽出版)

参考書

なし

成績評価の方法・基準

実技試験と筆記試験によって評価します。また出席状況や授業態度も加味します。

事前準備学習

実技の修得を目的としているため、自宅や校内練習室での十分な予習・復習が必要となります。

13106 音楽 I b

(Music I b)

配置年次 1

単位数 2 期間 通年

担当者 井上 修

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

幼児保育のための音楽活動の基礎作り

授業計画

前期

- 1 オリエンテーション／伴奏に必要な主要三和音のコード
- 2 五線、音部記号、大譜表について／4月の唱歌・伴奏
- 3 音符の種類、付点、変化記号／4、5月の唱歌・伴奏
- 4 休符、小節、縦線、複縦線、終止線、反復記号／5月の唱歌・伴奏
- 5 拍子記号／4、5月の唱歌弾き歌いの演習
- 6 音名と階名／6月の唱歌・伴奏
- 7 音の高さの表記、加線、高音域&低音域の表記／6、7月の唱歌・伴奏
- 8 ダ・カーポ、ダル・セーニョ、コーダマーク／7月の唱歌・伴奏
- 9 音程（1）／6、7月の唱歌弾き歌いの演習
- 10 音程（2）／8月の唱歌・伴奏
- 11 音程（3）／8、9月の唱歌・伴奏
- 12 音程（4）／9月の唱歌・伴奏
- 13 音程（5）／8、9月の唱歌弾き歌いの演習
- 14 前期楽典の総まとめ／弾き歌いレパートリーの演習
- 15 前期弾き歌いレパートリーの全体演習

後期

- 1 長調／10月の唱歌・伴奏
- 2 短調（自然、和声、旋律短音階）／10、11月の唱歌・伴奏
- 3 近親調／11月の唱歌・伴奏
- 4 和音の基本形と転回形／10、11月の唱歌弾き歌いの演習
- 5 三和音の種類（ダイアトニックコード）／12月の唱歌・伴奏
- 6 主要三和音、属七の和音／12、1月の唱歌・伴奏
- 7 和音の配置（トニック、サブドミナント、ドミナント）／1月の唱歌・伴奏
- 8 終止／12、1月の唱歌弾き歌いの演習
- 9 三和音、七の和音のコードネーム／2月の唱歌・伴奏
- 10 速度の表示／2、3月の唱歌・伴奏
- 11 発想標語／3月の唱歌・伴奏
- 12 その他の用語と記号／2、3月の唱歌弾き歌いの演習
- 13 楽典の復習／これまでのレパートリーの復習
- 14 後期楽典の総まとめ／弾き歌いレパートリーの演習
- 15 後期弾き歌いレパートリーの全体演習

授業概略

幼児保育の現場での音楽活動で必要とされる基礎的な能力を修得することを目的としており、ピアノや歌唱などの実技のほかに、楽譜を読むための知識を学びます。

童謡や季節の唱歌など、現場で子供たちに教えるために最低限必要とされるレパートリーを扱い、ピアノ伴奏による弾き歌いを含め、実践し体得していきます。そのために必要とされるコードの知識、また、楽譜を読むのに必要な楽典の知識を身につけ、新しいレパートリーでも楽譜からアプローチできる能力を身につけられるようにしていきます。

教科書

東京福祉保育専門学校編『現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ楽譜出版）

山本英子著『ピアノのアトリエ 楽典レッスン（1）』（共同音楽出版）

山本英子著『ピアノのアトリエ 楽典レッスン（2）』（共同音楽出版）

参考書

なし

成績評価の方法・基準

実技試験と筆記試験によって評価します。また出席状況や授業態度も加味します。

事前準備学習

実技の修得を目的としているため、自宅や校内練習室での十分な予習・復習が必要となります。

13106 音楽 I c (Music I c)

配置年次 1

単位数 2 期間 通年

担当者 井上 修

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

幼児保育のための音楽活動の基礎作り

授業計画

前期

- 1 オリエンテーション／伴奏に必要な主要三和音のコード
- 2 五線、音部記号、大譜表について／4月の唱歌・伴奏
- 3 音符の種類、付点、変化記号／4、5月の唱歌・伴奏
- 4 休符、小節、縦線、複縦線、終止線、反復記号／5月の唱歌・伴奏
- 5 拍子記号／4、5月の唱歌弾き歌いの演習
- 6 音名と階名／6月の唱歌・伴奏
- 7 音の高さの表記、加線、高音域&低音域の表記／6、7月の唱歌・伴奏
- 8 ダ・カーポ、ダル・セーニョ、コーダマーク／7月の唱歌・伴奏
- 9 音程（1）／6、7月の唱歌弾き歌いの演習
- 10 音程（2）／8月の唱歌・伴奏
- 11 音程（3）／8、9月の唱歌・伴奏
- 12 音程（4）／9月の唱歌・伴奏
- 13 音程（5）／8、9月の唱歌弾き歌いの演習
- 14 前期楽典の総まとめ／弾き歌いレパートリーの演習
- 15 前期弾き歌いレパートリーの全体演習

後期

- 1 長調／10月の唱歌・伴奏
- 2 短調（自然、和声、旋律短音階）／10、11月の唱歌・伴奏
- 3 近親調／11月の唱歌・伴奏
- 4 和音の基本形と転回形／10、11月の唱歌弾き歌いの演習
- 5 三和音の種類（ダイアトニックコード）／12月の唱歌・伴奏
- 6 主要三和音、属七の和音／12、1月の唱歌・伴奏
- 7 和音の配置（トニック、サブドミナント、ドミナント）／1月の唱歌・伴奏
- 8 終止／12、1月の唱歌弾き歌いの演習
- 9 三和音、七の和音のコードネーム／2月の唱歌・伴奏
- 10 速度の表示／2、3月の唱歌・伴奏
- 11 発想標語／3月の唱歌・伴奏
- 12 その他の用語と記号／2、3月の唱歌弾き歌いの演習
- 13 楽典の復習／これまでのレパートリーの復習
- 14 後期楽典の総まとめ／弾き歌いレパートリーの演習
- 15 後期弾き歌いレパートリーの全体演習

授業概略

幼児保育の現場での音楽活動で必要とされる基礎的な能力を修得することを目的としており、ピアノや歌唱などの実技のほかに、楽譜を読むための知識を学びます。

童謡や季節の唱歌など、現場で子供たちに教えるために最低限必要とされるレパートリーを扱い、ピアノ伴奏によ

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

る弾き歌いを含め、実践し体得していきます。そのために必要とされるコードの知識、また、楽譜を読むのに必要な楽典の知識を身につけ、新しいレパートリーでも楽譜からアプローチできる能力を身につけられるようにしていきます。

教科書

東京福祉保育専門学校編 『現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ楽譜出版）

山本英子著 『ピアノのアトリエ 楽典レッスン（1）』（共同音楽出版）

山本英子著 『ピアノのアトリエ 楽典レッスン（2）』（共同音楽出版）

参考書

なし

成績評価の方法・基準

実技試験と筆記試験によって評価します。また出席状況や授業態度も加味します。

事前準備学習

実技の修得を目的としているため、自宅や校内練習室での十分な予習・復習が必要となります。

13106 音楽 I d

(Music I d)

配置年次 1

単位数 2 期間 通年

担当者 井上 修

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

幼児保育のための音楽活動の基礎作り

授業計画

前期

- 1 オリエンテーション／伴奏に必要な主要三和音のコード
- 2 五線、音部記号、大譜表について／4月の唱歌・伴奏
- 3 音符の種類、付点、変化記号／4、5月の唱歌・伴奏
- 4 休符、小節、縦線、複縦線、終止線、反復記号／5月の唱歌・伴奏
- 5 拍子記号／4、5月の唱歌弾き歌いの演習
- 6 音名と階名／6月の唱歌・伴奏
- 7 音の高さの表記、加線、高音域&低音域の表記／6、7月の唱歌・伴奏
- 8 ダ・カーポ、ダル・セーニョ、コーダマーク／7月の唱歌・伴奏
- 9 音程（1）／6、7月の唱歌弾き歌いの演習
- 10 音程（2）／8月の唱歌・伴奏
- 11 音程（3）／8、9月の唱歌・伴奏
- 12 音程（4）／9月の唱歌・伴奏
- 13 音程（5）／8、9月の唱歌弾き歌いの演習
- 14 前期楽典の総まとめ／弾き歌いレパートリーの演習
- 15 前期弾き歌いレパートリーの全体演習

後期

- 1 長調／10月の唱歌・伴奏
- 2 短調（自然、和声、旋律短音階）／10、11月の唱歌・伴奏
- 3 近親調／11月の唱歌・伴奏
- 4 和音の基本形と転回形／10、11月の唱歌弾き歌いの演習
- 5 三和音の種類（ダイアトニックコード）／12月の唱歌・伴奏
- 6 主要三和音、属七の和音／12、1月の唱歌・伴奏
- 7 和音の配置（トニック、サブドミナント、ドミナント）／1月の唱歌・伴奏

- 8 終止／12、1月の唱歌弾き歌いの演習
- 9 三和音、七の和音のコードネーム／2月の唱歌・伴奏
- 10 速度の表示／2、3月の唱歌・伴奏
- 11 発想標語／3月の唱歌・伴奏
- 12 その他の用語と記号／2、3月の唱歌弾き歌いの演習
- 13 楽典の復習／これまでのレパートリーの復習
- 14 後期楽典の総まとめ／弾き歌いレパートリーの演習
- 15 後期弾き歌いレパートリーの全体演習

授業概略

幼児保育の現場での音楽活動で必要とされる基礎的な能力を修得することを目的としており、ピアノや歌唱などの実技のほかに、楽譜を読むための知識を学びます。

童謡や季節の唱歌など、現場で子供たちに教えるために最低限必要とされるレパートリーを扱い、ピアノ伴奏による弾き歌いを含め、実践し体得していきます。そのために必要とされるコードの知識、また、楽譜を読むのに必要な楽典の知識を身につけ、新しいレパートリーでも楽譜からアプローチできる能力を身につけられるようにしていきます。

教科書

東京福祉保育専門学校編 『現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ楽譜出版）

山本英子著 『ピアノのアトリエ 楽典レッスン（1）』（共同音楽出版）

山本英子著 『ピアノのアトリエ 楽典レッスン（2）』（共同音楽出版）

参考書

なし

成績評価の方法・基準

実技試験と筆記試験によって評価します。また出席状況や授業態度も加味します。

事前準備学習

実技の修得を目的としているため、自宅や校内練習室での十分な予習・復習が必要となります。

13107 美術 I a

(Fine Arts I a)

配置年次 1

単位数 2 期間 通年

担当者 佃 彰一郎

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

保育士、幼稚園教諭に必要な造形表現の基礎を修得する。

授業計画

前期

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 絵画表現の発達段階
 - 第3回 絵とピクトグラム
 - 第4回 イメージの表現
 - 第5回 描写のイメージ
 - 第6回 12色相環
 - 第7回 色彩の明度
 - 第8回 色彩対比効果
 - 第9、10、11回 孔版の制作
 - 第12、13、14、15回 ガラス絵の制作
- 後期
- 第1、2回 物語による絵画表現
 - 第3回 透視図法と立方体のデッサン
 - 第4回 球と円柱のデッサン
 - 第5、6、7回 ペットボトル玩具の制作
 - 第8、9回 切り紙の制作

- 第10、11回 折り紙の制作
- 第12回 貼り絵の構成
- 第13、14、15回 紙による立体玩具の制作

授業概略

保育者は幼児の表現活動における美術、造形の重要性を理解し、自発的な表現が出来るよう環境を整え支援、指導を行えるよう、努めなければならない。そのためには、保育者自身の充実した美術造形表現の体験の積み重ねが不可欠である。

一般的な画材である、絵の具、紙、クレパス、カラーテープや、ペットボトルなどの日常品を用いた作品制作を行う。表現の豊かさ、楽しさを感じることを通じて個々の造形感覚、表現技術を高める。加えて、色彩、透視図法、絵画表現を理解することで、絵本、紙芝居、アニメーション等が子供たちに与える印象、影響を考察する。

教科書

授業で使用する資料は全て配布する。

参考書

30分でできる折り紙ランド（30分でできる保育実技シリーズ）川並 知子 著（フレーベル館）

成績評価の方法・基準

提出作品、そして用具、素材などに対する適切な扱い、片付け、清掃の状況を総合して評価した点数に出席率を乗じて評価します。なお提出期限を過ぎた作品は最低基準点になります。

事前準備学習

なし

13107 美術 I b

(Fine Arts I b)

配置年次 1

単位数 2 期間 通年

担当者 佃 彰一郎

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

保育士、幼稚園教諭に必要とされる造形表現の基礎を修得する。

授業計画

前期

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 絵画表現の発達段階
- 第3回 絵とピクトグラム
- 第4回 イメージの表現
- 第5回 描写のイメージ
- 第6回 12色相環
- 第7回 色彩の明度
- 第8回 色彩対比効果
- 第9、10、11回 孔版の制作
- 第12、13、14、15回 ガラス絵の制作

後期

- 第1、2回 物語による絵画表現
- 第3回 透視図法と立方体のデッサン
- 第4回 球と円柱のデッサン
- 第5、6、7回 ペットボトル玩具の制作
- 第8、9回 切り紙の制作
- 第10、11回 折り紙の制作
- 第12回 貼り絵の構成
- 第13、14、15回 紙による立体玩具の制作

授業概略

保育者は幼児の表現活動における美術、造形の重要性を理解し、自発的な表現が出来るよう環境を整え支援、指導を行えるよう、努めなければならない。そのためには、保

育者自身の充実した美術造形表現の体験の積み重ねが不可欠である。

一般的な画材である、絵の具、紙、クレパス、カラーテープや、ペットボトルなどの日常品を用いた作品制作を行う。表現の豊かさ、楽しさを感じることを通じて個々の造形感覚、表現技術を高める。加えて、色彩、透視図法、絵画表現を理解することで、絵本、紙芝居、アニメーション等が子供たちに与える印象、影響を考察する。

教科書

授業で使用する資料は全て配布する。

参考書

30分でできる折り紙ランド（30分でできる保育実技シリーズ）川並 知子 著（フレーベル館）

成績評価の方法・基準

提出作品、そして用具、素材などに対する適切な扱い、片付け、清掃の状況を総合して評価した点数に出席率を乗じて評価します。なお提出期限を過ぎた作品は最低基準点になります。

事前準備学習

なし

13107 美術 I c

(Fine Arts I c)

配置年次 1

単位数 2 期間 通年

担当者 佃 彰一郎

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

保育士、幼稚園教諭に必要とされる造形表現の基礎を修得する。

授業計画

前期

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 絵画表現の発達段階
- 第3回 絵とピクトグラム
- 第4回 イメージの表現
- 第5回 描写のイメージ
- 第6回 12色相環
- 第7回 色彩の明度
- 第8回 色彩対比効果
- 第9、10、11回 孔版の制作
- 第12、13、14、15回 ガラス絵の制作

後期

- 第1、2回 物語による絵画表現
- 第3回 透視図法と立方体のデッサン
- 第4回 球と円柱のデッサン
- 第5、6、7回 ペットボトル玩具の制作
- 第8、9回 切り紙の制作
- 第10、11回 折り紙の制作
- 第12回 貼り絵の構成
- 第13、14、15回 紙による立体玩具の制作

授業概略

保育者は幼児の表現活動における美術、造形の重要性を理解し、自発的な表現が出来るよう環境を整え支援、指導を行えるよう、努めなければならない。そのためには、保育者自身の充実した美術造形表現の体験の積み重ねが不可欠である。

一般的な画材である、絵の具、紙、クレパス、カラーテープや、ペットボトルなどの日常品を用いた作品制作を行う。表現の豊かさ、楽しさを感じることを通じて個々の造形感覚、表現技術を高める。加えて、色彩、透視図法、絵画表現を理解することで、絵本、紙芝居、アニメーション

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

等が子供たちに与える印象、影響を考察する。

教科書

授業で使用する資料は全て配布する。

参考書

30分のできる折り紙ランド（30分のできる保育実技シリーズ） 川並 知子 著（フレール館）

成績評価の方法・基準

提出作品、そして用具、素材などに対する適切な扱い、片付け、清掃の状況を総合して評価した点数に出席率を乗じて評価します。なお提出期限を過ぎた作品は最低基準点になります。

事前準備学習

なし

13108 造形表現 a

(Artistic Expression through Crafts a)

配置年次 3

単位数 2 期間 後期

担当者 佃 彰一郎

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

保育

到達目標

幼児の造形表現の環境を整備するために必要とされる知識技能を修得する。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 幼児の造形制作の環境
- 第3回 土粘土による表現
- 第4回 土粘土あそびの計画
- 第5回 土粘土あそびの発表
- 第6回 線による表現
- 第7回 デザイン表現の基礎
- 第8回 マイキャラクターのデザイン
- 第9回 様々な描画法1
- 第10回 様々な描画法2
- 第11回 色彩感覚の成り立ち
- 第12回 環境と色彩理論
- 第13回 配色演習
- 第14回 色紙の造形あそび
- 第15回 成長と自己表現

授業概略

保育者が幼児の造形表現の環境を整備するために必要とされる知識技能を学ぶ。幼児は家庭や保育園、幼稚園での生活の中で遊びながら育っていく。とくに遊ぶプロセスを通して感情、感覚、運動、社会性、知能のほとんどがはぐくまれると考えられる。こどもに意欲的な表現をうながすためには保育者自身の充実した表現の積み重ねがなければならない。以上の観点からこの授業は幼児の造形表現の環境を援助し共有することを目的として進められる。

教科書

授業で使用する資料は全て配布する。

参考書

なし

成績評価の方法・基準

提出物、発表、そして用具、素材などに対する適切な扱い、片付け、清掃の状況を総合して評価した点数に出席率を乗じて評価する。なお期限を過ぎた提出物は最低基準点で評価されます。

事前準備学習

保育士、幼稚園教諭の仕事に対して興味を持ち、理解していることが望ましい。

備考

教室の都合上、定員30名程度とします。幼児保育専攻基幹

科目ですのでPe学生（高学年）を優先します、他学科の学生は履修できない場合があります。第1回の授業には必ず出席してください。

無作為に設定したグループでの活動があります。

13108 造形表現 b

(Artistic Expression through Crafts b)

配置年次 3

単位数 2 期間 後期

担当者 佃 彰一郎

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

保育

到達目標

幼児の造形表現の環境を整備するために必要とされる知識技能を修得する。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 幼児の造形制作の環境
- 第3回 土粘土による表現
- 第4回 土粘土あそびの計画
- 第5回 土粘土あそびの発表
- 第6回 線による表現
- 第7回 デザイン表現の基礎
- 第8回 マイキャラクターのデザイン
- 第9回 様々な描画法1
- 第10回 様々な描画法2
- 第11回 色彩感覚の成り立ち
- 第12回 環境と色彩理論
- 第13回 配色演習
- 第14回 色紙の造形あそび
- 第15回 成長と自己表現

授業概略

保育者が幼児の造形表現の環境を整備するために必要とされる知識技能を学ぶ。幼児は家庭や保育園、幼稚園での生活の中で遊びながら育っていく。とくに遊ぶプロセスを通して感情、感覚、運動、社会性、知能のほとんどがはぐくまれると考えられる。こどもに意欲的な表現をうながすためには保育者自身の充実した表現の積み重ねがなければならない。以上の観点からこの授業は幼児の造形表現の環境を援助し共有することを目的として進められる。

教科書

授業で使用する資料は全て配布する。

参考書

なし

成績評価の方法・基準

提出物、発表、そして用具、素材などに対する適切な扱い、片付け、清掃の状況を総合して評価した点数に出席率を乗じて評価する。なお期限を過ぎた提出物は最低基準点で評価されます。

事前準備学習

保育士、幼稚園教諭の仕事に対して興味を持ち、理解していることが望ましい。

備考

教室の都合上、定員30名程度とします。幼児保育専攻基幹科目ですのでPe学生（高学年）を優先します、他学科の学生は履修できない場合があります。第1回の授業には必ず出席してください。無作為に設定したグループでの活動があります。

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

13109 基礎演習 a (Underclassmen Seminar a)

配置年次 1
単位数 2 期間 前期
担当者 佃 彰一郎
履修可能学科
Pc

関連資格
到達目標

絵本、紙芝居などの制作方法と構成を理解することで、その「たのしさ」を伝えることができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2、3回 カード玩具の制作
- 第4回 カード玩具の発表
- 第5回 幼児向けの絵本表現
- 第6、7、8回 ミニ絵本の制作
- 第9回 ミニ絵本の発表
- 第10回 絵本または紙芝居の制作計画
- 第11、12、13、14回 絵本または紙芝居を制作
- 第15回 絵本、紙芝居の発表

授業概略

カード玩具、絵本などの紙の造形物、玩具は誰もが手にして遊んだ記憶があるでしょう。これらの「紙の造形」は子どもたちだけのものでなく、私たちに感動を与えてくれる作品が数多くあります。その作品たちは、どのように作られるのでしょうか？
この授業ではカード、絵本、紙芝居などの制作を通じて造形表現の学習を行います。そして造形表現には「たのしみ・よろこび」と共に「むつかしさ」など、たくさんの感情が同時に湧いてくることを理解してもらいたい。

教科書

授業で使用する資料は全て配布する。

参考書

選択したテーマに対して適切な資料が探せるよう助言します。

成績評価の方法・基準

提出作品、そして用具、素材などに対する適切な扱い、片付け、清掃の状況を総合して評価した点数に出席率を乗じて評価する。なお提出期限を過ぎた作品は最低基準点になります。

事前準備学習

多くの絵本、紙芝居、イラストレーションなどに興味を持ち親しんでいることが望ましい。

備考

授業外での自主研究が必要です。

13109 基礎演習 b (Underclassmen Seminar b)

配置年次 1
単位数 2 期間 前期
担当者 飛田 隆
履修可能学科
Pc

関連資格
到達目標

- 1 保育園、幼稚園、認定こども園の特徴等や違いについて説明することができる。
- 2 夜間保育や病児保育等についても基本的な知識を理解し資料に基づいて説明することができる。
- 3 教育、保育に関連する雑誌、新聞等を材料にして討論していろいろな考え立場があることを理解する。
- 4 地域にある子育て支援センターについて調べ地域における支援についての理解を深める。

授業計画

- 第1回 幼稚園と保育園について学ぶ。
- 第2回 認定こども園について学ぶ。
- 第3回 夜間保育や病児保育について学ぶ。
- 第4回 学内の認定こども園の見学。
- 第5回 教育、保育に関する新聞、雑誌等の記事を材料として討論をする。
- 第6回 保育士の役割について学ぶ。
- 第7回 幼稚園教師の役割について学ぶ。
- 第8回 地域にある子育て支援センターについて調べる。
- 第9回～第14回 一人一人のテーマにあわせて学んだことを発表する。
- 第15回 総まとめ。

授業概略

幼稚園、保育園、認定こども園についての基本的な事を学ぶ。また実際に学内にある託児施設や認定こども園を見学してより具体的に幼児の生活や遊びについての理解を深める。幼稚園教師、保育士の役割や仕事の内容の基本的な事を理解し今後の実習につながるように計画している。教育、保育に関連する雑誌、新聞等を利用して広く一般的な知識を広げるとともに討論をし立場の違いや意見の違い等についても理解を深める。

教科書

授業で使う資料はすべて配布する。

参考書

なし

成績評価の方法・基準

出席状況、レポート、発表回数、授業態度を総合して評価する。

事前準備学習

教育、保育等に関連する新聞記事や雑誌等をよく読んでおくことが望ましい、また関連する本や幼児が好む絵本などにも関心を持って読んでおいてほしい。

13109 基礎演習 c (Underclassmen Seminar c)

配置年次 1
単位数 2 期間 前期
担当者 中島 美那子
履修可能学科
Pc

関連資格

到達目標

大学での学び方を知ることができる。

自己理解・他者理解が進む。

授業計画

- 【第1回】オリエンテーションー大学での生活について
- 【第2回】自己理解・他者理解（1）基礎ゼミの仲間を知る
- 【第3回】学び方を知る（1）大学の授業の特徴、ノートのとおり方
- 【第4回】学び方を知る（2）要約のしかた
- 【第5回】学び方を知る（3）実習の概要を知る
- 【第6回】自己理解・他者理解（2）自分について考える
- 【第7回】学び方を知る（4）発表のしかた
- 【第8回】学び方を知る（5）実際に発表してみよう1
- 【第9回】学び方を知る（6）実際に発表してみよう2
- 【第10回】自己理解・他者理解（3）他者（友人）との距離
- 【第11回】自己理解・他者理解（4）互いの価値観について考える
- 【第12回】自己理解・他者理解（5）ストレスとのつきあい方
- 【第13回】ゲストティーチャーから保育を学ぶ

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

【第14回】 学び方を知る (7) レポートの書き方

【第15回】 総まとめ

授業概略

本授業は、2つのことをテーマとしています。まず1つは、「大学での学びを知る」ということです。大学で学ぶということは、与えられたものをただ記憶すれば良いというわけではありません。「提示された内容を理解し、自分の考えをまとめ、それを他者に伝える」練習を行い、学びの基礎を身につけます。

2つめは、「人を知る」ということです。受講者が今後かわるであろう子どもを知るためには、まず自分自身を知り、さらに自らの周囲の人々を知ることが基本となります。そこで本授業では、自己理解・他者理解の促進を図ります。

教科書

授業の中で提示します。

参考書

授業の中で適宜提示します。

成績評価の方法・基準

学期末試験、授業への積極的参加の様子(発表、討議など)によって総合的に評価します。

事前準備学習

特になし

13109 基礎演習 d

(Underclassmen Seminar d)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 原口 なおみ

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

保育教材としてのわらべうたと絵本の魅力を実感し、その楽しさを子どもに届ける知識・技能を身につけることができる。

授業計画

- 第1回 自己紹介(わらべうたを使って)
- 第2回 春のわらべうた 1
- 第3回 春のわらべうた 2
- 第4回 春のわらべうた 3
- 第5回 夏のわらべうた 1
- 第6回 夏のわらべうた 2
- 第7回 夏のわらべうた 3
- 第8回 秋のわらべうた 1
- 第9回 秋のわらべうた 2
- 第10回 秋のわらべうた 3
- 第11回 冬のわらべうた 1
- 第12回 冬のわらべうた 2
- 第13回 冬のわらべうた 3
- 第14回 わらべうたの指導案を書く 1
- 第15回 わらべうたの指導案を書く 2

授業概略

毎回、一人ずつ、古典的な絵本のリストから1冊をえらび、読み聞かせをすると同時に、その作品の作家研究をしてもらいます。そのあと、授業後半の60分くらいは、いろいろなわらべうたを使ってあそびながら、わらべうたの保育教材としての可能性を実感します。学期末には、各人15分くらいのわらべうたを使った指導案をつくり、実際に教師役になって指導してみます。

教科書

特に定めません。必要な資料はプリントとして配布します。

参考書

近藤信子 『にほんのわらべうた 全4巻』 福音館書店 2001年

成績評価の方法・基準

授業時の絵本研究およびわらべうたの指導案をレポートとして提出、毎回の授業への参加態度とあわせて評価します。

事前準備学習

日ごろから、わらべうたを口ずさむことで、自然に歌えるようになります。

13109 基礎演習 e

(Underclassmen Seminar e)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 渡部 芳樹

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

[目的]

文章と口頭によって、自らの考えを表現するための方法と態度の習得を目指すと共に、教育・保育について考え実践するための基本的観点の習得を目指す。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 「教える」という言葉の分析—教育・保育を考えるための基本的観点—
3. 論理のパターン
4. 論理の内容
5. レジュメの作成(1)
6. レジュメの作成(2)
7. グループAの発表
8. グループBの発表
9. グループCの発表
10. レジュメの作成(3)
11. レジュメの作成(4)
12. グループAの発表
13. グループBの発表
14. グループCの発表
15. 教育・保育を考えるための基本的観点、および、表現の技法についての再考

授業概略

[内容] [方法]

本演習では、次の二点の内容について授業をおこなう。一点は、表現の技法について。大学教育ではさまざまな場面で、レポートや論文、口頭発表などを通じて自らの考えを表現することが求められるが、整然と表現することはなかなか難しい。本演習では、何をどのように調べ、どのような型(パターン)で表現すればよいかについて、実践を通じて学ぶ。もう一点は、教育・保育を考えるための基礎的観点について。教育・保育の営みは少なくとも、「教える者」「教えられる者」「教え(られ)る内容」の三つのパーツから成り立つ。これら三つのパーツが今日どのように理解されているのか、また、なぜそのように理解されるのかについて調査し検討をおこなうことを通じて、教育・保育を考えるための基本的観点について学ぶ。以上の二点について、受講者をグループ分けし演習形式で授業をおこなう。

教科書

なし ※資料等は受講者自身が収集をおこなう。助言や指示等は授業時に与える。

参考書

なし ※資料等は受講者自身が収集をおこなう。助言や指示等は授業時に与える。

成績評価の方法・基準

[評価]

授業態度と口頭発表の内容(40%)、および学期末のレポートの内容(60%)により評価する。

事前準備学習

[注意]

1. チームワークが肝心である。したがって、遅刻・欠席は認めない。
2. 授業時間外にも作業をおこなう必要がある。

13109 基礎演習 f

(Underclassmen Seminar f)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 天野 秀哉

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

気軽に楽しい体験教育アクティビティを用いて、自身の学生生活における社会性の育成のみならず、子どもに対する遊びのネタを数多く学ぶことを目標としている。また学生生活で必要となる、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方などを同時進行で行い、学生生活以降の必要とされる学習の仕方を学ぶことをも目標としている。

授業計画

1. ガイダンス／オリエンテーション
2. プロジェクトアドベンチャー1 (出会いのPA系ゲーム)
3. プロジェクトアドベンチャー2 (知り合いのPA系ゲーム)
4. プロジェクトアドベンチャー3 (絆のPA系ゲーム)
5. プロジェクトアドベンチャー4 (協力のPA系ゲーム)
6. ニュースポーツ1 (キンボール)
7. ニュースポーツ2 (Gボール)
8. ニュースポーツ3 (ネットネット)
9. ディベート1 (考える手段の模索)
10. ディベート2 (考えを発表する)
11. 資料の抄読1 (文章の解釈)
12. 資料の抄読2 (文章の理解)
13. プレゼンテーション1 (考えのまとめ方)
14. プレゼンテーション2 (考えの発表の仕方)
15. 半期のまとめ

授業概略

グループワークを課題とし、複数で協力しなくては達成が困難な課題を毎時間行う。幼児に対する遊びを中心としたアクティビティやニュースポーツを用いたものによる課題にて、学生自身への社会性の育成も目的としている。また学生生活における課題への取り組み方の学習として、ディベート、レポートの書き方と文章の読み方、発表の仕方をテーマにした内容を行う。

教科書

授業時にその都度配布します。

参考書

みんなのPA系ゲーム243 (プロジェクトアドベンチャー ジャパン監修) 杏林書院

成績評価の方法・基準

レポートの素点から、無断欠席、無断遅刻による減点したものを「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめる。受講態度 (服装など) や学習カード提出の有無も考慮する。

事前準備学習

身体を動かす機会があるのでそのつもりで参加すること。パソコンを利用できるように (word, excel, ppt)、少し触っておくこと。

備考

実技授業の日は必ず運動を行う服装に着替えること。屋外用と屋内用のシューズ2足を必ず用意すること。

13110 幼児保育演習 I a

(Childcare Seminar I a)

配置年次 3

単位数 4 期間 通年

担当者 池内 耕作

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

教育改革に関わる様々な命題について、これまでの論争を把握・整理し、確かな資料と根拠に基づいて自身の見解を明確に主張することができる。

授業計画

※テーマは毎年変わります。以下はその一例です。

- 【第01回】当事者が「いじめ」と言ったら「いじめ」である
- 【第02回】体罰を公認するべきだ
- 【第03回】ホーム・スクーリングを認めよ
- 【第04回】「国を愛する心」を法律で謳うべきではない
- 【第05回】青年に兵役義務を課すべきである。
- 【第06回】学校間競争・教師観競争が教育の底上げにつながる
- 【第07回】少年犯罪者の実名を報道せよ
- 【第08回】小学校にパソコン教育はいらない
- 【第09回】英国型アカウンタビリティ政策を導入せよ
- 【第10回】問題教員はすぐにやめさせろ
- 【第11回】できるが先、わかるは後
- 【第12回】学校評議員に児童・生徒代表を入れよ
- 【第13回】しつけは家でやれ
- 【第14回】教科書・黒板をデジタル化せよ
- 【第15回】支援ではなく指導せよ
- 【第16回以降】自由選択課題

授業概略

前期は各回のテーマを池内が指定し、各々のテーマについて発表担当者を2名定めます。この2名は話し合いによって賛成派・反対派に分かれ、それぞれ資料を作成して発表してもらいます。その後、池内が補足を行ないつつ、全員で討論します。後期は発表担当者がテーマを自由に選択することとします。

教科書

なし

参考書

各テーマの討論後、読んでほしい書籍や資料を紹介し、成績評価の方法・基準

次の3つの観点から総合的に評価します。

- (1) 担当した回の資料作成、発表、質疑応答の能力
- (2) 全体討論における貢献度 (出席状況、質疑・意見の内容、他者の意見の建設的解釈、等)
- (3) 前期末・後期末、計2回提出のレポート

事前準備学習

少なくとも教育にかかわる報道については毎日チェックする習慣を身に付けておくこと。発表資料やレポートの作成における「盗作」「剽窃」について事前に自習しておくこと。

13110 幼児保育演習 I c

(Childcare Seminar I c)

配置年次 3

単位数 4 期間 通年

担当者 石田 隆雄

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

基本的な人間の発達とつまずきを理解し、それを基に教

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

育現場でよく課題になっている代表的な具体的な事例検討をとおして、いくつかの指導仮説が想定できるようにする。またそれに基づいて簡単な指導計画をたてて具体的な支援策を考えることができるようにする。

授業計画

- 【第01回】本講座の到達目標と授業の概要
- 【第02回】保育・教育現場での混乱と課題
- 【第03回】人間の発達とつまずき、調査の選択
- 【第04回】身体・運動の発達とつまずき（1）
- 【第05回】身体・運動の発達とつまずき（2）
- 【第06回】認識・学習の発達とつまずき（1）
- 【第07回】認識・学習の発達とつまずき（2）
- 【第08回】コミュニケーションの発達とつまずき（1）
- 【第09回】コミュニケーションの発達とつまずき（2）
- 【第10回】社会性の発達とつまずき（1）
- 【第11回】社会性の発達とつまずき（2）
- 【第12回】思春期・青年期の発達とつまずき（1）
- 【第13回】思春期・青年期の発達とつまずき（2）
- 【第14回】知的障害と発達
- 【第15回】発達障害児と発達
- 【第16回】二次障害と気になる行動
- 【第17回】事例検討（1）攻撃
- 【第18回】事例検討（2）多動
- 【第19回】事例検討（3）パニック
- 【第20回】事例検討（4）こだわり
- 【第21回】事例検討（5）自傷
- 【第22回】事例検討（6）自己中心的
- 【第23回】事例検討（7）不登校
- 【第24回】事例検討（8）緘黙
- 【第25回】事例検討（9）集団参加
- 【第26回】事例検討（10）指示待ち人間
- 【第27回】事例検討（11）学習の遅れ
- 【第28回】二次障害の改善
- 【第29回】教育相談のあり方
- 【第30回】今後の特別支援教育の方向と課題

授業概略

障害のある子どもたちは、障害が直接反映している問題（一次障害）と周囲の人間関係の混乱が反映した結果としての問題（二次障害）の両方を抱えて生活のしにくさを感じています。

この講座では、前期は一次障害と関係する基本的な人間の発達とつまずきについて深め、後期は二次障害の様々な様相をみせる具体的な行動を事例検討の手法を学びながら深め、それぞれの行動の理解、指導仮説の立て方、具体的な支援策等を学びます。

教科書

自作プリントの配布、事例論文の配布

参考書

参考図書、資料等は、授業の中で紹介します。

成績評価の方法・基準

出席状況、提出物、発表内容、期末レポートから総合的に判定します。

事前準備学習

なし

心理学や福祉、教育、保育等の分野において興味のあるテーマを各自で定め、それについて文献研究を行い、レポートを作成・発表することを目標とします。

授業計画

前期

- 第1回. この授業の到達目標と概略
- 第2回. 学術論文の検索の方法・図書館ガイダンス
- 第3回. 学術論文のまとめ方・発表方法の説明（1）
- 第4回. 学術論文のまとめ方・発表方法の説明（2）
- 第5回. 学術論文のまとめ方・発表方法の説明（3）
- 第6回. 論文発表（1）
- 第7回. 論文発表（2）
- 第8回. 論文発表（3）
- 第9回. 論文発表（4）
- 第10回. 論文発表（5）
- 第11回. 論文発表（6）
- 第12回. 論文発表（7）
- 第13回. 論文発表（8）
- 第14回. 論文発表を振り返って
- 第15回. 演習の総まとめ

後期

- 第1回. この授業の到達目標と概略
- 第2回. 学術論文のまとめ方・発表方法の説明（1）
- 第3回. 学術論文のまとめ方・発表方法の説明（2）
- 第4回. 論文発表（1）
- 第5回. 論文発表（2）
- 第6回. 論文発表（3）
- 第7回. 論文発表（4）
- 第8回. 論文発表（5）
- 第9回. 論文発表（6）
- 第10回. 論文発表（7）
- 第11回. 論文発表（8）
- 第12回. プレゼンテーション技法の解説（1）
- 第13回. プレゼンテーション技法の解説（2）
- 第14回. 演習の総まとめ
- 第15回. 卒業論文に向けて

授業概略

社会には、さまざまな問題があります。親子や夫婦関係といった家族の問題、悩みを抱えた子どもや生きづらさを感じている青年の問題、いじめや不登校や非行、ニートの問題、育児や介護の問題、障がい児・者の問題など、これまでの学びのなかで、皆さんも様々な問題に関心を寄せてきたことと思います。この演習では、「自己や他者を理解する」ことを目標にしながらも、皆さんのひとりひとりの問題意識を大切にします。具体的には、各自テーマを決めて、それについて調べ、考察したことを発表します。そして、皆でディスカッションしながら考察を深めます。個別指導や、就職・進学に向けての相談も随時行っています。

教科書

授業に関連する資料は全て配布します。

参考書

論文・レポート作成方法として、「よくわかる学びの技法」（ミネルヴァ書房）を推薦。

成績評価の方法・基準

授業への参加態度、発表、レポート等を総合して、成績を評価します。

事前準備学習

なし

備考

「心理学」または「発達心理学」「生涯発達心理学」等、心理学系の単位をいくつか取得済みであることが望ましい。

13110 幼児保育演習 I e

(Childcare Seminar I e)

配置年次 3

単位数 4 期間 通年

担当者 江尻 桂子

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

「自己や他者を理解し、支援する」というテーマのもと、

13110 幼児保育演習 I f (Childcare Seminar I f)

配置年次 3
単位数 4 期間 通年
担当者 大島 孝子
履修可能学科
Pc

関連資格
到達目標

1. 集団心理療法「心理劇」の体験を通して、自らの自発性、創造性を育て、子どもと生き生きと関わることのできる自分づくりを目指す。
2. 子育て支援講座において、各々の役割を遂行する。

授業計画

前期

1. 心理劇の体験 ウォーミングアップの体験 (1)
2. 心理劇の体験 ウォーミングアップの体験 (2)
3. 全員参加の心理劇 (1)
4. 全員参加の心理劇 (2)
5. 子育て支援講座の意義
6. 子育て支援講座の計画
7. 保育における環境構成
8. チーム保育の実践 (1)
9. チーム保育の実践 (2)
10. 子育て支援講座 (1)
11. 子育て支援講座 (2)
12. 子育て支援講座 (3)
13. 実践の振り返り (1)
14. 実践の振り返り (2)
15. 課題の発見

後期

1. 研究課題の発見
2. 研究課題の実践報告 (1)
3. 研究課題の実践報告 (2)
4. 研究課題の実践報告 (3)
5. 研究課題の実践報告 (4)
6. 研究課題の実践報告 (5)
7. 研究課題の実践報告 (6)
8. 子どもの心の理解 (1)
9. 子どもの心の理解 (2)
10. 子どもの心の理解 (3)
11. 集団保育と保育者の役割 (1)
12. 集団保育と保育者の役割 (2)
13. 保育の指導法 (1)
14. 保育の指導法 (2)
15. まとめ

授業概略

人間関係力を高め、心理劇の活動事例を通して、互いの考えを知り新たな物の見方の発見につながればと考えています。また、子育て支援講座や保育実習・教育実習を振り返り、各自の課題を見つけ深めるために、課題解決のための心理劇を実施していきます。

前期には、子育て支援講座を実際に開きますので、そこでのチーム保育の実践は、自己の課題を明確化する手助けになると思います。

後期は、各自の進路に向けて、より具体的な研究課題を深めていきましょう。

教科書

大島孝子共著『共に育つ 一人間探求の児童学―』(宣協社)

参考書

j.1. モレノ著、増野肇監訳『サイコドラマ』(白揚社)
浜田駒子著『家庭科における心理劇の実践』(家政教育社)
佐藤啓子編集『現代のエスプリ 人間関係力シリーズ 人間関係の危機と現実』(至文堂)

成績評価の方法・基準

出席状況、毎回の振り返り感想、レポートなどを総合して評価します。

事前準備学習

演習に向けて資料等の準備を怠らないこと。教師が配る資料をよく読みこんでおくこと。

13110 幼児保育演習 I h (Childcare Seminar I h)

配置年次 3
単位数 4 期間 通年
担当者 北 脩
履修可能学科
Pc

関連資格

到達目標

自然におこる出来事や自然界に生きる動植物の生態や行動に対して興味関心をもつことができる。

授業計画

1. オリエンテーション
- 2~4. 各自の課題を様々な資料を参考にしながら決定する。
- 5~9. 調査研究の計画を立てる。
- 10~15. 計画に沿って調査・研究を進める。
・定期的に調査研究の途中経過を発表し問題点を洗い出す。
- 16~22. 補足的な調査・研究
- 23~29. 調査研究をまとめ発表する。
30. まとめ

授業概略

このゼミでは、自然界に起こる様々な出来事に対しての好奇心・探究心を呼びさまして「自然を探求する」という作業を進めていきたいと考えています。何を課題とし何を調べるかは基本的には受講生の判断や選択に任せたいと考えています。ちなみにこれまで選択された課題の一部を紹介すると「宮田川および鮎川の水質と底生生物調査」「幼稚園や保育園における食育」「界面活性剤の生物影響」「アレルギーに関する研究」「植物の睡眠運動」「自然の素材を利用した玩具の製作」その他などがあげられます。

教科書

なし

参考書

選択決定した課題ごとに資料を配布します。

成績評価の方法・基準

調査研究に対する姿勢、レポートの内容等を総合的に評価します。

事前準備学習

なし

13110 幼児保育演習 I k (Childcare Seminar I k)

配置年次 3
単位数 4 期間 通年
担当者 佐藤 希久雄
履修可能学科
Pc

関連資格

到達目標

- 幼児や児童の器楽合奏の活動について理解する。
- ・さまざまな楽器が正しく扱えるようになる。
 - ・各楽器の奏法指導法や合奏指導法を理解する。
 - ・簡単な合奏編曲ができるようになる。

授業計画

前期

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

1. ガイダンス
 2. さまざまなリズム打楽器の奏法
 3. リズム楽器を用いた編曲法
 4. さまざまな旋律打楽器の奏法
 5. 旋律打楽器を用いた編曲法
 6. リード楽器類の奏法
 7. リード楽器を用いた編曲法
 - 8～9. 合奏編曲法の実際
 - 10～12. 編曲法の実習
 - 13～14. 編曲された作品の試演と記録
 15. 総括
- 後期
1. リコーダーの奏法と指導法
 2. アルト・リコーダーの奏法
 3. テナーおよびベース・リコーダーの奏法
 - 4～5. リコーダー合奏編曲の実習
 - 6～7. 編曲された作品の試演と記録
 - 8～9. 金管楽器の奏法と指導法
 - 10～11. 金管合奏の体験
 - 12～13. 金管合奏編曲の実習
 14. 編曲された作品の試演と記録
 15. 総括

授業概略

幼児や児童の器楽合奏の活動について扱います。簡単なリズム活動からリード合奏、リコーダー合奏そして金管合奏など、保育・教育現場での指導法や編曲法を学びます。

教科書

随時参考資料や楽譜を配布します。

参考書

随時参考資料や楽譜を配布します。

成績評価の方法・基準

活動への参加状況を見ます。また、随時レポートを課す予定です。

事前準備学習

様々な楽器に親しんでおくこと。
幼児や児童の音楽活動について、積極的に情報を得たり、実際に参観したりしておくこと。

備考

原則として楽器を自分で用意する必要はありません。

- 13 玩具制作 3 (ヤスリと整形)
- 14 玩具制作 4 (着色と塗装)
- 15 玩具制作 5 (発表と提出)

【後期】

- 1 木工技術の基礎と計画 2 <ジグソーパズル>
- 2 玩具制作 1 (テーマとデザイン)
- 3 玩具制作 2 (電動糸鋸機と切断)
- 4 玩具制作 3 (ヤスリと整形)
- 5 玩具制作 4 (木杵)
- 6 玩具制作 5 (着色と塗装)
- 7 玩具制作 6 (発表と提出)
- 8 木工技術の基礎と計画 3 <箱型玩具>
- 9 玩具制作 1 (テーマとデザイン)
- 10 玩具制作 2 (設計と材料)
- 11 玩具制作 3 (木工道具と木取り)
- 12 玩具制作 4 (木工道具と組み立て)
- 13 玩具制作 5 (金具)
- 14 玩具制作 6 (着色と塗装)
- 15 総合発表と相互評価

授業概略

現代の子どもの身边には、常に多くの遊具や玩具があります。子どもは、遊び道具の中で成長するといえるかもしれませんが。そのような遊び道具は、子どもの発達にどのように役立ってきたのでしょうか。この演習では、子どもの生活に密接な関わりがある遊び道具について調べ、子どもの発育におけるその「効果」について考えを深めます。また、実際に木材や自然素材を材料にした積み木やジグソーパズルなどの玩具を制作し、子どもにとって健全で楽しめる玩具の形を探ります。

教科書

教科書はありません。写真資料とプリント資料を使用します。

参考書

なし

成績評価の方法・基準

課題・制作、出席状況・授業態度を総合して評価します。

事前準備学習

なし

備考

材料代 (2千円程度) が必要です。

13110 幼児保育演習 I I

(Childcare Seminar I I)

配置年次 3

単位数 4 期間 通年

担当者 信太 進

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

遊具や玩具について、子どもの発達にどのように影響するか判断し評価することができる。

授業計画

【前期】

- 1 オリエンテーション
- 2 遊び道具と生活
- 3 遊び道具とメディア
- 4 遊び道具と未来
- 5 遊び道具と自然素材
- 6 研究課題 1 (テーマ設定)
- 7 研究課題 2 (調査方法)
- 8 研究課題 3 (中間発表)
- 9 研究課題 4 (発表と提出)
- 10 木工技術の基礎と計画 1 <積木>
- 11 玩具制作 1 (設計と材料)
- 12 玩具制作 2 (ノコギリと切断)

13110 幼児保育演習 I m

(Childcare Seminar I m)

配置年次 3

単位数 4 期間 通年

担当者 佃 彰一郎

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

絵本、紙芝居、カード、粘土造形などを制作し、その作品を掲示することで自己アピールができる。

授業計画

前期

第1回 オリエンテーション

第2、3、4回 孔版(シルクスクリーン)技法によるTシャツの制作。

第5回 絵本、紙芝居の物語と絵画表現の関連性。

第6回 創作絵本、紙芝居の構成方法。

第7、8、9回 絵本の視覚的構築の成り立ち。

第10、11、12、13、14回 1枚の紙による絵本制作。

第15回 作品の発表

後期

第1、2、3回 パステル、アクリル絵の具などの素材研究。

- 第4、5回 絵本、紙芝居の制作に必要な資料の選択。
 第6、7、8回 絵本の制作。
 第9、10、11、12回 紙芝居の制作。
 第13、14回 ポップアップ、飛び出す絵本の制作。
 第15回 作品の発表

授業概略

本来、こどもは創造力があり、絵を描いたり、ものを作ったりすることが大好きです。そして、こどもたちの表現の発達は造形的な教材が大きく関わっています。本講座では Tシャツ・カード・絵本・紙芝居・粘土造形などの制作を通して、こどもたちと私たちの表現技術の発達について考え造形表現の段階、論理的学习法、指導法、「表現の楽しさ」を学んでいきます。

教科書

授業で使用する資料は全て配布する。

参考書

選択したテーマに対して適切な資料が探せるよう助言します。

成績評価の方法・基準

提出作品、そして用具、素材などに対する適切な扱い、片付け、清掃の状況を総合して評価した点数に出席率を乗じて評価します。なお提出期限を過ぎた作品は最低基準点になります。

事前準備学習

造形作品に興味を持ちその制作に意欲的であることが望まれる。

備考

特別な素材（油絵具など）を使用する学生は費用がかかることがあります。

- 第19回 保育園の保育形態について学び理解を深める。
 第20回 保育現場から講師を招いて実践ケースから学ぶ。
 第21回 指導案の作成を学ぶ。
 第22回～第25回 紙芝居、手遊び等を行なう中で保育の技術的要素を学ぶ。
 第26回 児童虐待について学ぶ。児童養護施設について学ぶ。
 第27回 障害児保育について理解を深める。
 第28回 地域にある子育て支援団体等について調べ理解を深める。
 第29回 地域の中で活動している方をお招きし実践ケースから学ぶ。
 第30回 総まとめ。
 ※施設先の都合や講師の先生の都合で多少予定の変更がでる場合がある。

授業概略

こどもについて基本的理解を深める。幼稚園、保育園、認定こども園、児童養護施設について基本的な事を学び理解を深める。学内託児施設、認定こども園を見学し環境や子どもたちの生活の様子や保育士の仕事内容についても学び理解を深める。幼児に必要な教材を学び場合によっては手作りの玩具を製作してみる。児童虐待について学び、幼児の育てられる環境、保護者の状況等についても考えを深める。障害児保育についても学び現在の保育状況について調べてみる。

教科書

必要な資料はすべてこちらで配布する。

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

出席状況、授業態度、レポート、発表回数等、総合的に判断して評価する。

事前準備学習

教育、保育等関連のある本、雑誌、新聞記事等読んでおくことが望ましい。また地域にある幼稚園、保育園、子育て支援施設などの情報を収集し、出来れば見学等しておくことを勧める。

13110 幼児保育演習 I n

(Childcare Seminar I n)

配置年次 3

単位数 4 期間 通年

担当者 飛田 隆

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

幼稚園、保育園、認定こども園、児童養護施設等について基本的な事を適切な資料をもとに説明することができる。子どもを取り巻く環境について適切な教材を使って説明することができる。児童虐待について基本的な知識を身につけることができる。幼稚園、保育園、認定こども園で使う教材について理解し子どもたちの発達に応じて提供することができるようにする。障害児保育について基本的な事を学び資料をもとに説明することができる。地域にある子育て支援の施設についての理解を深め利用することができるようにする。

授業計画

- 第1回 子どもとの関わり方の基礎を学ぶ。
 第2回 幼稚園教師の役割、仕事内容の理解。
 第3回 保育士の役割、仕事の内容の理解。
 第4回 認定こども園について学びを深める。
 第5回 学園託児施設見学、参加。実践を通して学びを深める。
 第6回 学内の認定こども園見学、参加。実践を通して学びを深める。
 第7回～9回 認定こども園の見学、見学して気づいたこと等をテーマとして議論する。
 第10回 認定こども園の制度についても学ぶ。
 第11回～第15回 前期学んだことをまとめ発表する。
 第16回 幼稚園などで使うことが予想される教材の研究。
 第17回 幼稚園の保育形態について学び理解を深める。
 第18回 保育園などで使うことが予想される教材の研究。

13110 幼児保育演習 I o

(Childcare Seminar I o)

配置年次 3

単位数 4 期間 通年

担当者 中島 美那子

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

子どもを取り巻く社会での問題について調べ、分析し、他者に伝えることができる。それらの問題について、保育・幼児教育の現場で何ができるのかについて考える力を養う。

授業計画

前期

- 【第1回】オリエンテーション、テーマの選択
 【第2回】資料作成から発表までの説明
 【第3回】～【第7回】作成した資料をもとに発表、議論
 【第8回】進路、就職活動について
 【第9回】～【第13回】作成した資料をもとに発表、議論
 【第14回】ゲストティーチャーから保育を学ぶ
 【第15回】これまでのまとめ

後期

- 【第1回】それぞれのテーマ選択について
 【第2回】資料作成の方法
 【第3回】～【第12回】作成した資料をもとに発表、議

論

- 【第13回】4年生との交流授業（1） 研究論文発表会
 【第14回】4年生との交流授業（2） 進路、就職活動について

【第15回】学外授業—子育て支援の現場に学ぶ—

授業概略

保育者にとって必要となる視野の拡大、思考の柔軟性を養うために、子どもを取り巻くさまざまな問題について、調査・発表・議論を行います。

前期は受講者全員でいくつかの共通テーマに基づいて考えを深め、後期には受講者一人ひとりが、関心のある個別のテーマに取り組みます。

教科書

授業の中で紹介します。しかし後期は、それぞれが必要な資料を見つけることとなります。

参考書

特になし

成績評価の方法・基準

レポート、授業への積極的参加の様子（発表、討議など）によって総合的に評価します。

事前準備学習

日々、社会で起こっているさまざまな出来事に関心を寄せましょう。

13110 幼児保育演習 I p

(Childcare Seminar I p)

配置年次 3

単位数 4 期間 通年

担当者 原口 なおみ

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

子どもに語るに向くおはなしの特徴を知り、おはなし・絵本を選ぶことができる。お話の構造をつかんで、覚えることができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
 第2回 お話会 演習（1）
 第3回 お話会 演習（2）
 第4回 お話会 演習（3）
 第5回 「覚えること」 レジメ作り
 第6回 覚えて語るおはなし会（1）
 第7回 お話会 演習（4）
 第8回 お話会 演習（5）
 第9回 お話会 演習（6）
 第10回 覚えて語るおはなし会（2）
 第11回 お話会 演習（7）
 第12回 お話会 演習（8）
 第13回 お話会 演習（9）
 第14回 お話会 演習（10）
 第15回 覚えて語るおはなし会（3）
 第16回 作家研究 中川季枝子 松岡享子
 第17回 お話会 演習（11）
 第18回 お話会 演習（12）
 第19回 お話会 演習（13）
 第20回 覚えて語るおはなし会（4）
 第21回 お話会 演習（14）
 第22回 お話会 演習（15）
 第23回 お話会 演習（16）
 第24回 お話会 演習（17）
 第25回 覚えて語るおはなし会（5）
 第26回 お話会 演習（18）
 第27回 お話会 演習（19）
 第28回 お話会 演習（20）

第29回 「選ぶこと」 レジメ発表

第30回 わらべうた実習

授業概略

ストーリーテリングの理論を学び、おはなしを覚えて語る。テキストの講読によって理論を学ぶと同時に、絵本・お話を朗読して耳から作品を味わい、覚えるおはなしを選ぶ。一年間で二話以上を覚え、自分のものにして語る。詩や絵本・わらべうたと組み合わせるとお話会のプログラムを立て発表する。学外でのお話会に聞き手として参加し、おはなしを聞く耳を育てる。

教科書

松岡享子著『楽しいお話シリーズ3「選ぶこと」1982年・4「覚えること」1979年』（東京子ども図書館刊行）各500円程度、『えほんのせかい こどものせかい』1987年（日本エディタースクール出版部）1600円

参考書

授業中に適宜紹介します。

成績評価の方法・基準

平常点：授業への誠実な参加（上手に語るのではなく、自分にあったお話を探し、自分のものにする）および、授業内容をポイントを抑えて記録できるか（毎回授業記録を提出する）を評価する。

レポート：担当したおはなし会のレポート年間2通、ブックレポート年間3通、学外のお話会に参加したレポート年間2通

事前準備学習

担当するおはなし会のプログラムを立てるため、日ごろから絵本・昔話・子どものための詩集を読み、わらべうた・手遊びなどを意欲的に吸収しておくことが望ましい。

13110 幼児保育演習 I q

(Childcare Seminar I q)

配置年次 3

単位数 4 期間 通年

担当者 細川 美由紀

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

発達障害に関わる心理学のトピックスについて自ら調べ、説明することができる。

授業計画

- 第1回、オリエンテーション
 第2回、発達障害とは
 第3回、文献検索の方法
 第4回、発表テーマの決定
 第5回、発表資料の作成（1）
 第6回、発表資料の作成（2）
 第7回、発表資料の作成（3）
 第8回、テーマごとの発表・討論（1）
 第9回、テーマごとの発表・討論（2）
 第10回、テーマごとの発表・討論（3）
 第11回、テーマごとの発表・討論（4）
 第12回、テーマごとの発表・討論（5）
 第13回、テーマごとの発表・討論（6）
 第14回、テーマごとの発表・討論（7）
 第15回、前期のまとめ
 第16回、後期の活動についてのガイダンス
 第17回、調査の方法（1）観察法
 第18回、調査の方法（2）エピソード記述の書き方
 第19回、学校見学・参加に向けて
 第20回、学校見学・参加（第1回）
 第21回、学校見学・参加の振り返り
 第22回、学校見学・参加（第2回）
 第23回、学校見学・参加のまとめ

- 第24回、調査の方法（3）質問紙法
- 第25回、調査の方法（4）面接法
- 第26回、調査の方法（5）実験法
- 第27回、卒論・ゼミ論のガイダンス
- 第28回、卒論・ゼミ論のテーマ検討（1）
- 第29回、卒論・ゼミ論のテーマ検討（2）
- 第30回、卒論・ゼミ論最終報告会

授業概略

前期は現在の発達障害の支援に関する課題についてテーマを設定し、複数の資料をもとに調べて発表するグループワークを中心に行います。後期は前期の学びを踏まえ、特別支援学校での見学・参加を通してより実践的な教育方法について学びます。さらに来年度の卒論・ゼミ論執筆に向けてインタビュー・観察・実験などの手法を用いた調査の方法もあわせて学びます。

教科書

適宜紹介しますが、基本的に自身で資料収集することが求められます。

参考書

特になし

成績評価の方法・基準

授業への参加度・レジュメやレポートの内容を総合的に評価します。

事前準備学習

特になし

備考

対象の理解は、机上の学習のみでは成立しません。よって、ボランティア・実習等で実際に障がいをもつ方たちと関わる経験をした人、これまでの経験はなくても今後、積極的に関わる意志のある方が望ましいです。

13110 幼児保育演習 I s

(Childcare Seminar I s)

配置年次 3

単位数 4 期間 通年

担当者 宮内 久絵

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

- ・適切な資料を収集し、自分の考えをまとめ、他者に伝えることができる
- ・障害や障害児・者に関連するテーマを多角的な視点から考えることができる

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション
- 2-3. テーマの設定
- 4-6. 文献検索・収集の基礎
7. 発表準備
- 8-9. 発表、ディスカッション
- 10-12. レポートの書き方、プレゼンテーションの方法
13. 発表準備
- 14-15. 発表、ディスカッション

【後期】

- 16-18. テーマの設定
- 19-21. 文献調査
22. 中間報告、ディスカッション
- 23-25. 文献調査・実地調査
26. 中間報告、ディスカッション
- 27-28. 発表準備
- 29-30. 発表

授業概略

障害や障害児・者に関連するテーマを各自選び、その実態や課題について、背景にある理念、制度、歴史など多角的

な視点から主に文献を用いて検討します。また、発表やディスカッションを通し、第三者にわかりやすく物事を伝える方法について学びます。なお、必要に応じて現場見学や関連分野の専門家に直接話を聞く機会を設けます。ゼミではこうした活動を通して、広い視野で物事を理解する力、論理的に物事を伝える技術、異なる考え方を尊重する姿勢を身につけることを目的とします。

教科書

必要に応じて随時授業内で紹介します。

参考書

必要に応じて随時授業内で紹介します。

成績評価の方法・基準

出席状況、授業態度、提出物、レポートから総合的に評価します。

事前準備学習

なし

13111 幼児保育演習 II a

(Childcare Seminar II a)

配置年次 4

単位数 4 期間 通年

担当者 池内 耕作

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

教育改革に関わる様々な命題について、これまでの論争を把握・整理し、確かな資料と根拠に基づいて自身の見解を明確に主張することができる。

授業計画

※テーマは毎年変わります。以下はその一例です。

- 【第01回】当事者が「いじめ」と言ったら「いじめ」である
- 【第02回】体罰を公認するべきだ
- 【第03回】ホーム・スクーリングを認めよ
- 【第04回】「国を愛する心」を法律で謳うべきではない
- 【第05回】青年に兵役義務を課すべきである。
- 【第06回】学校間競争・教師観競争が教育の底上げにつながる
- 【第07回】少年犯罪者の実名を報道せよ
- 【第08回】小学校にパソコン教育はいらない
- 【第09回】英国型アカウンタビリティ政策を導入せよ
- 【第10回】問題教員はすぐにやめさせる
- 【第11回】できるが先、わかるは後
- 【第12回】学校評議員に児童・生徒代表を入れよ
- 【第13回】しつけは家でやれ
- 【第14回】教科書・黒板をデジタル化せよ
- 【第15回】支援ではなく指導せよ
- 【第16回以降】自由選択課題

授業概略

各回の発表担当者を2名定めます。

この2名は話し合いによってテーマを決め、賛成派・反対派に分かれ、それぞれ資料を作成して発表してもらいます。その後、池内が補足を行ないつつ、全員で討論します。

教科書

なし

参考書

各テーマの討論後、読んでほしい書籍や資料を紹介します。

成績評価の方法・基準

次の3つの観点から総合的に評価します。

- (1) 担当した回の資料作成、発表、質疑応答の能力
- (2) 全体討論における貢献度（出席状況、質疑・意見の内容、他者の意見の建設的解釈、等）
- (3) 前期末・後期末、計2回提出のレポート

事前準備学習

少なくとも教育にかかわる報道については毎日チェックす

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

る習慣を身に着けておくこと。
発表資料やレポートの作成における「盗作」「剽窃」について事前に自習しておくこと。

13111 幼児保育演習Ⅱc (Childcare Seminar II c)

配置年次 4
単位数 4 期間 通年
担当者 石田 隆雄
履修可能学科
Pc
関連資格
到達目標

教育や人間の発達について課題意識をもち、それを自ら論理的に深め、小論文としてまとめることができる。またそれを他者にわかりやすく説明するためのプレゼンテーションの工夫ができるようにする。

授業計画

<前期>

- 【第01回】本講座の達成目標と授業概要、小論文の書き方、様式の説明
- 【第02回】～【第04回】小論文のテーマの設定・口頭発表・議論
- 【第05回】～【第15回】テーマに関する既に発表されている関係論文・資料の紹介と議論

<後期>

- 【第16回】～【第21回】研究中間発表と議論
- 【第22回】～【第23回】論文のまとめ
- 【第24回】～【第29回】論文のプレゼンテーション
- 【第30回】論文提出とまとめ

授業概略

本講座は、演習Ⅰ（3年）の基礎的学習をふまえて、教育や人間の発達について興味・関心のある研究テーマを各自で決定し、そのテーマにそって資料や文献を根拠に問題の明確化をはかり、小論文としてまとめます。それを他者にわかりやすく伝えるための学習として研究成果のプレゼンテーションを行います。

教科書

自作プリントの配布

参考書

参考図書、資料等は、授業の中で紹介します。

成績評価の方法・基準

出席状況、提出物、発表内容、小論文から総合的に判定します。

事前準備学習

なし

13111 幼児保育演習Ⅱe (Childcare Seminar II e)

配置年次 4
単位数 4 期間 通年
担当者 江尻 桂子
履修可能学科
Pc
関連資格
到達目標

「自己や他者を理解し、支援する」というテーマのもと、心理学や福祉、医療、教育等の分野において興味のあるテーマを各自で定め、それについて文献研究や事例研究、調査研究等を行います。それらの集大成として、卒業論文または卒業レポートを作成し、発表することを目標とします。

授業計画

前期

- 第1回、この授業の到達目標と概略
- 第2回、卒業論文の作成方法（1）構成
- 第3回、卒業論文の作成方法（2）執筆の手順
- 第4回、卒業論文の作成方法（3）研究方法
- 第5回、卒業論文の作成方法（4）執筆の具体的な方法
- 第6回、研究手法の解説（1）調査研究
- 第7回、研究手法の解説（2）事例研究
- 第8回、研究手法の解説（3）文献研究
- 第9回、研究手法の解説（4）研究倫理
- 第10回、卒論構成発表（1）
- 第11回、卒論構成発表（2）
- 第12回、卒論構成発表（3）
- 第13回、卒論構成発表（4）
- 第14回、卒論構成発表（5）
- 第15回、卒論作成方法と研究手法の総まとめ

後期

- 第1回、この授業の到達目標と概略
- 第2回、卒業論文中間報告（1）
- 第3回、卒業論文中間報告（2）
- 第4回、卒業論文中間報告（3）
- 第5回、卒業論文中間報告（4）
- 第6回、卒業論文中間報告（5）
- 第7回、卒業論文中間報告（6）
- 第8回、卒業論文中間報告（7）
- 第9回、プレゼンテーション技法の解説（1）
- 第10回、プレゼンテーション技法の解説（2）
- 第11回、卒論発表会の準備の進め方
- 第12回、卒業論文最終発表会（1）
- 第13回、卒業論文最終発表会（2）
- 第14回、卒業論文の振り返りと反省会
- 第15回、卒業研究・論文の総まとめ

授業概略

社会には、さまざまな問題があります。親子関係、夫婦関係といった家族の問題、また、障がい児・者の問題、心に悩みを抱えた子ども、生きづらさを感じている青年の問題、不登校や非行、フリーターやニートの問題、育児や高齢者介護の問題など、これまでの学びのなかで皆さんも様々な問題に関心を寄せてきたことと思います。この演習では、「自己や他者を理解する」ことを目標にしながらも、心理学や福祉という枠組みにとらわれず、皆さんのひとりひとりの問題意識を大切にします。具体的には、各自が3年次の演習Ⅰ後期で行った発表をもとに、今度は、それについて、さらに研究を深め、実際に卒業論文または卒業レポートという形にしていきます。

教科書

授業に関連する資料は全て配布します。

参考書

授業中に適宜紹介します。

成績評価の方法・基準

授業への出席、参加態度、発表、レポートを総合して、成績を評価します。前期に1/3以上欠席または後期に1/3以上欠席した場合、いずれも成績評価することはできません。

事前準備学習

3年次での研究をもとに、各自、卒論の構成を考えておくといでしょう。

備考

履修にあたっては原則的に3年次から継続履修者を優先させます。

13111 幼児保育演習Ⅱf (Childcare Seminar II f)

配置年次 4
単位数 4 期間 通年
担当者 大島 孝子

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

1. 集団心理療法「心理劇」の体験を通して、自らの自発性、創造性を育て、子どもと生き生きと関わることのできる自分づくりを目指す。
2. 子育て支援講座において、各々の役割を遂行する。

授業計画

前期

1. 心理劇の体験 ウォーミングアップの体験 (1)
2. 心理劇の体験 ウォーミングアップの体験 (2)
3. 全員参加の心理劇 (1)
4. 全員参加の心理劇 (2)
5. 子育て支援講座の意義
6. 子育て支援講座の計画
7. 保育における環境構成
8. チーム保育の実践 (1)
9. チーム保育の実践 (2)
10. 子育て支援講座 (1)
11. 子育て支援講座 (2)
12. 子育て支援講座 (3)
13. 実践の振り返り (1)
14. 実践の振り返り (2)
15. 課題の発見

後期

1. 研究課題の発見
2. 研究課題の実践報告 (1)
3. 研究課題の実践報告 (2)
4. 研究課題の実践報告 (3)
5. 研究課題の実践報告 (4)
6. 研究課題の実践報告 (5)
7. 研究課題の実践報告 (6)
8. 子どもの心の理解 (1)
9. 子どもの心の理解 (2)
10. 子どもの心の理解 (3)
11. 集団保育と保育者の役割 (1)
12. 集団保育と保育者の役割 (2)
13. 保育の指導法 (1)
14. 保育の指導法 (2)
15. まとめ

授業概略

人間関係力を高め、心理劇の活動事例を通して、互いの考えを知り新たな物の見方の発見につながればと考えています。また、子育て支援講座や保育実習・教育実習を振り返り、各自の課題を見つけ深めるために、課題解決のための心理劇を実施していきます。

前期には、子育て支援講座を実際に開きますので、そこでのチーム保育の実践は、自己の課題を明確化する手助けになると思います。

後期は、各自の進路に向けて、より具体的な研究課題を深めていきましょう。

教科書

大島孝子共著『共に育つ 一人間探求の児童学―』(宣協社)

参考書

- j.l.モレノ著、増野肇監訳『サイコドラマ』(白揚社)
- 浜田駒子著『家庭科における心理劇の実践』(家政教育社)
- 佐藤啓子編集『現代のエスプリ 人間関係力シリーズ 人間関係の危機と現実』(至文堂)

成績評価の方法・基準

出席状況、毎回の振り返り感想、レポートなどを総合して評価します。

事前準備学習

演習に向けて資料等の準備を怠らないこと。
教師が配る資料をよく読みこんでおくこと。

13111 幼児保育演習Ⅱg

(Childcare Seminar II g)

配置年次 4

単位数 4 期間 通年

担当者 川本 欣治

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

それぞれの民話の持つ背景を捉え、民話の表現の特長を生かしたり、自分の個性を生かしたりして民話の語りができる。

授業計画

- 1 民話とは何か、語りとは何かの概要と学習方法
- 2 日本の民話と西欧の民話の風土的背景の相違
- 3 日本の民話の語りにおける表現の特長について
- 4 日本の各地の民話を読む
- 5 各自の課題民話選択
- 6 課題民話の表現方法についての実践的学習
- 7 課題民話の表現方法についての実践的学習
- 8 課題民話の表現方法についての実践的学習
- 9 課題民話の表現方法についての実践的学習
- 10 課題民話の表現方法についての実践的学習
- 11 課題民話の表現方法についての実践的学習
- 12 現場(幼稚園・小学校)での発表
- 13 現場(幼稚園・小学校)での発表
- 14 現場発表の反省
- 15 まとめとテスト

授業概略

民話は、特別な人がつくった物語ではなく、囲炉裏端などで庶民が語り伝えてきたものです。しかし、その物語の一つ一つには、厳しい日常を生き抜く中で、庶民の優しさ、哀しみ、力強さ、ユーモアなどが秘められています。

この、民話一つ一つに込められた庶民の生活背景等を考えながら、その心を探り、民話独特の表現方法の特長を学び、各自が表現方法を工夫して実際に子どもたちに語ります。

教科書

俳優 沼田曜一氏の作品を中心とし、適宜、資料を配布する。

参考書

適宜、紹介する。

成績評価の方法・基準

現場(幼稚園、保育園)発表とそれに関するテスト 80パーセント、実践的学習 20パーセントとし、出席・遅刻回数、授業態度を加味する。

事前準備学習

さまざまな日本の民話を読んだり、聞いたりする。

13111 幼児保育演習Ⅱh

(Childcare Seminar II h)

配置年次 4

単位数 4 期間 通年

担当者 北 脩

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

自然におこる出来事や自然界に生きる動植物の生態や行動に対して興味関心をもつことができる。

授業計画

- 1、オリエンテーション
- 2～4、各自の課題を様々な資料を参考にしながら決定する。
- 5～9、調査研究の計画を立てる。

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

- 10～15、計画に沿って調査・研究を進める。
 ・定期的に調査研究の途中経過を発表し問題点を洗い出す。
 16～22、補足的な調査・研究
 23～29、調査研究をまとめ発表する。
 30、まとめ

授業概略

このゼミでは、自然界に起こる様々な出来事に対しての好奇心・探究心を呼びさまして「自然を探究する」という作業を進めていきたいと考えています。何を課題とし何を調べるかは基本的には受講生の判断や選択に任せたいと考えています。ちなみにこれまで選択された課題の一部を紹介すると「宮田川および鮎川の水質と底生生物調査」「幼稚園や保育園における食育」「界面活性剤の生物影響」「アレルギーに関する研究」「植物の睡眠運動」「自然の素材を利用した玩具の製作」その他などがあげられます。

教科書

なし

参考書

選択決定した課題ごとに資料を配布します。

成績評価の方法・基準

調査研究に対する姿勢、レポートの内容等を総合的に評価します。

事前準備学習

なし

13111 幼児保育演習Ⅱ k

(Childcare Seminar II k)

配置年次 4

単位数 4 期間 通年

担当者 佐藤 希久雄

履修可能学科

Pc

関連資格**到達目標**

- 幼児や児童の器楽合奏の活動について理解する。
 ・さまざまな楽器が正しく扱えるようになる。
 ・各楽器の奏法指導法や合奏指導法を理解する。
 ・簡単な合奏編曲ができるようになる。

授業計画**前期**

1. ガイダンス
2. さまざまなリズム打楽器の奏法
3. リズム楽器を用いた編曲法
4. さまざまな旋律打楽器の奏法
5. 旋律打楽器を用いた編曲法
6. リード楽器類の奏法
7. リード楽器を用いた編曲法
- 8～9. 合奏編曲法の実際
- 10～12. 編曲法の実習
- 13～14. 編曲された作品の試演と記録
15. 総括

後期

1. リコーダーの奏法と指導法
2. アルト・リコーダーの奏法
3. テナーおよびベース・リコーダーの奏法
- 4～5. リコーダー合奏編曲の実習
- 6～7. 編曲された作品の試演と記録
- 8～9. 金管楽器の奏法と指導法
- 10～11. 金管合奏の体験
- 12～13. 金管合奏編曲の実習
14. 編曲された作品の試演と記録
15. 総括

授業概略

幼児や児童の器楽合奏の活動について扱います。簡単なり

ズム活動からリード合奏、リコーダー合奏そして金管合奏など、保育・教育現場での指導法や編曲法を学びます。

教科書

随時参考資料や楽譜を配布します。

参考書

随時参考資料や楽譜を配布します。

成績評価の方法・基準

活動への参加状況を見ます。また、随時レポートを課す予定です。

事前準備学習

様々な楽器に親しんでおくこと。幼児や児童の音楽活動について、積極的に情報を得たり、実際に参観したりしておくこと。

備考

原則として楽器を自分で用意する必要はありません。

13111 幼児保育演習Ⅱ l

(Childcare Seminar II l)

配置年次 4

単位数 4 期間 通年

担当者 信太 進

履修可能学科

Pc

関連資格**到達目標**

遊具や玩具について、その素材や構造から、子どもの発達にどのように影響するか判断し評価することができる。

授業計画**【前期】**

1. オリエンテーション
2. 研究課題1 (テーマ設定)
3. 研究課題2 (資料収集)
4. 研究課題3 (中間発表a)
5. 研究課題4 (中間発表b)
6. 研究課題5 (発表)
7. 木工玩具の創作と計画1 (箱型玩具と動く玩具)
8. 玩具制作1 (設計と材料)
9. 玩具制作2 (木工道具と木取り)
10. 玩具制作3 (木工道具と組み立てa)
11. 玩具制作4 (木工道具と組み立てb)
12. 玩具制作5 (金具)
13. 玩具制作6 (着色と塗装)
14. 玩具制作7 (改良)
15. 玩具制作8 (発表と提出)

【後期】

1. 木工玩具の創作と計画2 (自由テーマa)
2. 玩具制作1 (設計と材料)
3. 玩具制作2 (木取り)
4. 玩具制作3 (接合)
5. 玩具制作4 (金具)
6. 玩具制作5 (着色と塗装)
7. 玩具制作6 (発表と提出)
8. 木工玩具の創作と計画3 (自由テーマb)
9. 玩具制作1 (設計と材料)
10. 玩具制作2 (木取り)
11. 玩具制作3 (接合)
12. 玩具制作4 (金具)
13. 玩具制作5 (着色と塗装)
14. 玩具制作6 (発表と提出)
15. 総合発表と相互評価

授業概略

演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだことをもとに、子どもの発育における遊び道具の「効果」について考察を深め研究課題をレポートにまとめたり、完成度の高い玩具制作に取り組んだりします。

教科書

教科書はありません。映像資料とプリント資料を使用します。

参考書

なし

成績評価の方法・基準

課題・制作と、出席状況・授業態度を総合して評価します。

事前準備学習

なし

備考

材料代（3千円程度）が必要です。

13111 幼児保育演習Ⅱ m (Childcare Seminar II m)

配置年次 4

単位数 4 期間 通年

担当者 佃 彰一郎

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

絵本、紙芝居、カード、粘土造形などを制作し、その作品を掲示することで自己アピールができる。

授業計画

前期

第1回 オリエンテーション

第2、3、4回 孔版（シルクスクリーン）技法によるTシャツの制作。

第5回 絵本、紙芝居の物語と絵画表現の関連性。

第6回 創作絵本、紙芝居の構成方法。

第7、8、9回 絵本の視覚的構築の成り立ち。

第10、11、12、13、14回 1枚の紙による絵本制作。

第15回 作品の発表

後期

第1、2、3回 パステル、アクリル絵の具などの素材研究。

第4、5回 絵本、紙芝居の制作に必要な資料の選択。

第6、7、8回 絵本の制作。

第9、10、11、12回 紙芝居の制作。

第13、14回 ポップアップ、飛び出す絵本の制作。

第15回 作品の発表

授業概略

本来、こどもは創造力があり、絵を描いたり、ものを作ったりすることが大好きです。そして、こどもたちの表現の発達は造形的な教材が大きく関わっています。本講座では Tシャツ・カード・絵本・紙芝居・粘土造形などの制作を通して、こどもたちと私たちの表現技術の発達について考え造形表現の段階、論理的学習法、指導法、「表現の楽しさ」を学んでいきます。

教科書

授業で使用する資料は全て配布する。

参考書

選択したテーマに対して適切な資料が探せるよう助言します。

成績評価の方法・基準

提出作品、そして用具、素材などに対する適切な扱い、片付け、清掃の状況を総合して評価した点数に出席率を乗じて評価します。なお提出期限を過ぎた作品は最低基準点になります。

事前準備学習

造形作品に興味を持ちその制作に意欲的であることが望まれる。

備考

特別な素材（油絵具など）を使用する学生は費用がかかることがあります。

13111 幼児保育演習Ⅱ n (Childcare Seminar II n)

配置年次 4

単位数 4 期間 通年

担当者 飛田 隆

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

幼稚園、保育園、認定こども園、障害児施設、児童養護施設等について適切な資料をもとに説明することができる。子どもを取り巻く環境について適切な教材を使って説明することができる。幼稚園、保育園、認定こども園、児童養護施設等基本的な事を学んだ上でボランティアをして学びを深めることができる。児童虐待について知識を身につけることができる。幼稚園、保育園、認定こども園で使う教材について理解し子どもたちの発達に応じて提供することができる。障害児保育について学び資料をもとに説明することができる。地域にある子育て支援の施設についての理解を深め利用することができる。

授業計画

第1回 幼児保育演習Ⅰで学んだことの振り返り。ボランティア先の検討。

第2回 地域にある幼稚園、保育園、施設について調べる。

第3回 認定こども園の見学、認定こども園の制度についても学ぶ。

第4回 幼稚園教育について制度、環境、教材等を学ぶ。

第5回 保育園について制度、環境、教材等を学ぶ。

第6回 興味関心のある教育、保育等について調べ発表する。

第7回～第9回 進路に応じたボランティア先での実践成果をまとめ中間発表する。

第10回 障害児保育について学ぶ。

第11回 児童虐待について学ぶ。

第12回 子どもの園内事故について学ぶ。

第13回・第14回 前期ボランティアについてまとめ発表する。

第15回 前期の総まとめをする。

第16回 前期の課題の振り返る。

第17回 紙芝居、手遊び、ゲーム等について実践をする。

第18回～第20回 一人一人の進路先に応じた指導案を作成し発表をする。

第21回 軽度発達障害児について学ぶ。

第22回 障害児施設について学ぶ。

第23回～第25回 テーマごとにグループに分かれて指導案を作成し発表をする。

第26回 紙芝居や絵本の選び方を学ぶ。

第27回 地域から子育て支援等の活動している方を招いて実践ケースから学びを深める。

第28回 現在の保育を取り巻く環境について学ぶ。

第29回・第30回 学んだことの発表・一年間の総まとめ。※施設先や講師の都合により多少予定の変更がでる場合がある。

授業概略

こどもについて理解を深める。幼稚園、保育園、認定こども園、障害児施設、児童養護施設について学び理解を深める。ボランティアを通して環境や子どもたちの生活の様子や保育士の仕事内容についても学び理解を深める。幼児に必要な教材を選び場合によっては手作りの玩具を製作する。児童虐待について学び、幼児の育てられる環境、保護者の状況等についても考えを深める。障害児保育についても学び現在の保育状況について調べてみる。教育保育に関するテーマを選び発表し討論する。

教科書

必要な資料は配布する。

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

出席、発表、討論への関わり、レポート、授業態度等総合的に判断する。

事前準備学習

教育、保育、子どもに関係することについて本、雑誌、新聞等を読んでおくことが望ましい。

13111 幼児保育演習Ⅱ o

(Childcare Seminar II o)

配置年次 4

単位数 4 期間 通年

担当者 中島 美那子

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

演習Ⅰで自ら興味を持ち深めたテーマについて、さらに調査し、分析する力をつけることができる。現代の保育臨床について造詣を深めることができる。

授業計画

前期

- 【第1回】 オリエンテーション
- 【第2回】 研究の進め方 (1) 論文とは、論文の構成
- 【第3回】 研究の進め方 (2) テーマ選択、領域の下調べ
- 【第4回】 研究の進め方 (3) 資料収集、資料の読み方
- 【第5回】 研究の進め方 (4) テーマについて話し合う
- 【第6回】 研究の進め方 (5) アウトラインを考える
- 【第7回】 就職活動について
- 【第8回】 ～【第13回】 作成したアウトライン、資料をもとに発表、議論
- 【第14回】 学外研修 保健センターの機能を知る
- 【第15回】 これまでのまとめ

後期

- 【第1回】 それぞれのテーマ選択、アウトラインについて再確認
- 【第2回】 ～【第5回】 作成した資料をもとに発表、議論
- 【第6回】 学外研修 子育てにおける地域の役割を知る
- 【第7回】 ～【第12回】 作成した資料をもとに発表、議論
- 【第13回】 3年生との交流授業 (1) 研究論文発表会
- 【第14回】 3年生との交流授業 (2) 就職活動について
- 【第15回】 2年間の総まとめ

授業概略

受講者それぞれが、調査・研究を進めているものを発表し、その内容について全員で議論します。

各自、議論の中で抽出された課題について更なる探究を進め、再び発表を通して皆で共有していきます。最終的には、各自が論文形式で執筆し、ゼミ内の論文集を作成します。

また、学外研修として、子育て支援の現場(保健センターなど)に赴き、実践からの学びも深めます。

教科書

各自が必要な資料を見つけることを前提とします。ただし、重要と思われる資料は適宜、配布します。

参考書

特になし

成績評価の方法・基準

調査・研究の内容、発表、議論への参加意欲により総合的に評価します。

事前準備学習

特になし

13111 幼児保育演習Ⅱ p

(Childcare Seminar II p)

配置年次 4

単位数 4 期間 通年

担当者 原口 なおみ

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

子どものおはなしの聴き方について学び、子どもが聴いて満足できるおはなしを語るができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 お話会 演習 (1)
- 第3回 お話会 演習 (2)
- 第4回 お話会 演習 (3)
- 第5回 覚えて語るおはなし会 (1)
- 第6回 お話会 演習 (4)
- 第7回 お話会 演習 (5)
- 第8回 お話会 演習 (6)
- 第9回 お話会 演習 (7)
- 第10回 覚えて語るおはなし会 (2)
- 第11回 お話会 演習 (8)
- 第12回 お話会 演習 (9)
- 第13回 お話会 演習 (10)
- 第14回 覚えて語るおはなし会 (3)
- 第15回 わらべうたの指導演 (1)
- 第16回 作家研究 石井桃子 リンドグリーン
- 第17回 お話会 演習 (11)
- 第18回 お話会 演習 (12)
- 第19回 お話会 演習 (13)
- 第20回 覚えて語るおはなし会 (4)
- 第21回 お話会 演習 (14)
- 第22回 お話会 演習 (15)
- 第23回 お話会 演習 (16)
- 第24回 お話会 演習 (17)
- 第25回 覚えて語るおはなし会 (5)
- 第26回 お話会 演習 (18)
- 第27回 お話会 演習 (19)
- 第28回 お話会 演習 (20)
- 第29回 わらべうたの指導演 (2)
- 第30回 卒業研究発表会

授業概略

自分の進路を考えて、聞き手となる子どもに合わせてプログラムを立て、おはなし会を行う。実践記録を参考にし、古典的な児童文学を読み、作品と子どもの反応を理解し、子どもの読書体験の意味を考える。月1回のおはなし会には、覚えて語る。

教科書

中村 柊子 著 『絵本はともだち』 1997年 (大和書房)

参考書

- 石井桃子 著『子どもの図書館』(岩波新書) 1965年
- 脇明子 著『読む力は生きる力』 2005年・『物語が生きる力を育てる』 2008年 (岩波書店)
- ドロシー・バトラー 著『クシュラの奇跡』(のら書店) 2006年

成績評価の方法・基準

平常点：自分の担当したお話会を、学んだ理論を踏まえ、十分に作品を研究し、適切なプログラムを構成できたかどうか、および、毎回の授業を、ポイントをおさえて記録できたかどうか (授業記録を毎回提出) を評価する。

レポート：授業以外のお話会に参加したレポート年間2通、ブックレポート年間2通

夏休みの課題：作家研究 石井桃子・リンドグリーン

事前準備学習

覚えて語るおはなし会のために、子どもの反応を予測して

ふさわしいお話をを選び、十分時間をかけて、しっかり自分のものにする必要があります。

13111 幼児保育演習Ⅱ q

(Childcare Seminar II q)

配置年次 4

単位数 4 期間 通年

担当者 細川 美由紀

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

各自で設定したテーマに沿って資料収集・調査を行い、論文にまとめることができる

授業計画

- 第1回、オリエンテーション
- 第2回、卒論・ゼミ論テーマ設定(1)
- 第3回、卒論・ゼミ論テーマ設定(2)
- 第4回、卒論・ゼミ論テーマ設定(3)
- 第5回、卒論・ゼミ論の進行状況報告および討論(1)
- 第6回、卒論・ゼミ論の進行状況報告および討論(2)
- 第7回、卒論・ゼミ論の進行状況報告および討論(3)
- 第8回、卒論・ゼミ論の進行状況報告および討論(4)
- 第9回、卒論・ゼミ論の進行状況報告および討論(5)
- 第10回、卒論・ゼミ論の進行状況報告および討論(6)
- 第11回、卒論・ゼミ論の進行状況報告および討論(7)
- 第12回、卒論・ゼミ論の進行状況報告および討論(8)
- 第13回、卒論・ゼミ論の進行状況報告および討論(9)
- 第14回、卒論・ゼミ論の進行状況報告および討論(10)
- 第15回、前期のまとめ
- 第16回、後期のガイダンス
- 第17回、卒論・ゼミ論の構成(1)
- 第18回、卒論・ゼミ論の構成(2)
- 第19回、卒論・ゼミ論の構成(3)
- 第20回、卒論・ゼミ論中間報告
- 第21回、卒論・ゼミ論の書式について
- 第22回、卒論・ゼミ論進行状況報告および討論(1)
- 第23回、卒論・ゼミ論進行状況報告および討論(2)
- 第24回、卒論・ゼミ論進行状況報告および討論(3)
- 第25回、卒論・ゼミ論進行状況報告および討論(4)
- 第26回、卒論・ゼミ論進行状況報告および討論(5)
- 第27回、卒論・ゼミ論仮提出
- 第28回、卒論・ゼミ論提出・最終報告会のガイダンス
- 第29回、最終報告会に向けて
- 第30回、卒論・ゼミ論最終報告会

授業概略

前期は各自のテーマに沿った発表を順番で行います。発表の内容は、先行研究論文の紹介や、研究方法のまとめ、観察記録の紹介など、各自の研究手法によって異なります。また、ゼミのメンバーの発表内容に関して全員で討論することにより、問題意識を共有する活動も併せて行います。後期は、具体的な論文執筆の準備と執筆を行います。

教科書

適宜紹介しますが、基本的に自身で資料収集することが求められます。

参考書

特になし

成績評価の方法・基準

授業への参加度・レジュメやレポートの内容を総合的に評価します。

事前準備学習

特になし

13111 幼児保育演習Ⅱ t

(Childcare Seminar II t)

配置年次 4

単位数 4 期間 通年

担当者 渡部 芳樹

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

[目的]

教育哲学の観点に立ち、教育の本質を探究するための知識、技法および態度の習得を目指す。

授業計画

1. 前期オリエンテーション
2. デューイに関する若干の解説—『学校と社会』を読む(1)—
3. 学校と社会進歩(第1章)—“(2)—
4. 学校と社会進歩(第1章)—“(3)—
5. 学校と子どもの生活(第2章)—“(4)—
6. 学校と子どもの生活(第2章)—“(5)—
7. 教育における浪費(第3章)—“(6)—
8. 教育における浪費(第3章)—“(7)—
9. 初等教育の心理学(第4章)—“(8)—
10. フレーベルの教育原理(第5章)—“(9)—
11. 仕事の心理学(第6章)—“(10)—
12. 注意力の発達(第7章)—“(11)—
13. 初等教育における歴史科の目的(第8章)—“(12)—
14. 『学校と社会』の再考
15. 論文作成の課題に関する解説
1. 後期オリエンテーション
2. 論文作成の課題に関する報告(1)
3. “(2)
4. 各議題に基づく討論(1)
5. “(2)
6. “(3)
7. “(4)
8. “(5)
9. “(6)
10. “(7)
11. 論文の作成(1)
12. “(2)
13. “(3)
14. 研究発表会
15. 演習および論文の再考

授業概略

[内容][方法]

本演習では、教育哲学の観点に立ち、教育に関わる基礎的な事象(子供、学習、学校、教科書、個性…)を問いなおすことを通じて、教育の本質を探究するための知識、技法および態度について学ぶ。前期・後期に分けて、以下の内容をおこなう。前期は「テキストの輪読」をおこなう。主に教育学の古典・基礎的文献を取り上げ、そこに発せられる問いの内容と背景(歴史的・地理的・思想的背景)を読み解いてゆく。後期は、「各自の論文テーマに基づく討論」をおこなう。4年生は卒業研究(論文)、3年生は卒業研究へと繋がるゼミ論文を作成するが、そのテーマに沿った議題を担当者が用意し、それについてメンバーと共に討論をおこなう。前期・後期共に、各回担当者がレジュメを作成・報告し、演習形式で授業をおこなう。

教科書

ジョン・デューイ(市村尚久訳)、『学校と社会・子どもとカリキュラム』、講談社学術文庫

参考書

なし ※資料等は受講者自身が収集をおこなう。助言や指示等は授業時に与える。

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

成績評価の方法・基準

〔評価〕

授業態度と口頭発表の内容(40%)、および学期末のレポートの内容(60%)により評価する。

事前準備学習

〔注意〕

1. チームワークが肝心である。したがって、遅刻・欠席は認めない。
2. 授業時間外、特に長期休暇中にも作業をおこなう必要がある。
3. 当ゼミの単位取得には、原則として、ゼミ論文の提出(3年生)、「卒業研究」の単位取得(4年生)が必須である。

こと。なおかつ、「教育原理Ⅰ」の復習を十分にしておくこと。

13112 教育原理Ⅱ b

(Principles of Education II b)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 渡部 芳樹

履修可能学科

Pc

関連資格

社教 学芸

到達目標

〔目的〕

教育について考え実践する上で不可欠である教育の基礎原理を理解すると共に、教育の専門家としての在り方を考えるための観点と態度の習得を目指す。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 人間と教育—教育の意義(1)—
3. 近代公教育の理念—(2)—
4. 教育課程—近代公教育の理念と教育改革(1)—
5. 学習指導要領(その1)—(2)—
6. 学習指導要領(その2)—(3)—
7. 臨時教育審議会—(4)—
8. いじめ—教育の中の暴力(1)—
9. 体罰—(2)—
10. 個性—個性尊重の教育(1)—
11. 能力別学級編成—(2)—
12. 新教育—(3)—
13. ドルトン・プランとウィネットカ・プラン—(4)—
14. 脱学校論
15. 教育原理の再考

授業概略

〔内容〕〔方法〕

本講義では、今日の教育的課題を検討することを通じて、教育の理念と構造について理解を深める。特に、教育的課題の歴史・社会的背景(近現代史)、および教育的課題と法・行政との関係に注目したい。基本的に、テキストおよび資料を用いた講義形式で授業をおこなう。

教科書

小澤周三編、『教育学キーワード』(第3版)、有斐閣

※「全人教育論」のテキストと同一である。

参考書

小澤周三他著、『教育思想史』、有斐閣(有斐閣Sシリーズ)

成績評価の方法・基準

〔評価〕

学期末試験の得点を評価の全て(100%)とする。なお、私語等の性行不良の行為を止めない受講者には退室を命じ、かつ、学期末試験の受験資格を与えない。

事前準備学習

〔注意〕

1. 予習を前提として講義をおこなう。
2. 高等学校程度の「歴史(近現代史)」は理解しておくこと。なおかつ、「教育原理Ⅰ」の復習を十分にしておくこと。

13114 保育原理Ⅰ

(Principles of Child Nursing I)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 飛田 隆

履修可能学科

Pc

13112 教育原理Ⅱ a

(Principles of Education II a)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 渡部 芳樹

履修可能学科

Pc

関連資格

社教 学芸

到達目標

〔目的〕

教育について考え実践する上で不可欠である教育の基礎原理を理解すると共に、教育の専門家としての在り方を考えるための観点と態度の習得を目指す。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 人間と教育—教育の意義(1)—
3. 近代公教育の理念—(2)—
4. 教育課程—近代公教育の理念と教育改革(1)—
5. 学習指導要領(その1)—(2)—
6. 学習指導要領(その2)—(3)—
7. 臨時教育審議会—(4)—
8. いじめ—教育の中の暴力(1)—
9. 体罰—(2)—
10. 個性—個性尊重の教育(1)—
11. 能力別学級編成—(2)—
12. 新教育—(3)—
13. ドルトン・プランとウィネットカ・プラン—(4)—
14. 脱学校論
15. 教育原理の再考

授業概略

〔内容〕〔方法〕

本講義では、今日の教育的課題を検討することを通じて、教育の理念と構造について理解を深める。特に、教育的課題の歴史・社会的背景(近現代史)、および教育的課題と法・行政との関係に注目したい。基本的に、テキストおよび資料を用いた講義形式で授業をおこなう。

教科書

小澤周三編、『教育学キーワード』(第3版)、有斐閣

※「全人教育論」のテキストと同一である。

参考書

小澤周三他著、『教育思想史』、有斐閣(有斐閣Sシリーズ)

成績評価の方法・基準

〔評価〕

学期末試験の得点を評価の全て(100%)とする。なお、私語等の性行不良の行為を止めない受講者には退室を命じ、かつ、学期末試験の受験資格を与えない。

事前準備学習

〔注意〕

1. 予習を前提として講義をおこなう。
2. 高等学校程度の「歴史(近現代史)」は理解しておく

関連資格

保育

到達目標

保育の意義について理解することができる。保育所保育指針について理解することができる。保育の基礎について学び理解することができる。保育の現状について学び適切な資料を使い説明することができる。

授業計画

1. 保育の意義。
2. 子どもの最善の利益。
3. 保護者への理解。
4. 保育所保育と家庭保育。
5. 保育所保育指針を学ぶ。
6. 保育制度。
7. 保育環境。
8. 保育教材。
9. 発達に応じた保育。
10. 子どもの事故と病気。
11. 子どもの遊び。
12. 保育計画。
13. 保育の歴史。
14. 保育の現状と課題。
15. 総まとめ。

授業概略

保育の意義について基本的な事を学ぶ。子どもの最善の利益とは何か考え学ぶ。保護者への理解を深める。保育計画、日案、週案、月案、指導計画等について理解する。保育所保育指針について学ぶ。遊びの役割について学ぶ。保育所の歴史について学ぶ。

教科書

必要に応じて配布する。

参考書

必要に応じて紹介する。

成績評価の方法・基準

出席状況、提出物、授業態度、試験等総合的に判断する。

事前準備学習

保育に関する本、雑誌、新聞記事等読んでおくことが望ましい。

13115 保育者論

(Studies in Nursing Profession)

配置年次 カリキュラムにより異なります。

単位数 2 期間 後期

担当者 平山 はるみ

履修可能学科

Pc

関連資格

保育

到達目標

保育者としての原理原則を理解し、自らの保育観を問い豊かな保育士を目指すことができる。

授業計画

- 第01回 保育者の役割
- 第02回 保育者の倫理
- 第03回 保育士の位置づけ（資格・要件）
- 第04回 保育士の責務
- 第05回 保育士の専門性（養護と教育）
- 第06回 保育士の専門性（資質・能力）
- 第07回 保育士の専門性（知識・技術及び判断）
- 第08回 保育士の専門性（保育の省察）
- 第09回 保育士の専門性（保育課程による保育の展開と自己評価）
- 第10回 保育と保護者支援にかかわる協働
- 第11回 専門職間及び専門機関との連携
- 第12回 保護者及び地域社会との協働

第13回 家庭的保育者等との連携

第14回 保育者としての専門性の発達

第15回 生涯発達とキャリア形成 まとめ

授業概略

現在の行政上の保育理念や実態及び現場の状況から保育士のあるべき姿について解説します。

教科書

なし

参考書

幼稚園教育要領 保育所保育指針（フレーベル館）

成績評価の方法・基準

レポート及びテストに出席点を加味し総合的に評価します。

事前準備学習

幼稚園教育要領、保育所保育指針に目を通しておくと授業への関心が深まります。

13116 養護原理

(Principles of Nursing the Handicapped)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 安藤 みゆき

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

保育

到達目標

社会が責任を持ち、子どもを育てるとは、どういうことなのか、現代社会における社会的養護のシステムについて説明することができる。

授業計画

- 第01回 この授業の到達目標と概略 「社会的養護」とは何か
- 第02回 「子ども虐待」と社会的養護
- 第03回 社会的養護の歴史の変遷
- 第04回 児童家庭福祉の一分野としての社会的養護
- 第05回 児童の権利擁護と社会的養護
- 第06回 社会的養護の制度と法体系
- 第07回 社会的養護の仕組みと実施体系
- 第08回 社会的養護と施設養護
- 第09回 社会的養護の専門職・実施者
- 第10回 施設養護の基本原則
- 第11回 施設養護の実際 治療的支援 自己実現・自立支援等
- 第12回 施設養護とソーシャルワーク
- 第13回 社会的養護の現状と課題—運営管理
- 第14回 社会的養護の現状と課題—倫理の確立・被措置児童の虐待防止
- 第15回 社会的養護と地域福祉、および総まとめ

授業概略

現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について解説します。社会的養護の制度や実施体系、さらに具体的な施設での生活、そこでの保育士の役割についても説明します。さらに社会的養護に関わる専門職としての倫理観、施設内虐待の予防についても取り上げます。

教科書

山縣文治・林浩康編 『よくわかる養護原理』 ミネルヴァ書房、2010年

参考書

草間吉夫 『ひとりぼっちの私が市長になった』 講談社、2007年

成績評価の方法・基準

学期末試験・提出レポート・提出ノート・授業中の発表内容を総合して評価します。

事前準備学習

「子ども虐待」または「児童養護施設」に関する新聞記事等に興味関心を持ち、目を通しておくと、講義において一

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

層理解が深まります。

13117 児童福祉 (Child Welfare)

配置年次 3

単位数 2 期間 後期

担当者 中島 美那子

履修可能学科

E Pe Pc W F

関連資格

保育 福祉主

到達目標

児童福祉の意義と歴史、現在の施策と実施体系について知る。児童福祉の制度を適切に活用することができる力を養う。

授業計画

- 【第1回】児童福祉とは
- 【第2回】児童福祉の歴史
- 【第3回】子どもの権利とは
- 【第4回】児童福祉の法体系（1）
- 【第5回】児童福祉の法体系（2）
- 【第6回】児童福祉の実施体系（1）
- 【第7回】児童福祉の実施体系（2）
- 【第8回】子どもと家庭（1）子どもの貧困
- 【第9回】子どもと家庭（2）さまざまな家庭環境
- 【第10回】子どもと家庭（3）子どもの非行
- 【第11回】子どもと家庭（4）子ども虐待への取り組み
- 【第12回】少子化対策としての児童福祉施策
- 【第13回】地域における子どもの育ちと子育て支援（1）
- 【第14回】地域における子どもの育ちと子育て支援（2）
- 【第15回】児童福祉のこれからの課題

授業概略

子育て・子育て環境の変化に伴うさまざまな問題が浮き彫りになった今日、もはや子どもが育つための環境づくりを各家庭だけに課すことはできません。本授業は、現在子どもと家族の置かれている状況を把握し、その課題に対する児童福祉のありようについて学びます。

児童福祉の基本的概念、児童福祉施策、実践、さらには今日的課題について理解を深め、よりよい児童福祉のあり方について検討します。

教科書

授業の中で紹介します。

参考書

授業のなかで適宜紹介します。

成績評価の方法・基準

学期末試験、授業内での提出物などにより総合的に評価します。

事前準備学習

特になし

13118 社会福祉 (Social Welfare)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 望月 ミチ

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

保育 福祉主

到達目標

社会福祉の専門的知識を修得し、理解を深め、さらにそれによって、保育の本質や目的についての理解を深めることができる。

授業計画

- 第01回 社会福祉の理念と保育
- 第02回 社会福祉の概念と定義
- 第03回 社会福祉の歴史
- 第04回 社会福祉基礎構造改革
- 第05回 少子化対策
- 第06回 地域福祉
- 第07回 ボランティア活動と福祉
- 第08回 社会福祉の法律
- 第09回 社会福祉行政と社会福祉サービス
- 第10回 社会保障制度
- 第11回 社会福祉の機関と施設
- 第12回 社会福祉援助技術
- 第13回 社会福祉専門職
- 第14回 利用者保護制度
- 第15回 現代社会における社会福祉について・まとめ

授業概略

この授業においては、主に次のような社会福祉の専門的知識についての理解を深めることをねらいとして講義します。

1. 現代社会における社会福祉の意義・理念について
2. 社会福祉の法体系や社会福祉サービスについて
3. 社会福祉援助技術について
4. 社会福祉専門職の役割について
5. 現代社会における社会福祉の動向について
6. 利用者保護制度について

教科書

授業時に指示いたします。必要に応じ印刷教材を配布します。またVTRなどによる視聴覚教材を活用する予定です。

参考書

授業時に随時紹介します。

成績評価の方法・基準

出席状況、授業時に課す小レポート、試験またはレポートによる総合的評価を予定しています。

事前準備学習

なし

13119 社会福祉援助技術 a (Social Welfare Aid Skills a)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 安藤 みゆき

履修可能学科

Pc

関連資格

保育 福祉主

到達目標

相談援助の方法と技術の基本を踏まえ、計画・記録・評価や関係機関との連携、社会資源の活用などについて説明することができる。

授業計画

- 第01回 この授業の到達目標と概略 保育士がなぜ、社会福祉援助技術を学ぶのか
- 第02回 社会福祉援助技術の意義と内容
- 第03回 社会福祉援助技術の体系
- 第04回 個別援助技術の概要
- 第05回 個別援助技術の展開過程
- 第06回 個別援助技術の事例演習（1）
- 第07回 個別援助技術の事例演習（2）
- 第08回 集団援助技術の意義と機能
- 第09回 集団援助技術の発展過程
- 第10回 集団援助技術の援助媒体
- 第11回 集団援助技術の展開過程
- 第12回 児童福祉場面における集団援助技術
- 第13回 地域援助技術について
- 第14回 その他の関連援助技術について

第15回 関連援助技術について、および総まとめ

授業概略

子ども虐待や発達障害など、保育士の特別な配慮や援助を必要としている子どもや家族に対して、どのようにアプローチしていけばいいのか、ソーシャルワークの視点から解説します。グループワークや演習を通して、個別援助技術、集団援助技術を実践的に学ぶことができますようにします。また、地域援助技術、関連する援助技術についても取り上げます。

教科書

小林育子・大嶋恭二・神里博武著『社会福祉援助技術』ミネルヴァ書房

参考書

なし

成績評価の方法・基準

学期末試験、提出レポート、提出ノート、授業中のグループ発表の内容を総合して評価します。

事前準備学習

児童福祉、または保育士の相談援助活動などについての報道等に目を通しておくと、授業において理解が深まります。

13119 社会福祉援助技術 b

(Social Welfare Aid Skills b)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 安藤 みゆき

履修可能学科

Pc

関連資格

保育 福祉主

到達目標

相談援助の方法と技術の基本を踏まえ、計画・記録・評価や関係機関との連携、社会資源の活用などについて説明することができる。

授業計画

- 第01回 この授業の到達目標と概略 保育士がなぜ、社会福祉援助技術を学ぶのか
- 第02回 社会福祉援助技術の意義と内容
- 第03回 社会福祉援助技術の体系
- 第04回 個別援助技術の概要
- 第05回 個別援助技術の展開過程
- 第06回 個別援助技術の事例演習 (1)
- 第07回 個別援助技術の事例演習 (2)
- 第08回 集団援助技術の意義と機能
- 第09回 集団援助技術の発展過程
- 第10回 集団援助技術の援助媒体
- 第11回 集団援助技術の展開過程
- 第12回 児童福祉場面における集団援助技術
- 第13回 地域援助技術について
- 第14回 その他の関連援助技術について
- 第15回 関連援助技術について、および総まとめ

授業概略

子ども虐待や発達障害など、保育士の特別な配慮や援助を必要としている子どもや家族に対して、どのようにアプローチしていけばいいのか、ソーシャルワークの視点から解説します。グループワークや演習を通して、個別援助技術、集団援助技術を実践的に学ぶことができますようにします。また、地域援助技術、関連する援助技術についても取り上げます。

教科書

小林育子・大嶋恭二・神里博武著『社会福祉援助技術』ミネルヴァ書房

参考書

なし

成績評価の方法・基準

学期末試験、提出レポート、提出ノート、授業中のグループ発表の内容を総合して評価します。

事前準備学習

児童福祉、または保育士の相談援助活動などについての報道等に目を通しておくと、授業において理解が深まります。

13120 キリスト教保育 a

(Christian Nursing a)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 椎名 昌子

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

保育

到達目標

キリスト教の精神を基にした保育についての理解を深め、保育現場での保育に活かせる教養と資質を身に付けることができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 キリスト教教育の必要性
- 第3回 キリスト教教育の成り立ち
- 第4回 キリスト教教育・保育の目標
- 第5回 保育所保育指針とキリスト教保育
- 第6回 幼稚園教育要領とキリスト教保育
- 第7回 本学のキリスト教教育 (附属園のキリスト教保育を学ぶ)
- 第8回 子どもとのかかわりについて 1
- 第9回 " 2 (認定こども園みらいに於ける体験)
- 第10回 自然界から学ぶ
- 第11回 音楽から学ぶ
- 第12回 絵画・制作から学ぶ
- 第13回 飼育・栽培から学ぶ
- 第14回 現代に於けるキリスト教教育の問題点を探る
- 第15回 講義のまとめ

授業概略

キリスト教保育を様々な角度から捉え、なぜ乳幼児期にキリスト教教育が必要なのかを学んでゆきます。学内にある「認定こども園 みらい」のボランティア体験で実際に園児に触れることや制作活動・リトミックなどの実技を交えながら保育現場に活かせる学びを取り上げます。

教科書

プリントを配布します。(聖書・幼稚園教育要領・保育所保育指針などを使います)

参考書

キリスト教保育指針 キリスト教保育 など そのつど授業内で紹介します。

成績評価の方法・基準

提出物・出席状況・授業態度を参考にして評価します。

事前準備学習

キリスト教に関心を持ち、近隣の教会・学内チャペルなどに参加しておくと、講義においてより深く理解することが可能です。

備考

この授業は、講義の他に実技の体験もあります。(幼児讀美歌集200円の購入・制作等の材料費500円程度必要になります)

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

13120 キリスト教保育 b

(Christian Nursing b)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 権名 昌子

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

保育

到達目標

キリスト教の精神を基にした保育についての理解を深め、保育現場での保育に活かせる教養と資質を身に付けることができる。

授業計画

第1回 オリエンテーション

第2回 キリスト教教育の必要性

第3回 キリスト教教育の成り立ち

第4回 キリスト教教育・保育の目標

第5回 保育所保育指針とキリスト教保育

第6回 幼稚園教育要領とキリスト教保育

第7回 本学のキリスト教教育（附属園のキリスト教保育を学ぶ）

第8回 子どもとのかかわりについて1

第9回 " 2（認定こども園み

らいに於ける体験）

第10回 自然界から学ぶ

第11回 音楽から学ぶ

第12回 絵画・制作から学ぶ

第13回 飼育・栽培から学ぶ

第14回 現代に於けるキリスト教保育の問題点を探る

第15回 講義のまとめ

授業概略

キリスト教保育を様々な角度から捉え、なぜ乳幼児期にキリスト教教育が必要なのかを学んでゆきます。学内にある「認定こども園 みらい」のボランティア体験で実際に園児に触れることや制作活動・リトミックなどの実技を交えながら保育現場に活かせる学びを取り上げます。

教科書

プリントを配布します。

（聖書・幼稚園教育要領・保育所保育指針などを使います）

参考書

キリスト教保育指針 キリスト教保育 など

そのつど授業内で紹介します。

成績評価の方法・基準

提出物・出席状況・授業態度を参考にして評価します。

事前準備学習

キリスト教に関心を持ち、近隣の教会・学内チャペルなどに参加しておくこと、講義においてより深く理解することが可能です。

備考

この授業は、講義の他に実技の体験もあります。（幼児讃美歌集200円の購入・制作等の材料費500円程度必要になります）

13121 子ども文化論

(Studies in Juvenile Culture)

配置年次 2

単位数 2 期間 集中

担当者 黒須 和清

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

到達目標

昔の「おもちゃ」のしくみや魅力を検証しリニューアルし

て子どもたちに伝えて行く技を体得します。

授業計画

1回～4回 伝承おもちゃのリニューアル（かざぐるま、こま、グライダー、けん玉など）

5回～8回 郷土玩具やおまけにみられるからくりを手作りおもちゃに生かす

9回～12回 いろいろな現象、動きからのアプローチ（くるくる、ばたばた、くねくね、ぱくぱく、など）

13回～15回 簡単な工作からシアター（演じ物）への展開

授業概略

おもちゃ＝テレビゲームと思っている子どもたちが増えている現状に危機感を抱きこの授業では、昔の「おもちゃ」（伝承おもちゃ、郷土玩具、駄菓子屋で売られていたチープトイ、グリコのおまけ）のしくみや魅力を検証しリニューアルして子どもたちに伝えて行く技を体得します。手を使って作り、電気の力を借りずに生まれる動きや現象を楽しむ事こそ「おもちゃ」の本道であることを再認識する授業です。

教科書

黒須和清著『たのしいおもちゃ屋さん』（すずき出版）

参考書

『ひと味ちがうおもちゃのレシピ』（てづくりおもちゃ）、『壁面テーマパーク12か月』（壁面構成）、『かんたん人形劇』、『つくってみせるちいさな劇場』（演じ物）、『お菓子なカードのつくりかた』（カード作り）

成績評価の方法・基準

実際に製作したおもちゃの出来具合とともに「いかに楽しんでとりくんだか」という授業態度も含めて評価します。

事前準備学習

なし

備考

毎回製作をしますので以下の道具を必ず持参すること。共用や貸し借りは認めません。

はさみ、セロハンテープ、両面テープ、千枚通し（穴をあける道具、キリでも可）、木工用ボンド、カッター、カラーサインペンセット（プロッキー、ハイマッキー、ポスカなど）

13122 心理学入門

(Introduction to Psychology)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 細川 美由紀

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

・心理学の基本的な事項について理解し、説明することができる。

・心理学で説明される現象について、日常生活に照らし合わせて理解することができる。

授業計画

第1回、オリエンテーション

第2回、心理学とは何か

第3回、知覚・感覚の心理学

第4回、記憶の心理学

第5回、言語・思考の心理学

第6回、知能・創造性の心理学

第7回、学習の心理学

第8回、発達心理学

第9回、情動の心理学

第10回、適応の心理学

第11回、ストレスと心理学

第12回、性格の心理学

- 第13回、血液型と心理学
- 第14回、心の発達と障害
- 第15回、講義のまとめ

授業概略

「心理学」とひとことで言ってもその領域は多岐にわたります。この講義では、これらの心理学の領域の中から代表的なトピックスを学ぶことを通じて、私たちの日々の行動や心の動きを振り返ることや、自分や周りの人々を理解するヒントを得ることをねらいとしています。

教科書

授業で使用する資料については、全て配布します。

参考書

「心理学概論」松原達哉編、培風館

成績評価の方法・基準

出席状況や授業態度・提出物の内容・期末試験の成績を総合的に評価します。

事前準備学習

特になし

13123 発達心理学

(Developmental Psychology)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 室谷 直子

履修可能学科

E Pc C

関連資格

保育

到達目標

- ・子どもの発達上の特性を、発達段階に沿って説明することができる。
- ・自らの発達と積極的に向き合うことで、発達の意味やそのとらえ方について生涯発達の視点から各々の見解をもつことができる。

授業計画

- 第01回 発達心理学の概略
- 第02回 発達とは1－遺伝と環境
- 第03回 発達とは2－主要な発達理論
- 第04回 乳児期までの発達
- 第05回 幼児期の発達1－身体と認知
- 第06回 幼児期の発達2－自己と社会化
- 第07回 幼児期の発達3－遊び
- 第08回 児童期の発達1－身体と認知(1)
- 第09回 児童期の発達2－身体と認知(2)
- 第10回 児童期の発達3－自己と社会化
- 第11回 児童期の発達4－学校への適応
- 第12回 青年期
- 第13回 発達上の問題とその支援1
- 第14回 発達上の問題とその支援2
- 第15回 総まとめ

授業概略

はじめに発達心理学の基礎となる主要な発達理論を概観します。その上で、胎児期から青年期までの発達を幼児期と児童期を中心に取り上げ、各発達段階の特徴について身体、言語、認知、社会化といった側面から解説します。

教科書

資料を必要に応じて配布します。

参考書

中澤潤編著『発達心理学の最先端－認知と社会化の発達科学－』あいり出版、2009年。

成績評価の方法・基準

小テスト40点、学期末テスト60点の割合で評価します。

事前準備学習

なし

13124 生涯発達心理学

(Lifelong Developmental Psychology)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 小野 美和

履修可能学科

Pc

関連資格

保育

到達目標

- (1) 生涯発達の過程における様々な心理的課題やその特徴を理解することができる。
- (2) 乳幼児期から青年期にかけての心理的発達の特徴を理解し、今日の社会的問題や課題について心理学的立場から考えることができる。
- (3) 成人期以降の発達過程やその心理的課題・問題を理解し、今後の自分自身の自己実現への展望を考える視野を広げることができる。
- (4) 各発達段階における心理的課題についてその心理・教育的支援の方法や対応について考える力を身につけることができる。

授業計画

- 【第01回】生涯発達心理学とは何か…授業の進め方、内容について説明し、扱う分野について説明を行います。
- 【第02回】乳幼児期の発達…乳幼児期の発達について説明を行います。
- 【第03回】幼児・児童期と親子関係…親子関係、ことば(コミュニケーション)の発達に焦点をあてます。また、この時期にみられやすい心理的問題について理解を深めます。
- 【第04回】児童期の発達…認知的発達、対人関係の広がりについて説明を行います。
- 【第05回】児童期と学校…学校、学級と子どもたちという観点からその発達を考えます。
- 【第06回】思春期の発達(青年期前期)…中学生に焦点を当て、その心理的発達と問題について扱います。
- 【第07回】青年期後期の発達…高校生・大学生に焦点を当て、その心理的発達と課題について考えます。
- 【第08回】自己実現と職業選択…青年期の発達課題と職業選択について考えます。また、関連する視聴覚素材を用いて感想レポートを作成します。
- 【第09回】発達支援と適応…障害をもつ子ども、人への発達支援や私たち自身の心理的安定を保つ仕組みについて理解を深めます。
- 【第10回】成人期の発達…成人期の発達課題とその特徴を説明し、今日的な問題について考えます。
- 【第11回】中年期の発達…中年期の発達課題とその特徴や子育てとの関連を説明します。
- 【第12回】老年期の発達…老年期の発達課題とその特徴を説明し、その支援の在り方を考えます。
- 【第13回】生涯発達と障害…様々な障害の特徴を理解し、生涯発達の中で障害をもつことの意味を考えます。
- 【第14回】自分らしさを考える…これまでの授業内容を整理し、自分らしさとは何かについて考えます。
- 【第15回】総まとめ…生涯発達心理学と人間理解について扱います。

授業概略

人は社会の中で育ち、様々な人と出会います。そして、誕生してから生涯を閉じるその瞬間まで発達を続けます。この授業では、乳幼児期から老年期までの一生の歩みを生涯発達という観点から捉え、それを心理学的な知見に基づい

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

て理解していきます。具体的には、乳幼児期から青年期までの自己の発達や対人関係について標準的な発達過程を概観します。また、それぞれの時期における発達課題や社会的な問題について考え理解を深めます。そして、学生の皆さんがこれから経験していく成人期、中年期、老年期の発達について様々な心理学的知見を紹介し、将来的な展望へと生かしてもらおうことを目指します。各発達段階における心理社会的発達と環境（社会的影響や文化的要因）の関連を心理学的な理論的基盤をもって理解することが目的です。

教科書

教科書は特に使用しません。必要に応じてプリントや資料を配布します。

参考書

特にありません。必要に応じて授業の中で提示します。

成績評価の方法・基準

成績評価に関しては、次の2点の総合点を「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準にそって評価を行います。

〔授業中・外の学習成果〕20%…授業中に作成する小レポート、授業の内容に関して課す小レポート、体験課題等への参加内容・態度により評価します。そのため、無断欠席に関しては減点対象とします。また、レポート等の提出期限に遅れた場合も、理由に関係なく減点します。

〔学期末の学習成果〕80%…定期試験の結果により評価をします。試験の内容、形式等については授業内で発表を行います。

事前準備学習

授業概要の部分でも述べましたが、人は社会の中で発達します。そのため、日ごろから様々な人の営みに関心を持ち、ニュースや新聞などを積極的に読んでおく習慣があることが望ましいと考えます。また、授業の中で学習したことを自分自身のこれまでの経験と比較し、さらに理解を深めておく事後学習が必要です。

備考

自分なりの問題意識を持ちながら、積極的な姿勢で参加してもらおうことを望みます。

13125 発達障害学 a

(Survey of Developmental Handicaps a)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 石田 隆雄

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

保育

到達目標

発達障害の実態と課題について基礎的な理解を深め、指導仮説、支援方法を考えることができるようにする。

授業計画

【第01回】本講座の到達目標と授業概要、特別支援教育の基礎

【第02回】障害児を取り巻く最近の動向と課題

【第03回】保育や教育現場での混乱の中で

【第04回】発達障害とは

【第05回】自閉症スペクトラムの行動特徴と理解

【第06回】学習障害の行動特性と理解

【第07回】注意欠陥・多動性障害の行動特性と理解

【第08回】発達障害児の支援（1）二次障害への対応

【第09回】発達障害児の支援（2）緊張・不安・「しかる」行為、「ほめる」行為

【第10回】発達障害児の支援（3）特別支援学校における自閉症児の指導（1）

【第11回】発達障害児の支援（4）発達障害児の支援と制度

【第12回】発達障害児の支援（5）通常の学級における発達障害児の生活作り、授業作り

【第13回】発達障害と人権：いじめ、虐待

【第14回】教育・医療・福祉の連携と支援体制作り

【第15回】事例から考える

授業概略

保育所や教育現場で多動傾向や攻撃行動、パニックやこだわり等の気になる行動をする子どもたちの存在が多く指摘されるようになってきています。その中には、単なる親の躰の問題だけでは解決できないいわゆる「発達障害」と言われる子どもの存在が明らかになってきました。

この子どもたちは、特有の情報処理の仕方をするなどの特徴もあり、それが学習場面等で不利益に作用し、不適応行動につながることもわかってきています。

この講座では、「発達障害児」の基礎的な理解と不適応行動改善の方法について深めていきます。

教科書

自作プリントの配布

参考書

参考図書、資料等は、授業の中で紹介していきます。

成績評価の方法・基準

出席状況、提出物、期末レポートから総合的に判定します。

事前準備学習

なし

13125 発達障害学 b

(Survey of Developmental Handicaps b)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 細川 美由紀

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

保育

到達目標

発達障害の概念や特徴について理解し、個に応じた支援のあり方について理解を深めることができる

授業計画

第1回、オリエンテーション

第2回、発達障害とは

第3回、知的障害の定義と特徴

第4回、知的障害の支援

第5回、自閉症・アスペルガー症候群の定義と特徴

第6回、自閉症・アスペルガー症候群の支援

第7回、AD/HDの定義と特徴

第8回、AD/HDの支援

第9回、学習障害の定義と特徴

第10回、学習障害の支援

第11回、福祉・医療・教育の連携（1）乳幼児期

第12回、福祉・医療・教育の連携（2）学齢期

第13回、福祉・医療・教育の連携（3）成人期

第14回、発達障害を取り巻く諸問題

第15回、講義のまとめ

授業概略

発達障害とそれに含まれる障害についての定義や特徴を中心に学びます。さらに、発達障害児の支援について考える際には、その子のライフステージを見通すことが大切です。従って、幼児期・学齢期のみならず、その先の成人期における問題も取り扱うことで、より良い支援のありかたについて考えることもねらいとしています。

教科書

授業で使用する資料については、全て配布します。

参考書

特になし

成績評価の方法・基準

提出物の内容と期末試験の成績を総合的に評価します。

事前準備学習
特になし

13126 発達障害学演習 (Seminar in Developmental Handicaps)

配置年次 2
単位数 2 期間 後期
担当者 細川 美由紀
履修可能学科
E Pe C W F

関連資格
保育
到達目標

発達障害に関する資料について、内容をレジュメにまとめることを通じて、現在の発達障害を取り巻く課題について理解する。

授業計画

- 第1回、オリエンテーション
- 第2回、論文を読む前に(1)基本事項の確認
- 第3回、論文を読む前に(2)レジュメの書き方
- 第4～14回、レジュメの発表・1～3名で1グループを編成し、提示した論文リストの中から興味のある論文を選択する・グループのメンバーと協力してレジュメを作成し、発表する
- 第15回、演習のまとめ

授業概略

前期の講義(「発達障害学」)で学んだ発達障害に関する基礎的事項を踏まえ、後期の演習では学会誌等に発表された最近の研究論文を各自レポートすることにより、現在の発達障害をとりまく問題についてディスカッションを行います。

教科書

レポートする論文は授業内で紹介します。

参考書

特になし

成績評価の方法・基準

議論における参加度、レジュメや発表の内容を総合的に評価します。

事前準備学習

特になし

備考

「発達障害学」を履修済みであることが望ましい。履修登録者が50名を越えた場合は保育士関連授業であることからPc学生を優先します。

13127 発達臨床研究法 (Developmental Clinical Methodology)

配置年次 3
単位数 2 期間 前期
担当者 細川 美由紀
履修可能学科
E Pe Pc C W F

関連資格
保育
到達目標

発達臨床に関係する研究の方法について理解し、実践することができる

授業計画

- 第1回、オリエンテーション
- 第2回、研究の方法(1)実験法
- 第3回、研究の方法(2)観察法
- 第4回、研究の方法(3)エピソード記述の方法
- 第5回、研究の方法(4)質問紙法の概要
- 第6回、研究の方法(5)質問紙法の実際

- 第7回、研究の方法(6)面接法の概要
- 第8回、研究の方法(7)面接法の実際
- 第9回、研究の方法(8)実践研究の方法
- 第10回、研究計画の作成
- 第11回、調査の実施
- 第12回、調査データの分析
- 第13回、調査レポートの作成
- 第14回、調査レポートの修正
- 第15回、演習のまとめ

授業概略

この授業では、発達臨床に関する研究がどのような方法で行われるのかについて学びます。また、授業の後半ではそれらの方法の中から1つ選択し、実際にデータを収集・分析してレポートにまとめる作業を行います。

教科書

授業で使用する資料については、全て配布します。

参考書

南風原朝和・市川伸一・下山晴彦編「心理学研究法入門」
東京大学出版会

成績評価の方法・基準

提出物や授業の参加度、レポートの内容を総合的に評価します。

事前準備学習

特になし

13129 言語発達心理学

(Psychological Study in Language Development)

配置年次 2
単位数 2 期間 前期
担当者 江尻 桂子
履修可能学科
E Pe C W F

関連資格

保育 日本語

到達目標

ことばの発達と障害、その支援について発達心理学の観点から理解することを目標とします。

授業計画

- 第1回 授業の概略と到達目標
- 第2回 生物進化の中のヒト
- 第3回 ヒトはなぜ言語を獲得したか
- 第4回 初期言語発達(1)新生児～乳児期
- 第5回 初期言語発達(2)乳児～幼児期
- 第6回 初期言語発達(3)幼児～児童期
- 第7回 ことばの障害の種類と定義
- 第8回 発達障害とことば：発達臨床の立場から
- 第9回 ことばの相談事例(保育所・幼稚園でよく寄せられる相談)
- 第10回 発達障害とことば：発達臨床の立場から
- 第11回 ことばに障害を持つ子どもへの支援
- 第12回 ことばをめぐる諸問題：第二言語習得・早期英語教育は必要か
- 第13回 絵本とことば(1)グループディスカッション
- 第14回 絵本とことば(2)良書紹介・絵本の効果的な使い方
- 第15回 言語発達心理学の総まとめ

授業概略

この授業では、人がどのようにしてことばを話すようになるのかということを、生物学的観点、心理学的な観点、そして教育学的な観点から学びます。進化の過程でなぜヒトのみが言語を持ちえたのか、また、言語を獲得するためにはどのような発達の基礎が必要とされるのかについて学びます。さらに発達臨床心理学の立場から、ことばの障害について、その種類や状態について概説します。そして、保育や教育の現場で多く寄せられる「ことばの相談」について

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

ても、主な相談の内容や回答方法について事例をもとに学びます。また、現在注目されている発達障害についても学び、コミュニケーションにおいて、具体的にどのような支援ができるかを理解します。ことばをめぐる諸問題としては、発達心理学の立場から、第二言語習得（特に英語学習）の在り方について考えます。ここでは、早期（幼児期）からの英語教育の功罪について具体的なデータをもとに考えます。最後の2回は、ことばを育むために重要となる、絵本や児童書についても取り上げ、皆さんに「私の一冊」を発表していただきます。その際、幼児や児童教育においてどのように絵本を効果的に使用するのかということも考えます。

教科書

授業に関係する資料は全て配布します。

参考書

岩立志津夫・小椋たみ子（編）『よくわかる言語発達』（ミネルヴァ書房）

内田伸子（編）『よくわかる乳幼児心理学』（ミネルヴァ書房）

成績評価の方法・基準

主に、学期末試験およびレポートの成績、小テストの成績、授業態度により評価します。欠席が全授業の三分の一以上（5回以上）であった場合や、レポート未提出もしくは試験未受験の受講生には、原則として単位を出すことができません。なお、この授業では、授業の後に、感想や意見を求めることがあります。また、個々の単元が終わるごとに、小テストを予定しています（全部で5回程度）。学期末試験に際しては、十分な準備が必要となります。試験の際の資料の持ち込みは不可です。

事前準備学習

発達心理学に関する入門的テキストを一読しておく、よいでしょう。授業後の感想や小テスト、レポートなど課題提出の多い授業ですので、このことを十分了解した上で、授業に臨んでください。

備考

「発達心理学」を履修済みまたは履修中であることが望ましい（←履修可能な学科に関して）。授業中の私語、携帯メール、音楽を聴く、飲食など、他の受講生に迷惑をかける行為やマナー違反と考えられる行為は禁止します。受講生多数の場合は抽選を行い、P科の学生およびE.C科の資格取得に関連する学生を優先します。この授業では、座席を指定します。

13130 乳児保育 a

(Nursing for Infants a)

配置年次 カリキュラムにより異なります。

単位数 2 期間 前期

担当者 水庭 由美子

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

保育

到達目標

保育所保育は、産休明けからの乳児や、0歳前半の児、軽度の病気又は、病気が治ったばかりの児をあずかる病児保育など、多様なニーズに応える時代になりました。0歳児から続く1歳児、2歳児へと、人間の基盤としての重要な時期の成長発達を支援し、健康に育てることは保育の原点ともいえます。多様化する保育ニーズに応えるために、高度な知識と児の観察点や必要な対処法等を学び、ニーズに対応できる保育技術を身につけます。

授業計画

第1回 この授業の目標と概略、授業のすすめ方

第2回 乳児保育概論—乳児保育の歴史、乳幼児期の特徴

第3回 乳児の発育—1. 発育の特徴 2. 身体計測法と

発育の評価について

第4回 0歳児、1歳児の発達—運動機能、原始反射、精神発達

第5回 乳児保育—保育環境、健康づくり

第6回 乳児保育—生活リズム、安全—危険の点検と事故予防、乳幼児栄養について

第7回 家庭保育と保育所保育の連携、乳児保育の諸問題

第8回 保育保健—1. 症状と対処、2. 病気と異常

第9回 保育保健—3. 救急処置 4. 保育所における薬の使用について

第10回 事故予防について

第11回 委託保育 保育所保育の留意点 保育の形態

第12回 保育所の子育て支援、一時保育等 在宅保育

第13回 保育行政—保育に関する法律

第14回 保育計画と記録、評価

第15回 今後の課題、総合試験を実施

授業概略

教科書の進行にあわせて、実際の保育技術を身につけるため、実習を入れながら学びます。

1. 基本的な児の取り扱い方（抱き方、授乳法、着替え、オムツ交換等）

2. 乳児栄養法（調乳法、消毒法、授乳法、離乳食等）

3. 児の健康増進のために（沐浴法、ベビーマッサージ法等）

4. 感染予防、救急法、その他

教科書

巷野悟郎・植松紀子編著「0歳児・1歳児・2歳児のための乳児保育」（光生館）教科書の他、参考になる自作プリントを適宜配布

参考書

山口 規容子監修「パパとママの育児百科」（講談社）

成績評価の方法・基準

授業15回終了時、乳児保育で学んだ大切な知識について試験を実施

100点満点で成績評価を行います。授業態度、出席日数も加えて評価します。

事前準備学習

なし

備考

実習のある授業のときは、エプロンを用意する事

13130 乳児保育 b

(Nursing for Infants b)

配置年次 カリキュラムにより異なります。

単位数 2 期間 前期

担当者 水庭 由美子

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

保育

到達目標

保育所保育は、産休明けからの乳児や、0歳前半の児、軽度の病気又は、病気が治ったばかりの児をあずかる病児保育など、多様なニーズに応える時代になりました。0歳児から続く1歳児、2歳児へと、人間の基盤としての重要な時期の成長発達を支援し、健康に育てることは保育の原点ともいえます。多様化する保育ニーズに応えるために、高度な知識と児の観察点や必要な対処法を学び、ニーズに対応できる保育技術を身につけます。

授業計画

第1回 この授業の目標と概略、授業のすすめ方

第2回 乳児保育概論—乳児保育の歴史、乳幼児期の特徴

第3回 乳児の発育—1. 発育の特徴 2. 身体計測法と発育の評価について

第4回 0歳児、1歳児の発達—運動機能、原始反射、精

神発達

- 第5回 乳児保育—保育環境、健康づくり
 第6回 乳児保育—生活リズム、安全—危険の点検と事故
 予防、乳幼児栄養について
 第7回 家庭保育と保育所保育の連携、乳児保育の諸問題
 第8回 保育保健—1. 症状と対処、2. 病気と異常
 第9回 保育保健—3. 救急処置、4. 保育所における薬
 の使用について
 第10回 事故予防について
 第11回 委託保育 保育所保育の留意点 保育形態
 第12回 保育所の子育て支援 一時保育 在宅保育
 第13回 保育行政—保育に関する法律
 第14回 保育計画と記録、評価
 第15回 今後の課題、総合試験を実施

授業概略

教科書の進行にあわせて、実際の保育技術を身につけるため、実習を入れながら学びます。

1. 基本的な児の取り扱い方（抱き方、授乳法、着替え、オムツ交換等）
2. 乳児栄養法（調乳法、消毒法、授乳法、離乳食等）
3. 児の健康増進のために（沐浴法、ベビーマッサージ法等）
4. 感染予防、救急法、その他

教科書

巷野 悟郎・植松 紀子編著「0歳児・1歳児・2歳児のための乳児保育」（光生館）

教科書の他、参考になる自作プリント適宜配布

参考書

山口 規容子監修「パパとママの育児百科」（講談社）

成績評価の方法・基準

授業15回終了時、乳児保育で学んだ大切な知識について試験を実施

100点満点で成績評価を行います。授業態度、出席日数も加えて評価します。

事前準備学習

なし

備考

実習のある授業のときは、エプロンを用意する事

13131 障害児保育 a

(Nursing Handicapped Children a)

配置年次 3

単位数 2 期間 後期

担当者 細川 美由紀

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

保育

到達目標

障害に関する基礎的な事項を把握した上で、障がいのある子どもを保育する際の配慮事項について理解することができる。

授業計画

- 第1回、オリエンテーション
- 第2回、障害児保育の変遷と現状
- 第3回、障害児保育の意義と形態
- 第4回、障害を持つ子どもの理解と支援（1）視覚障害
- 第5回、障害を持つ子どもの理解と支援（2）聴覚障害
- 第6回、障害を持つ子どもの理解と支援（3）肢体不自由
- 第7回、障害を持つ子どもの理解と支援（4）知的障害
- 第8回、障害を持つ子どもの理解と支援（5）自閉症
- 第9回、障害を持つ子どもの理解と支援（6）AD/HD・学習障害
- 第10回、障害を持つ子どもの理解と支援（7）言語障害
- 第11回、障害児保育における地域との連携

第12回、保護者に対する支援

第13回、個別の保育計画の作成（1）

第14回、個別の保育計画の作成（2）

第15回、授業のまとめ

授業概略

障害児保育を理解するにあたり、まずは「障害」とはどのようなものか、基本的な知識を確認します。その上で統合保育で配慮すべき点や個別支援を行ううえで留意する点について学びます。また、個別の保育計画を作成することを通じて、実際に自分が障害のある子どもを保育する際にどのような配慮が必要かについて具体的に理解します。

教科書

授業で使用する資料については、全て配布します。

参考書

特になし

成績評価の方法・基準

グループワークへの参加度や提出物の内容・期末試験の成績を総合的に評価します。

事前準備学習

特になし

13131 障害児保育 b

(Nursing Handicapped Children b)

配置年次 3

単位数 2 期間 後期

担当者 宮内 久絵

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

保育

到達目標

- ・障害児保育の理念、制度について適切な資料を参照して説明することができる
- ・障害保育の現場で配慮すべき点について説明することができる

授業計画

1. オリエンテーション
2. 「障害」とは何か
3. 障害児保育の意義
4. 障害児保育の制度と現状（1）
5. 障害児保育の制度と現状（2）
6. 障害児の発達とその特性
7. 視覚障害・聴覚障害の特性と保育のあり方
8. 肢体不自由・病弱の特性と保育のあり方
9. 知的障害の特性と保育のあり方
10. 発達障害の特性と保育のあり方
11. 障害児保育の実際（1）
12. 障害児保育の実際（2）
13. 保護者への対応の基本
14. 障害児保育の課題
15. まとめ・試験

授業概略

この授業は障害児保育の理念、制度、保育上の配慮すべき点などの基礎的知識を学ぶことを目的としています。授業の前半では障害児保育の理念や制度をはじめ、その意義について理解を深めていきます。後半では、障害児の保育事例を取り上げ、グループディスカッションを通して、保育現場で必要となる知識や配慮すべき点について理解を深めていきます。

教科書

必要に応じて随時授業内で紹介します。

参考書

必要に応じて随時授業内で紹介します。

成績評価の方法・基準

出席状況、発表、提出物の内容、期末試験の成績を総合的

に評価します。
事前準備学習
なし

13132 養護内容 a (Survey of Nursing the Handicapped a)

配置年次 2
単位数 2 期間 後期
担当者 安藤 みゆき
履修可能学科
E Pe Pc C W F

関連資格
保育
到達目標

さまざまな施設で暮らす子どもたち、または利用者の状況を理解し、施設で働く専門職として必要な倫理・価値観について学び、施設養護の現状と課題を説明することができる。

授業計画

- 第01回 この授業の到達目標と概略 「養護原理」の振り返り
- 第02回 児童養護施設の子どものたちの実際の生活と保育士の役割
- 第03回 知的障害児・者施設における子どもたち・利用者
の実際の生活と保育士の役割
- 第04回 乳児院における子どもたちの生活と支援の実際
- 第05回 一時保護所の機能とそこでの子どもたちの生活
- 第06回 その他の児童福祉施設の子どものたち・利用者の生活と保育士の役割
- 第07回 施設における行動観察と支援の実際
- 第08回 里親のシステムと現状と課題
- 第09回 治療的支援における事例分析
- 第10回 自立支援における事例分析
- 第11回 親権についての課題
- 第12回 児童の権利擁護
- 第13回 社会的養護における保育士の倫理と責務
- 第14回 施設の小規模化と地域とのかかわり
- 第15回 社会的養護の課題と展望、および総まとめ

授業概略

児童養護施設、知的障害児施設、乳児院、一時保護所などでの子どもの生活や支援の実際について説明します。行動観察などのアセスメント、治療的支援、自立支援についても解説し、施設の小規模化など、社会的養護の現状の課題と展望についても取り上げます。

教科書

山縣文治・林浩康編 『よくわかる養護原理』 ミネルヴァ書房、2010年

参考書

津崎哲雄著 『この国の子どもたち』 日本加除出版、2010年

成績評価の方法・基準

学期末試験・提出レポート・授業中の発表内容を総合して評価します。

事前準備学習

施設実習での経験をまとめ、整理しておく、授業中の発表に役立ちます。

13132 養護内容 b (Survey of Nursing the Handicapped b)

配置年次 2
単位数 2 期間 後期
担当者 安藤 みゆき
履修可能学科
E Pe Pc C W F

関連資格

保育

到達目標

さまざまな施設で暮らす子どもたち、または利用者の状況を理解し、施設で働く専門職として必要な倫理・価値観について学び、施設養護の現状と課題を説明することができる。

授業計画

- 第01回 この授業の到達目標と概略 「養護原理」の振り返り
- 第02回 児童養護施設の子どものたちの実際の生活と保育士の役割
- 第03回 知的障害児・者施設における子どもたち・利用者
の実際の生活と保育士の役割
- 第04回 乳児院における子どもたちの生活と支援の実際
- 第05回 一時保護所の機能とそこでの子どもたちの生活
- 第06回 その他の児童福祉施設の子どものたち・利用者の生活と保育士の役割
- 第07回 施設における行動観察と支援の実際
- 第08回 里親のシステムと現状と課題
- 第09回 治療的支援における事例分析
- 第10回 自立支援における事例分析
- 第11回 親権についての課題
- 第12回 児童の権利擁護
- 第13回 社会的養護における保育士の倫理と責務
- 第14回 施設の小規模化と地域とのかかわり
- 第15回 社会的養護の課題と展望、および総まとめ

授業概略

児童養護施設、知的障害児施設、乳児院、一時保護所などでの子どもの生活や支援の実際について説明します。行動観察などのアセスメント、治療的支援、自立支援についても解説し、施設の小規模化など、社会的養護の現状の課題と展望についても取り上げます。

教科書

山縣文治・林浩康編 『よくわかる養護原理』 ミネルヴァ書房、2010年

参考書

津崎哲雄著 『この国の子どもたち』 日本加除出版、2010年

成績評価の方法・基準

学期末試験・提出レポート・授業中の発表内容を総合して評価します。

事前準備学習

施設実習での経験をまとめ、整理しておく、授業中の発表に役立ちます。

13133 家族援助論 (Studies in Family Support)

配置年次 2
単位数 2 期間 後期
担当者 中島 美那子
履修可能学科
E Pe Pc C W F

関連資格

保育

到達目標

家族の意義と機能、および家族を取り巻く社会的状況について知り、自らの家族観の枠組みを広げることができる。保育士としての家族援助の理論・技法を理解し、実践する力を養う。

授業計画

- 【第1回】家族とは
- 【第2回】社会の変化と家族の変容(1) これまでの家族
- 【第3回】社会の変化と家族の変容(2) これからの家族
- 【第4回】男女共同参画社会の中での家族
- 【第5回】男女共同参画社会の中での子育て

- 【第6回】子どもと家族を援助する法・制度
- 【第7回】子どもと家族を援助する機関
- 【第8回】家族援助の対象と理解
- 【第9回】家族援助の理論と技法（1）
- 【第10回】家族援助の理論と技法（2）
- 【第11回】保育士の行う子育て支援
- 【第12回】官・民・学の子育て支援
- 【第13回】実際の家族援助（1） 障害をもつ子どものいる家庭への援助
- 【第14回】実際の家族援助（2） 虐待事例に対する援助
- 【第15回】まとめ 適切な家族援助とは何か

授業概略

家族の意義と機能、これまでそしてこれからの家族の変容について学びます。また、子どものいる家庭を援助するための制度や体系、さまざまな取り組みを知り、そのなかで保育士としてできる適切な援助の方法について考えます。後半では、今後遭遇するであろう事例をもとに、実際の援助の流れ、連携について検討します。

教科書

授業の中で紹介します。

参考書

授業の中で適宜紹介します。

成績評価の方法・基準

学期末試験、授業内での提出物などにより総合的に評価します。

事前準備学習

特になし

13134 保育臨床相談

(Clinical Counseling for Child Development)

配置年次 3

単位数 2 期間 前期

担当者 菅野 ひろみ

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

保育

到達目標

- (1) 保育現場で出会う様々な問題状況において、多面的かつ分析的に問題をとらえ、見通しを持つことができる。
- (2) 問題を抱えた当事者（子ども、保護者、保育者など）の困り感に寄り添って話を聴き、必要に応じて柔軟な対応ができる。

授業計画

- 第1回 保育現場における問題について
- 第2回 問題を多面的かつ分析的に検討する1
- 第3回 カウンセリングの理論と基本的技法
- 第4回 傾聴
- 第5回 共感と対立
- 第6回 問題を多面的かつ分析的に検討する2
- 第7回 子どもの発達の特徴
- 第8回 発達に関する相談
- 第9回 発達障害
- 第10回 しつけと虐待
- 第11回 しつけに関する相談
- 第12回 虐待に関する相談
- 第13回 関係者、関係機関との連携
- 第14回 保育者の抱える問題
- 第15回 保育者の支援、および総まとめ

授業概略

カウンセリングの理論と技法をもとに、保育現場で出会う様々な問題のとらえ方、対応への道筋について学びます。子どもの発達に関連して起こりやすい問題状況を事例を挙げて具体的に考えながら理解を深めます。

教科書

なし

参考書

なし

成績評価の方法・基準

試験、提出物、出席状況、授業態度を総合して評価します。

事前準備学習

なし

13135 地域発達臨床論

(Community Developmental Clinic)

配置年次 3

単位数 2 期間 後期

担当者 飯塚 拓也、渡辺 信行

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

保育

到達目標

私立幼稚園と保育園を、その現状から学ぶことを通して、他の関連授業で学んでいることと保育の実際を結びつけることを目標とします。そして、将来幼稚園や保育園の現場に立つことを目指して、今後の授業に励めるようになってほしいと願っています。

授業計画

- 1回～7回は飯塚拓也が担当し、「幼稚園」について授業を行います。8回は、シンポジウムとし、幼稚園と保育園の両面から意見を交換する時とします。9回～15回は、渡辺信行が担当し、「保育園」に関する授業を行います。（授業予定）
- 1. 竜ヶ崎幼稚園を紹介し、幼稚園の使命と果たすべき課題を考える（1）
- 2. 竜ヶ崎幼稚園を紹介し、幼稚園の使命と果たすべき課題を考える（2）
- 3. 「共に生きる保育」（1）
- 4. 「共に生きる保育」（2）
- 5. 「共に生きる保育」（3）
- 6. 子育て支援の実例
- 7. これからの幼稚園、これからの幼稚園教諭
- 8. シンポジウム
- 9. 保育園の発足と経緯（1）日本の現状から学ぶ
- 10. 保育園の発足と経緯（2）茨城の現状から学ぶ
- 11. 泉ヶ丘保育園の紹介
- 12. 保育園での子どもたちの生活
- 13. 多様化する保育施設
- 14. 地域の子育て支援センターとしての保育園
- 15. これからの保育園を考える

授業概略

幼稚園長、保育園長としての実践を紹介し、幼稚園・保育園を考えるのみならず、特に「地域」との関連でも幼稚園と保育園を考えます。子どもを取り巻く環境が大きく変わる中で、また、「こども園構想」等で幼稚園や保育園の位置づけが変わろうとしている中で、これからの幼稚園や保育園のあり方も模索していきたい。「一緒に考える授業」としましょう。

教科書

特に指定はありません。授業のつど、資料を配布することがあります。

参考書

幼稚園教育要領、保育所保育指針

成績評価の方法・基準

授業に臨む姿勢や、授業の中での積極性や主体性、レポートを通しての理解度を評価します。

事前準備学習

幼稚園教育要領や保育所保育指針等、幼稚園や保育園に関

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

わる今まで受けた授業が前提となりますので、復習して授業に臨んで下さい。

13136 精神保健

(Mental Health)

配置年次 3

単位数 2 期間 前期

担当者 中島 美那子

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

保育 福祉主

到達目標

保育・幼児教育の専門家に必要とされる精神保健の基礎的知識が理解できる。子どもや保護者の精神的問題に対して、適切に対応することができる。

授業計画

【第1回】精神保健とは ー精神保健の歴史、意義ー

【第2回】精神保健の基礎知識

【第3回】ライフサイクルにみる精神保健（1）胎児期

【第4回】ライフサイクルにみる精神保健（2）乳児期

【第5回】ライフサイクルにみる精神保健（3）幼児期

【第6回】ライフサイクルにみる精神保健（4）児童期・青年期

【第7回】ライフサイクルにみる精神保健（5）成人期・老年期

【第8回】子どもの精神的症状（1）習癖

【第9回】子どもの精神的症状（2）精神障害

【第10回】子どもの精神的症状（3）虐待による影響

【第11回】養育者の心の健康（1）虐待加害者としての問題

【第12回】養育者の心の健康（2）精神障害

【第13回】子どもと家族を支える精神保健活動

【第14回】保育者として心の健康を保つために

【第15回】総まとめ

授業概略

今日、子どもを取り巻く環境は大きく変化し、複雑化しています。そしてそれに伴い、子どもの心の健康に関するさまざまな問題が注目されるようになりました。

本授業では、保育・幼児教育に携わる者として必要となる心の健康に関する基礎的概念、対応について学びます。

また、養育者、および保育者となる自分自身の心の健康についても考えます。

教科書

授業の中で紹介します。

参考書

特になし

成績評価の方法・基準

学期末試験、授業内での提出物などにより総合的に評価します。

事前準備学習

特になし

13137 小児保健 I

(Child Health Care I)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 高橋 朋子

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

保育

到達目標

・子どもを一人の尊厳を持つ人間として理解することがで

きる。

・日本の小児保健水準の現状について把握し、健康に影響を及ぼす因子や必要な保健活動について理解することができる。

・子どもの身体発育、生理機能・運動機能・精神機能の発達とその評価、保健について理解することができる。

授業計画

第01回：人間のライフサイクルと子ども期、健康とは

第02回：子どもの権利と健康に影響を及ぼす因子

第03回：統計に見られる小児保健水準

第04回：身体発育（胎児期～学童）

第05回：身体発育（思春期～青年期）

第06回：発育評価

第07回：精神運動発達（感覚・知覚・運動）

第08回：精神運動発達（社会性・言語・情動）・アタッチメント

第09回：生理発達機能（脳・身体生理・消化・排泄・生活リズム）

第10回：発達評価と発達援助

第11回：小児の食生活

第12回：小児肥満と生活習慣病

第13回：小児の健康評価

第14回：健康増進の基本的視点と実際

第15回：健康づくり・まとめ

授業概略

小児保健は、子どもの健康を保持増進させるための保健・医療・福祉・教育などを総合した実践的な学問です。保育の基本となります。小児保健 I では、子どもの健康に影響する要因、身体的発育・精神運動発達の概要を理解した上で、発育発達の評価、生理機能、健康づくりについて学習していきます。

教科書

高野陽・加藤則子・加藤忠明・新保育ライブラリ 子どもを知る『小児保健』北大路書房 2009年

授業時に、随時資料を配ります。

参考書

授業の中で紹介します。

成績評価の方法・基準

出席・授業中の態度（15%）、レポート（15%）、試験（70%）

事前準備学習

子どもの健康に関するニュースや新聞記事に関心を持ち、自分なりに考えてみましょう。

備考

座席を指定しますのでご了承ください。

13138 小児保健 II

(Child Health Care II)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 高橋 朋子

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

保育

到達目標

・健康観察のポイント、子どもに多い疾病の特徴とその対応・予防について理解することができる。

・子どもの事故防止対策と日常の安全管理の重要性を理解することができる。

・家庭・保育施設・学校・地域等で実践されている保健活動について理解することができる。

授業計画

第01回：健康観察と健康診断

第02回：日常に見られる症状の観察と判断

第03回：小児に多い疾病とその対応

- 第04回：感染症とその対応、予防接種
- 第05回：慢性疾患とアレルギーの理解と対応
- 第06回：乳児期の発達課題と養育問題
- 第07回：事故防止対策と安全教育
- 第08回：応急処置と災害と精神保健
- 第09回：学校の中での健康教育活動
- 第10回：虐待・発達障害・特別支援教育
- 第11回：児童福祉施設における保健
- 第12回：リプロダクティブヘルス/ライツ、エンゼルプラン、すこやか親子21
- 第13回：地域母子保健活動
- 第14回：現代社会における健康問題
- 第15回：保健・医療・福祉・教育との連携と課題・まとめ

授業概略

子どもに多い疾病の特徴、健康観察の方法、感染症予防（衛生管理）、事故防止と安全管理について学び、家庭や保育所・幼稚園・学校等の施設でできる実践的な対応方法・保健活動について学習します。また、母子保健サービスの実際を理解し、小児期の適切な保健活動を確認していきます。

教科書

高野陽・加藤則子・加藤忠明・新保育ライブラリ 子どもを知る『小児保健』 北大路書房 2009年
授業時に、随時資料を配ります。

参考書

授業の中で紹介します。

成績評価の方法・基準

出席・授業中の態度（15%）、レポート（15%）、試験（70%）

事前準備学習

今までに自分が罹患した疾病・感染症、けがなどについて、症状・対応・予防法等を確認しておきましょう。

備考

座席を指定しますのでご了承ください。

13139 小児保健実習 a
(Practicum in Child Health a)

配置年次 3

単位数 1 期間 前期

担当者 津田 茂子、藤村 真弓、松澤 明美

履修可能学科

Pc

関連資格

保育

到達目標

1. 子どもの健康および安全に係る保険活動の計画および評価について説明できる
2. 子どもの健康増進および心身の発育・発達を促す保健活動や環境について説明できる
3. 子どもの疾病やその予防および適切な対応について具体的に理解し説明できる
4. 救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に理解し説明できる
5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動について説明できる

授業計画

- 第1回 保健活動の計画及び評価
- 第2回 同上
- 第3回 子どもの保健と環境
- 第4回 同上
- 第5回 子どもの発達援助と保健活動
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 子どもの疾病と適切な対応
- 第9回 同上
- 第10回 同上

第11回 事故防止と健康安全管理

第12回 同上

第13回 同上

第14回 ころとからだの健康問題と地域保健活動

第15回 同上

授業概略

子どもの保育活動に必要な子どもの心身の健康に関連する基礎的知識を修得するためにモデル人形を使ってケアの実際を演習する。

教科書

小児保健実習ノート（診断と治療社）

参考書

適宜提示する。

成績評価の方法・基準

定期試験：90点、レポート：10点、出席状況や授業態度も加味することがある。

事前準備学習

なし

13139 小児保健実習 b
(Practicum in Child Health b)

配置年次 3

単位数 1 期間 前期

担当者 津田 茂子、藤村 真弓、松澤 明美

履修可能学科

Pc

関連資格

保育

到達目標

1. 子どもの健康および安全に係る保険活動の計画および評価について説明できる
2. 子どもの健康増進および心身の発育・発達を促す保健活動や環境について説明できる
3. 子どもの疾病やその予防および適切な対応について具体的に理解し説明できる
4. 救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に理解し説明できる
5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動について説明できる

授業計画

- 第1回 保健活動の計画及び評価
- 第2回 同上
- 第3回 子どもの保健と環境
- 第4回 同上
- 第5回 子どもの発達援助と保健活動
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 子どもの疾病と適切な対応
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 事故防止と健康安全管理
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 ころとからだの健康問題と地域保健活動
- 第15回 同上

授業概略

子どもの保育活動に必要な子どもの心身の健康に関連する基礎的知識を修得するためにモデル人形を使ってケアの実際を演習する。

教科書

小児保健実習ノート（診断と治療社）

参考書

適宜提示する。

成績評価の方法・基準

定期試験：90点、レポート：10点、出席状況や授業態度も

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

加味することがある。

事前準備学習

なし

13140 小児栄養 a (Nutrition for Children a)

配置年次 3

単位数 2 期間 後期

担当者 梶田 麻子

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

保育

到達目標

子どもの健やかな発育・発達を促すための、正しい食事の摂取、食習慣についての基本的知識を習得する。子どもの食育をはじめ、食環境と地域社会についても学び、保育士としての子どもの食と栄養について総合的に理解する。

授業計画

1. 小児期の健全な生活と食生活
2. 栄養・食生活に関する基礎知識
3. 授乳期の栄養
4. 離乳期の栄養
5. 幼児期の栄養
6. 学童期の栄養
7. 思春期の栄養
8. 妊娠期・授乳期の栄養
9. 小児の健康をめぐる問題
10. 調理施設の概要
11. 献立作成（1）
12. 献立作成（2）および指導
13. 媒体の作成
14. 栄養教育の方法
15. 小児栄養に関する総まとめ

授業概略

小児の発育段階（乳児期・幼児期・学童期・思春期）について、さらには女性の妊娠期・授乳期に応じた栄養・食事・食生活について学習し、発育・発達を評価できるようにすることを目的とする。また、小児期の各種疾患についても学習し理解を深める。

教科書

初回授業において、別途指示をする。

参考書

初回授業において、別途指示をする。

成績評価の方法・基準

出席状況、授業態度、レポート作成、筆記試験を総合して評価する。

事前準備学習

なし

13140 小児栄養 b (Nutrition for Children b)

配置年次 3

単位数 2 期間 後期

担当者 梶田 麻子

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

保育

到達目標

子どもの健やかな発育・発達を促すための、正しい食事の摂取、食習慣についての基本的知識を習得する。子どもの食育をはじめ、食環境と地域社会についても学び、保育士としての子どもの食と栄養について総合的に理解する。

授業計画

1. 小児期の健全な生活と食生活
2. 栄養・食生活に関する基礎知識
3. 授乳期の栄養
4. 離乳期の栄養
5. 幼児期の栄養
6. 学童期の栄養
7. 思春期の栄養
8. 妊娠期・授乳期の栄養
9. 小児の健康をめぐる問題
10. 調理施設の概要
11. 献立作成（1）
12. 献立作成（2）および指導
13. 媒体の作成
14. 栄養教育の方法
15. 小児栄養に関する総まとめ

授業概略

小児の発育段階（乳児期・幼児期・学童期・思春期）について、さらには女性の妊娠期・授乳期に応じた栄養・食事・食生活について学習し、発育・発達を評価できるようにすることを目的とする。また、小児期の各種疾患についても学習し理解を深める。

教科書

初回授業において、別途指示をする。

参考書

初回授業において、別途指示をする。

成績評価の方法・基準

出席状況、授業態度、レポート作成、筆記試験を総合して評価する。

事前準備学習

なし

13141 幼児体育 a (Physical Education for Children a)

配置年次 2

単位数 2 期間 通年

担当者 木村 元子

履修可能学科

E Pc C W F

関連資格

教職 保育

到達目標

1. 幼児に、心身の健やかな発達を促す運動あそびの指導ができる。
2. 幼児に対して体育的な指導を行うための基礎的理論を理解している。

授業計画

1. 幼児のこころとからだの健康について
2. 幼児の体育指導がめざすところ
3. 幼児の運動と安全
4. 幼児期の運動機能の発達と、それに見合った指導法
5. 固定施設あそびの考え方と指導法（1）
6. 固定施設あそびの考え方と指導法（2）
7. マットあそびの考え方と指導法
8. とび箱あそびの考え方と指導法
9. 鉄棒あそびの考え方と指導法
10. かけっこあそびの考え方と指導法（1）
11. かけっこあそびの考え方と指導法（2）
12. ボールあそびの考え方と指導法（1）
13. ボールあそびの考え方と指導法（2）
14. 水あそびの考え方と指導法
15. 縄跳びあそびの考え方と指導法（1）
16. 縄跳びあそびの考え方と指導法（2）
17. おにごっこあそびの考え方と指導法（1）
18. おにごっこあそびの考え方と指導法（2）

19. おにごっこのお考え方と指導法 (3)
20. フープあそびのお考え方と指導法
21. 表現あそびのお考え方と指導法 (1)
22. 表現あそびのお考え方と指導法 (2)
23. 運動会のお考え方と指導法
24. ~29. 模擬指導
30. 指導課題と評価、まとめ

授業概略

幼児の運動あそびは、子どもの「遊び」に本来含まれている「自発的・積極的・創造的で自由な」活動を基本にして、調和的な健康づくりをめざすものです。

この授業では、心身の健やかな発達を促す運動あそびを、実際どのように指導していけばよいのかを、講義と実技を通して、段階的・系統的に学んでいきます。その中で、幼児に対して体育的な指導を行うために正しく理解しておきたい基礎的理論（発育・発達の知見、指導方法など）についても学習していきます。

教科書

学校体育研究同志会編、『乳幼児の体育あそび』、草土文化、1999

参考書

- 井上勝子編著、『すこやかな子どもの心と体を育む運動遊び』、建帛社、2006
 岩崎洋子編、『保育と幼児期の運動あそび』、萌文書林、2008
 小谷隆真著、『あたらしい表現遊び』、すずき出版、1994
 ちいさいなかま編集部編、『なにをあそぶ？保育園で人気のおにごっこいろいろ』、草土文化、1997

成績評価の方法・基準

1. 出席、2. 受講態度、3. 学習カードの提出、4. 課題実技、5. レポートの総合評価とする。

事前準備学習

模擬指導を担当するときは、30分間の運動あそびの指導計画を立てる。

備考

運動に適した服装・上履きを準備すること。

13141 幼児体育 b

(Physical Education for Children b)

配置年次 2

単位数 2 期間 通年

担当者 木村 元子

履修可能学科

E Pc C W F

関連資格

教職 保育

到達目標

1. 幼児に、心身の健やかな発達を促す運動あそびの指導ができる。
2. 幼児に対して体育的な指導を行うための基礎的理論を理解している。

授業計画

1. 幼児のこころとからだの健康について
2. 幼児の体育指導がめざすところ
3. 幼児の運動と安全
4. 幼児期の運動機能の発達と、それに見合った指導法
5. 固定施設あそびのお考え方と指導法 (1)
6. 固定施設あそびのお考え方と指導法 (2)
7. マットあそびのお考え方と指導法
8. とび箱あそびのお考え方と指導法
9. 鉄棒あそびのお考え方と指導法
10. かけっこあそびのお考え方と指導法 (1)
11. かけっこあそびのお考え方と指導法 (2)
12. ボールあそびのお考え方と指導法 (1)
13. ボールあそびのお考え方と指導法 (2)

14. 水あそびのお考え方と指導法
15. 縄跳びあそびのお考え方と指導法 (1)
16. 縄跳びあそびのお考え方と指導法 (2)
17. おにごっこのお考え方と指導法 (1)
18. おにごっこのお考え方と指導法 (2)
19. おにごっこのお考え方と指導法 (3)
20. フープあそびのお考え方と指導法
21. 表現あそびのお考え方と指導法 (1)
22. 表現あそびのお考え方と指導法 (2)
23. 運動会のお考え方と指導法
24. ~29. 模擬指導
30. 指導課題と評価、まとめ

授業概略

幼児の運動あそびは、子どもの「遊び」に本来含まれている「自発的・積極的・創造的で自由な」活動を基本にして、調和的な健康づくりをめざすものです。

この授業では、心身の健やかな発達を促す運動あそびを、実際どのように指導していけばよいのかを、講義と実技を通して、段階的・系統的に学んでいきます。その中で、幼児に対して体育的な指導を行うために正しく理解しておきたい基礎的理論（発育・発達の知見、指導方法など）についても学習していきます。

教科書

学校体育研究同志会編、『乳幼児の体育あそび』、草土文化、1999

参考書

- 井上勝子編著、『すこやかな子どもの心と体を育む運動遊び』、建帛社、2006
 岩崎洋子編、『保育と幼児期の運動あそび』、萌文書林、2008
 小谷隆真著、『あたらしい表現遊び』、すずき出版、1994
 ちいさいなかま編集部編、『なにをあそぶ？保育園で人気のおにごっこいろいろ』、草土文化、1997

成績評価の方法・基準

1. 出席、2. 受講態度、3. 学習カードの提出、4. 課題実技、5. レポートの総合評価とする。

事前準備学習

模擬指導を担当するときは、30分間の運動あそびの指導計画を立てる。

備考

運動に適した服装・上履きを準備すること。

13142 身体表現

(Expression through Body Movement)

配置年次 カリキュラムにより異なります。

単位数 2 期間 後期

担当者 鎌形 由貴乃

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

保育

到達目標

『リトミック』という方法を通して、受講者自身が身体表現することを体験しながら子どもたちの身体表現に対する理解を深めることができる。受講者自身が表現することに対して、素直に正直に向き合い、少しずつ心を開いていくプロセスを大切にしたい。

授業計画

- 【第01回】 オリエンテーションー “リトミック” について
- 【第02回】 音・音楽と一緒に動こう
- 【第03回】 音・音楽と一緒に動こう
- 【第04回】 音を探しにいこう
- 【第05回】 子ども身体表現について考える：VTR (その1)
- 【第06回】 子ども表現から私達 (おとな) の表現を発展させよう

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

- 【第07回】人間彫刻—自分の感覚を再確認しよう
- 【第08回】子どもの身体表現について考える：VTR（その2）
- 【第09回】“自分の身体”と“相手の身体”を感じて動く
- 【第10回】和音に隠された“時間”“空間”“エネルギー”を感じて動く
- 【第11回】音符に隠された“時間”“空間”“エネルギー”を感じて動く
- 【第12回】子どもの身体表現について考える：VTR（その3）
- 【第13回】“身体が楽器”—プラスチックアニメへの誘い
- 【第14回】海外（スイス）におけるリトミック教育：VTR
- 【第15回】授業のまとめ

授業概略

『リトミック』は、スイスの作曲家エミール・ジャック＝ダルクローズが考案した、音楽教育・表現教育のメソッドである。ダルクローズは、『リトミック』による活動のポイントを「内的聴覚を働かせることにより、音・音楽の動きと身体の動きとを対応させ、それらの関係を意識していくこと」とした。授業では、時に楽しく、時にシビアに「音楽と動き」の関係を体験し、平面的ではなく、様々なエネルギーの内在する音楽表現活動や身体表現活動の心地良さ、意義深さを感じていく。子どもにとって表現することは、きわめて自然であり心地良いことである。生き生きとした活動は、必ず子どもたちの心の琴線に触れるに違いない。

教科書

なし

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

成績評価の方法・基準

授業時の課題（レポート、感想文、演習など）、実技試験、出席状況などから総合的に判断する。

事前準備学習

なし

備考

“動き”の授業なので、動きやすい服装で受講のこと。

13143 音楽Ⅱ a

(Music II a)

配置年次 2

単位数 2 期間 通年

担当者 長澤 順

履修可能学科

E Pc C W F

関連資格

教職 保育

到達目標

童謡の歌唱を中心とする音楽活動は、保育園・幼稚園で日常的に行われ、園児の生活において欠かせないものとなっています。近年では、音楽活動に力を入れ、それをセールスポイントにしている園も多く見られるほどです。そのため、これからの保育士・幼稚園教諭には、高い音楽能力が求められます。この授業では、幼児保育の現場において必要な音楽の知識・技能を身につけるとともに、幼児の音楽活動の実際を想定した指導法や、音楽実技能力を習得することができます。

授業計画

<前期>

1. オリエンテーション／幼児に与える打楽器の演奏法と指導法
2. 保育実習準備（季節の歌、手遊び、振り付け）
3. 保育実習準備（リトミック、手遊び、遊び歌）
4. 保育実習準備（実習曲弾き歌い、歌唱指導法）
5. 実習報告会／音楽理論の復習
6. 鍵盤ハーモニカ指導法（1）指導計画
7. 鍵盤ハーモニカ指導法（2）プレゼンテーション

8. コードと主要三和音
9. コードの転回形
10. 調性と音階（1）
11. 調性と音階（2）
12. 主要三和音によるメロディーへのコード付け（1）／演習
13. 主要三和音によるメロディーへのコード付け（2）／演習
14. 前期音楽理論のまとめ
15. 前期実技の総まとめ

<後期>

1. 手作り楽器の作成（1）
2. 手作り楽器の作成（2）
3. 主要三和音によるメロディーへのコード付け（3）／演習
4. 主要三和音によるメロディーへのコード付け（4）／演習
5. 調号3つ以上の童謡（簡単に弾くために）／演習
6. 様々な伴奏パターン（コードから分散奏へ）
7. 様々な伴奏パターン（主要三和音以外を用いて）
8. 短調の童謡／演習
9. 鼓笛について／合奏（1）
10. 鼓笛指導法・合奏譜の読み方／合奏（2）
11. 移調（1）導入
12. 移調（2）移調の仕方
13. 移調（3）実践
14. 音楽Ⅱ音楽理論の総まとめ／ペーパーテスト
15. 音楽Ⅱ実技の総まとめ／実技テスト

授業概略

季節や行事に関わる「月の歌」を設定し、毎回歌唱を行います（年間約100曲）。また、音楽Ⅰに引き続き、基礎的な音楽理論やコードの知識を習得し、楽譜への理解を深めるとともに、ピアノ簡易伴奏法を実践することにより、弾き歌い曲のレパートリーを広げます。更に、幼児に与える打楽器や鍵盤楽器の指導方法をグループごとに考案し、発表を行います。

教科書

東京福祉保育専門学校編『現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ出版社）
山本秀子著『ピアノのアトリエ 楽典レッスン（2）』（KYODO-MUSIC）

参考書

坂東貴余子編『簡易伴奏による こどもの歌ベストテン<改訂版>』（ドレミ楽譜出版社）
右近義徳編『幼児の音域に合わせた 幼児の歌12ヵ月』（atn）

成績評価の方法・基準

実技試験、筆記試験、演習課題の累積ポイントで評価します。尚、出席日数が基準以下の場合は失格とします。

事前準備学習

年間を通して、ピアノ実技の課題が多いため、ピアノ未経験の場合は困難を伴いますので、予め校外でのピアノレッスンをお勧めします。また、経験者の場合でも、自宅または校内練習室においての十分な予習・復習が必要となります。

13143 音楽Ⅱ b

(Music II b)

配置年次 2

単位数 2 期間 通年

担当者 長澤 順

履修可能学科

E Pc C W F

関連資格

教職 保育

到達目標

童謡の歌唱を中心とする音楽活動は、保育園・幼稚園で日常的に行われ、園児の生活において欠かせないものとなっています。近年では、音楽活動に力を入れ、それをセールスポイントにしている園も多く見られるほどです。そのため、これからの保育士・幼稚園教諭には、高い音楽能力が求められます。この授業では、幼児保育の現場において必要な音楽の知識・技能を身につけるとともに、幼児の音楽活動の実際を想定した指導法や、音楽実技能力を習得することができます。

授業計画

<前期>

1. オリエンテーション／幼児に与える打楽器の演奏法と指導法
2. 保育実習準備（季節の歌、手遊び、振り付け）
3. 保育実習準備（リトミック、手遊び、遊び歌）
4. 保育実習準備（実習曲弾き歌い、歌唱指導法）
5. 実習報告会／音楽理論の復習
6. 鍵盤ハーモニカ指導法（1）指導計画
7. 鍵盤ハーモニカ指導法（2）プレゼンテーション
8. コードと主要三和音
9. コードの転回形
10. 調性と音階（1）
11. 調性と音階（2）
12. 主要三和音によるメロディーへのコード付け（1）／演習
13. 主要三和音によるメロディーへのコード付け（2）／演習
14. 前期音楽理論のまとめ
15. 前期実技の総まとめ

<後期>

1. 手作り楽器の作成（1）
2. 手作り楽器の作成（2）
3. 主要三和音によるメロディーへのコード付け（3）／演習
4. 主要三和音によるメロディーへのコード付け（4）／演習
5. 調号3つ以上の童謡（簡単に弾くために）／演習
6. 様々な伴奏パターン（コードから分散奏へ）
7. 様々な伴奏パターン（主要三和音以外を用いて）
8. 短調の童謡／演習
9. 鼓笛について／合奏（1）
10. 鼓笛指導法・合奏譜の読み方／合奏（2）
11. 移調（1）導入
12. 移調（2）移調の仕方
13. 移調（3）実践
14. 音楽Ⅱ音楽理論の総まとめ／ペーパーテスト
15. 音楽Ⅱ実技の総まとめ／実技テスト

授業概略

季節や行事に関わる「月の歌」を設定し、毎回歌唱を行います（年間約100曲）。また、音楽Ⅰに引き続き、基礎的な音楽理論やコードの知識を習得し、楽譜への理解を深めるとともに、ピアノ簡易伴奏法を実践することにより、弾き歌い曲のレパートリーを広げます。更に、幼児に与える打楽器や鍵盤楽器の指導方法をグループごとに考案し、発表を行います。

教科書

東京福祉保育専門学校編『現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ出版社）
山本秀子著『ピアノのアトリエ 楽典レッスン（2）』（KYODO-MUSIC）

参考書

坂東貴余子編『簡易伴奏による こどもの歌ベストテン<改訂版>』（ドレミ楽譜出版社）
右近義徳編『幼児の音域に合わせた 幼児の歌12ヵ月』（atn）

成績評価の方法・基準

実技試験、筆記試験、演習課題の累積ポイントで評価します。尚、出席日数が基準以下の場合は失格とします。

事前準備学習

年間を通して、ピアノ実技の課題が多いため、ピアノ未経験の場合は困難を伴いますので、予め校外でのピアノレッスンをお勧めします。また、経験者の場合でも、自宅または校内練習室においての十分な予習・復習が必要となります。

13143 音楽Ⅱ c

(Music II c)

配置年次 2

単位数 2 期間 通年

担当者 長澤 順

履修可能学科

E Pc C W F

関連資格

教職 保育

到達目標

童謡の歌唱を中心とする音楽活動は、保育園・幼稚園で日常的に行われ、園児の生活において欠かせないものとなっています。近年では、音楽活動に力を入れ、それをセールスポイントにしている園も多く見られるほどです。そのため、これからの保育士・幼稚園教諭には、高い音楽能力が求められます。この授業では、幼児保育の現場において必要な音楽の知識・技能を身につけるとともに、幼児の音楽活動の実際を想定した指導法や、音楽実技能力を習得することができます。

授業計画

<前期>

1. オリエンテーション／幼児に与える打楽器の演奏法と指導法
2. 保育実習準備（季節の歌、手遊び、振り付け）
3. 保育実習準備（リトミック、手遊び、遊び歌）
4. 保育実習準備（実習曲弾き歌い、歌唱指導法）
5. 実習報告会／音楽理論の復習
6. 鍵盤ハーモニカ指導法（1）指導計画
7. 鍵盤ハーモニカ指導法（2）プレゼンテーション
8. コードと主要三和音
9. コードの転回形
10. 調性と音階（1）
11. 調性と音階（2）
12. 主要三和音によるメロディーへのコード付け（1）／演習
13. 主要三和音によるメロディーへのコード付け（2）／演習
14. 前期音楽理論のまとめ
15. 前期実技の総まとめ

<後期>

1. 手作り楽器の作成（1）
2. 手作り楽器の作成（2）
3. 主要三和音によるメロディーへのコード付け（3）／演習
4. 主要三和音によるメロディーへのコード付け（4）／演習
5. 調号3つ以上の童謡（簡単に弾くために）／演習
6. 様々な伴奏パターン（コードから分散奏へ）
7. 様々な伴奏パターン（主要三和音以外を用いて）
8. 短調の童謡／演習
9. 鼓笛について／合奏（1）
10. 鼓笛指導法・合奏譜の読み方／合奏（2）
11. 移調（1）導入
12. 移調（2）移調の仕方
13. 移調（3）実践
14. 音楽Ⅱ音楽理論の総まとめ／ペーパーテスト

15. 音楽Ⅱ実技の総まとめ／実技テスト

授業概略

季節や行事に関わる「月の歌」を設定し、毎回歌唱を行います（年間約100曲）。また、音楽Ⅰに引き続き、基礎的な音楽理論やコードの知識を習得し、楽譜への理解を深めるとともに、ピアノ簡易伴奏法を実践することにより、弾き歌い曲のレパートリーを広げます。更に、幼児に与える打楽器や鍵盤楽器の指導方法をグループごとに考案し、発表を行います。

教科書

東京福祉保育専門学校編『現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ出版社）

山本秀子著『ピアノのアトリエ 楽典レッスン（2）』（KYODO-MUSIC）

参考書

坂東貴余子編『簡易伴奏による こどもの歌ベストテン＜改訂版＞』（ドレミ楽譜出版社）

右近義徳編『幼児の音域に合わせた 幼児の歌12ヵ月』（atn）

成績評価の方法・基準

実技試験、筆記試験、演習課題の累積ポイントで評価します。尚、出席日数が基準以下の場合は失格とします。

事前準備学習

年間を通して、ピアノ実技の課題が多いため、ピアノ未経験の場合は困難を伴いますので、予め校外でのピアノレッスンをお勧めします。また、経験者の場合でも、自宅または校内練習室においての十分な予習・復習が必要となります。

13143 音楽Ⅱ d

(Music II d)

配置年次 2

単位数 2 期間 通年

担当者 長澤 順

履修可能学科

E Pc C W F

関連資格

教職 保育

到達目標

童謡の歌唱を中心とする音楽活動は、保育園・幼稚園で日常的に行われ、園児の生活において欠かせないものとなっています。近年では、音楽活動に力を入れ、それをセールスポイントにしている園も多く見られるほどです。そのため、これからの保育士・幼稚園教諭には、高い音楽能力が求められます。この授業では、幼児保育の現場において必要な音楽の知識・技能を身につけるとともに、幼児の音楽活動の実際を想定した指導法や、音楽実技能力を習得することができます。

授業計画

<前期>

1. オリエンテーション／幼児に与える打楽器の演奏法と指導法
2. 保育実習準備（季節の歌、手遊び、振り付け）
3. 保育実習準備（リトミック、手遊び、遊び歌）
4. 保育実習準備（実習曲弾き歌い、歌唱指導法）
5. 実習報告会／音楽理論の復習
6. 鍵盤ハーモニカ指導法（1）指導計画
7. 鍵盤ハーモニカ指導法（2）プレゼンテーション
8. コードと主要三和音
9. コードの転回形
10. 調性と音階（1）
11. 調性と音階（2）
12. 主要三和音によるメロディーへのコード付け（1）／演習
13. 主要三和音によるメロディーへのコード付け（2）／

演習

14. 前期音楽理論のまとめ

15. 前期実技の総まとめ

<後期>

1. 手作り楽器の作成（1）
2. 手作り楽器の作成（2）
3. 主要三和音によるメロディーへのコード付け（3）／演習
4. 主要三和音によるメロディーへのコード付け（4）／演習
5. 調号3つ以上の童謡（簡単に弾くために）／演習
6. 様々な伴奏パターン（コードから分散奏へ）
7. 様々な伴奏パターン（主要三和音以外を用いて）
8. 短調の童謡／演習
9. 鼓笛について／合奏（1）
10. 鼓笛指導法・合奏譜の読み方／合奏（2）
11. 移調（1）導入
12. 移調（2）移調の仕方
13. 移調（3）実践
14. 音楽Ⅱ音楽理論の総まとめ／ペーパーテスト
15. 音楽Ⅱ実技の総まとめ／実技テスト

授業概略

季節や行事に関わる「月の歌」を設定し、毎回歌唱を行います（年間約100曲）。また、音楽Ⅰに引き続き、基礎的な音楽理論やコードの知識を習得し、楽譜への理解を深めるとともに、ピアノ簡易伴奏法を実践することにより、弾き歌い曲のレパートリーを広げます。更に、幼児に与える打楽器や鍵盤楽器の指導方法をグループごとに考案し、発表を行います。

教科書

東京福祉保育専門学校編『現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ出版社）

山本秀子著『ピアノのアトリエ 楽典レッスン（2）』（KYODO-MUSIC）

参考書

坂東貴余子編『簡易伴奏による こどもの歌ベストテン＜改訂版＞』（ドレミ楽譜出版社）

右近義徳編『幼児の音域に合わせた 幼児の歌12ヵ月』（atn）

成績評価の方法・基準

実技試験、筆記試験、演習課題の累積ポイントで評価します。尚、出席日数が基準以下の場合は失格とします。

事前準備学習

年間を通して、ピアノ実技の課題が多いため、ピアノ未経験の場合は困難を伴いますので、予め校外でのピアノレッスンをお勧めします。また、経験者の場合でも、自宅または校内練習室においての十分な予習・復習が必要となります。

13144 美術Ⅱ a

(Fine Arts II a)

配置年次 2

単位数 2 期間 通年

担当者 信太 進

履修可能学科

E Pc C W F

関連資格

教職 保育

到達目標

作る力と描く力、見て理解する力と構成し表現する力をつけ、基礎的な造形力を高めることができる。また、保育指導案の造形表現を立案する発想力を伸ばすことができる。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション

＜保育のための紙工作とデザイン＞

- 2 壁面飾り1 (計画：デザイン)
- 3 壁面飾り2 (制作：紙素材と配色)
- 4 壁面飾り3 (制作：接着剤と構成)
- 5 壁面飾り4 (仕上げ：装飾と掲示効果)

＜陶芸とデッサン＞

- 6 タイルの成形 方形と円形
- 7 陶人形、陶彫、土笛の成形1＜選択＞
- 8 陶人形、陶彫、土笛の成形2＜選択＞
- 9 幼児と粘土遊び
- 10 方形と円形のデッサン
- 11 タイルの絵付け
- 12 立体のデッサン1
- 13 立体のデッサン2
- 14 陶人形、陶彫、土笛の絵付け＜選択＞
- 15 発表と相互鑑賞

【後期】

＜絵画とデザイン＞

- 1 幼児と描画遊び
- 2 フロッタージュと淡彩
- 3 細密描写
- 4 風景を描く1 (水彩画)
- 5 風景を描く2 (水彩画)
- 6 風景を描く3 (水彩画)
- 7 セルフポートレート・デザイン1 (色画用紙)
- 8 セルフポートレート・デザイン2 (色画用紙)
- 9 セルフポートレート・デザイン3 (色画用紙)

＜染色とデザイン＞

- 10 幼児と自然素材の造形遊び
- 11 絞り染め1 (防染技法)
- 12 絞り染め2 (防染技法)
- 13 草木(藍)染料
- 14 シリアス染料
- 15 発表と相互鑑賞

授業概略

それぞれの単元は、シンプルかつ変化に富んだ表現ができるようにしました。テーマごとに保育指導計画案に活用できるような内容を盛り込んでいます。また、美術Ⅱではレベルを少し上げて、美術Ⅰより目標を高くしてあります。美術を楽しむことや創作体験だけの時間ではなく、この授業を通して作品づくりのワザも覚えてほしいと思います。

教科書

教科書はありません。プリント・参考資料などを配布します。

参考書

なし

成績評価の方法・基準

課題作品・発表と、出席状況・授業態度(準備・片付け・掃除)を総合して評価します。

事前準備学習

なし

13144 美術Ⅱ b

(Fine Arts II b)

配置年次 2

単位数 2 期間 通年

担当者 信太 進

履修可能学科

E Pc C W F

関連資格

教職 保育

到達目標

作る力と描く力、見て理解する力と構成し表現する力をつけ、基礎的な造形力が高めることができる。また、保育指導案の造形表現を立案する発想力を伸ばすことができる。

授業計画

【前期】

- 1 オリエンテーション
- ＜保育のための紙工作とデザイン＞
- 2 壁面飾り1 (計画：デザイン)
- 3 壁面飾り2 (制作：紙素材と配色)
- 4 壁面飾り3 (制作：接着剤と構成)
- 5 壁面飾り4 (仕上げ：装飾と掲示効果)

＜陶芸とデッサン＞

- 6 タイルの成形 方形と円形
- 7 陶人形、陶彫、土笛の成形1＜選択＞
- 8 陶人形、陶彫、土笛の成形2＜選択＞
- 9 幼児と粘土遊び
- 10 方形と円形のデッサン
- 11 タイルの絵付け
- 12 立体のデッサン1
- 13 立体のデッサン2
- 14 陶人形、陶彫、土笛の絵付け＜選択＞
- 15 発表と相互鑑賞

【後期】

＜絵画とデザイン＞

- 1 幼児と描画遊び
- 2 フロッタージュと淡彩
- 3 細密描写
- 4 風景を描く1 (水彩画)
- 5 風景を描く2 (水彩画)
- 6 風景を描く3 (水彩画)
- 7 セルフポートレート・デザイン1 (色画用紙)
- 8 セルフポートレート・デザイン2 (色画用紙)
- 9 セルフポートレート・デザイン3 (色画用紙)

＜染色とデザイン＞

- 10 幼児と自然素材の造形遊び
- 11 絞り染め1 (防染技法)
- 12 絞り染め2 (防染技法)
- 13 草木(藍)染料
- 14 シリアス染料
- 15 発表と相互鑑賞

授業概略

それぞれの単元は、シンプルかつ変化に富んだ表現ができるようにしました。テーマごとに保育指導計画案に活用できるような内容を盛り込んでいます。また、美術Ⅱではレベルを少し上げて、美術Ⅰより目標を高くしてあります。美術を楽しむことや創作体験だけの時間ではなく、この授業を通して作品づくりのワザも覚えてほしいと思います。

教科書

教科書はありません。プリント・参考資料などを配布します。

参考書

なし

成績評価の方法・基準

課題作品・発表と、出席状況・授業態度(準備・片付け・掃除)を総合して評価します。

事前準備学習

なし

13145 保育実践研究 A

(Studies in Child-care Practice A)

配置年次 4

単位数 2 期間 前期

担当者 教務委員会

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

大学3年間で学んだことを実践の場を体験して、検討・深

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

化できる。

授業計画

1. 3年次1月に、指導教員、研修課題、研修先を仮登録し、学科の許可を得る。
2. 研修先と相談して、研修日・研修内容をきめる。
3. 研修日ごとに研修記録を作成し、大学の指導教員に提出する。
4. 研修課題に沿った研修報告を作成する。

授業概略

研修先となる保育園・幼稚園で約20時間、保育実践を学ぶ。予め設定した研究課題を探求するために、研修期間中の詳細な研修記録を大学の指導教員に提出する。また、前期末に研修報告を作成し、大学および研修先に提出する。

教科書

なし

参考書

なし

成績評価の方法・基準

研修期間中の研修記録、研修課題についての研修報告によって評価する。

事前準備学習

指導教員・研修先を十分に話し合っ、研修課題を明確にすることが必要。

備考

3年次1月に仮登録し、学科の承認を得ていること。

13146 保育実践研究B

(Studies in Child-care Practice B)

配置年次 4

単位数 2 期間 前期

担当者 教務委員会

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

大学3年間で学んだことを実践の場を体験して、検討・深化できる。

授業計画

1. 3年次1月に、指導教員、研修課題、研修先を仮登録し、学科の許可を得る。
2. 研修先と相談して、研修日・研修内容をきめる。
3. 研修日ごとに研修記録を作成し、大学の指導教員に提出する。
4. 研修課題に沿った研修報告を作成する。

授業概略

研修先（児童養護施設・乳児院・子育て支援センターなど）で約20時間、保育実践を学ぶ。予め設定した研究課題を探求するために、研修期間中の詳細な研修記録を大学の指導教員に提出する。また、前期末に研修報告を作成し、大学および研修先に提出する。

教科書

なし

参考書

なし

成績評価の方法・基準

研修期間中の研修記録、研修課題についての研修報告によって評価する。

事前準備学習

指導教員・研修先と十分に話し合っ、研修課題を明確にすることが必要。

備考

3年次1月に仮登録し、学科の了承を得ていること。

13148 卒業研究

(Graduation Project)

配置年次 4

単位数 4

担当者 北 脩

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

自然界に見られる様々な事象を調査・実験・観察することで科学的な見方や考え方を習得する。

授業計画

履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

授業概略

自然界に見られる様々な事象の中から、各自ないしグループが関心を持つ課題を、調査・実験・観察の対象として、実験計画を立て、それに従って作業を進める。

教科書

選択した課題を研究する上で必要な資料は随時配布する。

参考書

課題の研究に必要な参考書は必要に応じ紹介する。

成績評価の方法・基準

課題に対する取り組む姿勢。研究方法・研究成果。

事前準備学習

なし

13148 卒業研究

(Graduation Project)

配置年次 4

単位数 4

担当者 中島 美那子

履修可能学科

Pc

関連資格

到達目標

授業計画

履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

授業概略

教科書

参考書

成績評価の方法・基準

事前準備学習

13149 総合演習 a

(General Seminar a)

配置年次 カリキュラムにより異なります。

単位数 2 期間 後期

担当者 矢田 訓子

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

人類に共通する課題や我が国の社会全体にかかわる課題について特に教育の観点から資料収集・分析・検討を行えるようになること、またこれを保護者や社会に向けて説明するための技法を身につけることが本講義の目標です。

授業計画

- (1) オリエンテーション「総合演習」の意義と目標
- (2) 近年の教育改革の動向について
- (3) テーマ決定のための基礎資料の提示・説明
- (4) 研究計画の作成および資料収集
- (5) 研究計画に基づいた資料収集

- (6) 中間報告およびディスカッション
- (7) 中間報告およびディスカッション
- (8) 中間報告およびディスカッション
- (9) 中間報告およびディスカッション
- (10) 研究計画の見直し
- (11) プレゼンテーションおよびディスカッション
- (12) プレゼンテーションおよびディスカッション
- (13) プレゼンテーションおよびディスカッション
- (14) プレゼンテーションおよびディスカッション
- (15) まとめ—総評

授業概略

本演習では、グループごとに資料収集・分析・検討の上発表し、それを基にしたクラス全体でのディスカッションを行います。テーマは、近年教育に期待されている取り組みのうち、特に地球環境、国際理解など人類共通の課題や少子社会、学校—家庭—地域連携の取り組みなど我が国の社会全体の課題にかかわる取り組みのなかからグループごとに選択します。そのうえで研究・発表・ディスカッションを行い、社会と教育の関係について理解を深めます。

教科書

江川 玖成ほか編著『最新教育キーワード—第13版—』、時事通信社、2009。

参考書

授業にて随時提示します。

成績評価の方法・基準

グループでの発表に加え、学期末に個人に課すレポートにより評価します。なお、具体的な配点については、第一回講義にて説明します。

事前準備学習

原則として、実際の演習回数の3分の1以上を欠席したものは受講放棄とみなします。

13149 総合演習 b

(General Seminar b)

配置年次 カリキュラムにより異なります。

単位数 2 **期間** 後期

担当者 矢田 訓子

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

人類に共通する課題や我が国の社会全体にかかわる課題について特に教育の観点から資料収集・分析・検討を行えるようになること、またこれを保護者や社会に向けて説明するための技法を身につけることが本講義の目標です。

授業計画

- (1) オリエンテーション—「総合演習」の意義と目標
- (2) 近年の教育改革の動向について
- (3) テーマ決定のための基礎資料の提示・説明
- (4) 研究計画の作成および資料収集
- (5) 研究計画に基づいた資料収集
- (6) 中間報告およびディスカッション
- (7) 中間報告およびディスカッション
- (8) 中間報告およびディスカッション
- (9) 中間報告およびディスカッション
- (10) 研究計画の見直し
- (11) プレゼンテーションおよびディスカッション
- (12) プレゼンテーションおよびディスカッション
- (13) プレゼンテーションおよびディスカッション
- (14) プレゼンテーションおよびディスカッション
- (15) まとめ—総評

授業概略

本演習では、グループごとに資料収集・分析・検討の上発表し、それを基にしたクラス全体でのディスカッションを

行います。テーマは、近年教育に期待されている取り組みのうち、特に地球環境、国際理解など人類共通の課題や少子社会、学校—家庭—地域連携の取り組みなど我が国の社会全体の課題にかかわる取り組みのなかからグループごとに選択します。そのうえで研究・発表・ディスカッションを行い、社会と教育の関係について理解を深めます。

教科書

江川 玖成ほか編著『最新教育キーワード—第13版—』、時事通信社、2009。

参考書

授業にて随時提示します。

成績評価の方法・基準

グループでの発表に加え、学期末に個人に課すレポートにより評価します。なお、具体的な配点については、第一回講義にて説明します。

事前準備学習

原則として、実際の演習回数の3分の1以上を欠席したものは受講放棄とみなします。

13150 保育内容総論 a

(Introduction to Nursery School Materials a)

配置年次 2

単位数 2 **期間** 前期

担当者 大島 孝子

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

- 1. 保育の意義や保育内容を総合的にとらえる視点を理解する。
- 2. 子どもにとって必要な経験内容を吟味し、子どもに育つものを見通して保育内容を構成することができる。

授業計画

- 1. オリエンテーション：子どもに対する基本的姿勢について
- 2. 教育課程の意義 (1) 幼稚園の教育課程
- 3. 教育課程の意義 (2) 保育の意義と保育内容を捉える視点
- 4. 教育課程の意義 (3) 保育所の保育課程
- 5. 教育課程の意義 (4) 教育内容の組織化と領域
- 6. 遊びを通しての総合的指導と指導法
- 7. 保育の一日と内容 (3～5歳児)
- 8. 幼稚園の教育課程の編成
- 9. 幼稚園の指導計画の作成
- 10. 保育所の指導計画の作成
- 11. 保育内容の変遷
- 12. 倉橋惣三の思想 (1) 幼稚園教育の歴史
- 13. 倉橋惣三の思想 (2) 幼児教育論の特徴
- 14. 保育者の仕事と専門性
- 15. 小学校教育との関連 (幼保小の連携も含む)

授業概略

子どもの生活環境が大きく変化している現代、遊ぶ時間、空間、仲間が減り、育児が密室化しています。これまでに、子どもにとって、幼稚園などの集団生活は教育の場として重要な意味を持ってきています。本講義では、はじめに教育課程の意義について講義し、保育の意義や保育内容を捉える視点を把握し、子どもの発達に応じた保育の中身を見ていく事とします。視聴覚教材を活用し、保育の現在を学んでいきます。また、日本の幼児教育の父といわれる倉橋惣三の幼児教育論を中心に保育内容の変遷を学び、保育者の仕事や専門性とは何かについてグループディスカッションを通して考えます。また、小学校教育との関連についても講義します。

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

教科書

小田豊・神永美津子他編著 新保育シリーズ『保育内容総論』（光生館）

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
『保育所保育指針』

成績評価の方法・基準

出席状況、提出物、テスト、授業態度を総合して評価する。

事前準備学習

教科書を熟読しておくこと。

13150 保育内容総論 b

(Introduction to Nursery School Materials b)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 大畠 孝子

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

1. 保育の意義や保育内容を総合的にとらえる視点を理解する。
2. 子どもにとって必要な経験内容を吟味し、子どもに育つものを見通して保育内容を構成することができる。

授業計画

1. オリエンテーション：子どもに対する基本的姿勢について
2. 教育課程の意義（1） 幼稚園の教育課程
3. 教育課程の意義（2） 保育の意義と保育内容を捉える視点
4. 教育課程の意義（3） 保育所の保育課程
5. 教育課程の意義（4） 教育内容の組織化と領域
6. 遊びを通しての総合的指導と指導法
7. 保育の一日と内容（3～5歳児）
8. 幼稚園の教育課程の編成
9. 幼稚園の指導計画の作成
10. 保育所の指導計画の作成
11. 保育内容の変遷
12. 倉橋惣三の思想（1） 幼稚園教育の歴史
13. 倉橋惣三の思想（2） 幼児教育論の特徴
14. 保育者の仕事と専門性
15. 小学校教育との関連（幼保小の連携も含む）

授業概略

子どもの生活環境が大きく変化している現代、遊ぶ時間、空間、仲間が減り、育児が密室化しています。これまで以上に、子どもにとって、幼稚園などの集団生活は教育の場として重要な意味を持ってきています。本講義では、はじめに教育課程の意義について講義し、保育の意義や保育内容を捉える視点を把握し、子どもの発達に応じた保育の中身を見ていく事とします。視聴覚教材を活用し、保育の現在を学んでいきます。また、日本の幼児教育の父といわれる倉橋惣三の幼児教育論を中心に保育内容の変遷を学び、保育者の仕事や専門性とは何かについてグループディスカッションを通して考えます。また、小学校教育との関連についても講義します。

教科書

小田豊・神永美津子他編著 新保育シリーズ『保育内容総論』（光生館）

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
『保育所保育指針』

成績評価の方法・基準

出席状況、提出物、テスト、授業態度を総合して評価する。

事前準備学習

教科書を熟読しておくこと。

13151 保育内容研究・健康 a

(Studies in Nursery School Materials : Health a)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 市村 國夫

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

本時は保育者を目指す学生が子どもの発育・発達について理解することを目標とする。

乳児・幼児は未成熟であるが目覚ましい発育・発達をする。健やかな成長を支える保育者には子どもの発育・発達について十分な理解が求められる。未成熟な子どもがどのように成長してゆくのか、個人差を持ちながら人との関わり、環境との関わり、子供同士の関わりと種々の経験をしてゆく中で身に付けてゆくことは多い。生活習慣、人との触れ合い、食事、遊び、安全な行動などの重要性について具体的に学んでゆく。

授業計画

- (1) 乳児・幼児の健康
- (2) 保育所保育指針「健康」のねらい、内容
- (3) 保育の原理、保育所の役割
- (4) 子どもの発育・発達の特徴
- (5) 乳幼児の発達の特性
- (6) 乳幼児期の病気・障害
- (7) 乳幼児期の感染性疾患
- (8) 乳幼児の動作の発達
- (9) パーソナリティーの形成
- (10) 乳幼児の基本的な生活習慣
- (11) 乳幼児の食事・栄養
- (12) 乳幼児のあそび
- (13) 乳幼児の社会性の形成
- (14) 乳幼児の安全管理と事故
- (15) 乳幼児の健康教育及び総纏め

授業概略

本時は上記の目標達成のために講義を行なうことが多くなる。また、子ども健康問題に関するDVD鑑賞などを通して、より良い健康づくりの方策などを考える。出来れば乳幼児の保育計画をグループ作業によって作成したい。

教科書

保育所保育指針（厚生労働省）

授業時に一部の参考資料（プリント）を配布する。

参考書

必要な際に指示する。

成績評価の方法・基準

授業時の課題（レポート、小テストなど）、期末試験
また、授業への積極的な参加は評価される。

事前準備学習

特に無い

13151 保育内容研究・健康 b

(Studies in Nursery School Materials : Health b)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 市村 國夫

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

本時は保育者を目指す学生が子どもの発育・発達について理解することを目標とする。
乳児・幼児は未成熟であるが目覚しい発育・発達をする。健やかな成長を支える保育者には子どもの発育・発達について十分な理解が求められる。未成熟な子どもがどのように成長してゆくのか、個人差を持ちながら人との関わり、環境との関わり、子供同士の関わりと種々の経験をしてゆく中で身に付けてゆくことは多い。生活習慣、人との触れ合い、食事、遊び、安全な行動などの重要性について具体的に学んでゆく。

授業計画

- (1) 乳児・幼児の健康
- (2) 保育所保育指針「健康」のねらい、内容
- (3) 保育の原理、保育所の役割
- (4) 子どもの発育・発達の特徴
- (5) 乳幼児の発達の特性
- (6) 乳幼児期の病気・障害
- (7) 乳幼児期の感染性疾患
- (8) 乳幼児の動作の発達
- (9) パーソナリティーの形成
- (10) 乳幼児の基本的な生活習慣
- (11) 乳幼児の食事・栄養
- (12) 乳幼児のあそび
- (13) 乳幼児の社会性の形成
- (14) 乳幼児の安全管理と事故
- (15) 乳幼児の健康教育及び総まとめ

授業概略

本時は上記の目標達成のために講義を行なうことが多くなる。また、子ども健康問題に関するDVD鑑賞などを通して、より良い健康づくりの方策などを考える。出来れば乳幼児の保育計画をグループ作業によって作成したい。

教科書

保育所保育指針（厚生労働省）
授業時に一部の参考資料（プリント）を配布する。

参考書

必要な際に指示する。

成績評価の方法・基準

授業時の課題（レポート、小テストなど）、期末試験
また、授業への積極的な参加は評価される。

事前準備学習

特に無い

13152 保育内容研究・人間関係 a
(Studies in Nursery School Materials : Human Relations a)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 菅野 ひろみ

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

- (1) 幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「人間関係」について概略を説明することができる。
- (2) 子どもの人間関係の発達段階に応じた遊びや援助方法を具体的に述べることができる。

授業計画

- 第1回 この授業の到達目標と概略
- 第2回 幼稚園教育要領と保育所保育指針における領域「人間関係」
- 第3回 子どもの発達と人間関係 0～3歳
- 第4回 子どもの発達と人間関係 4歳
- 第5回 子どもの発達と人間関係 5歳
- 第6回 家族とのかかわりと子どもの自立

- 第7回 保育者との信頼関係の構築
- 第8回 遊びと人間関係
- 第9回 子ども同士のかかわりと保育者の役割
- 第10回 事例検討「自立と協同」
- 第11回 事例検討「ルール」
- 第12回 事例検討「思いやり」
- 第13回 事例検討「親子関係」
- 第14回 保護者と保育者の人間関係
- 第15回 保育者自身の人間関係の発達を考える、および総まとめ

授業概略

幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「人間関係」の内容をふまえ、子どもの発達段階に即した指導や援助の方法を学びます。人間関係の広がりや深まりがどのように子どもの社会性をはぐくみ、自立を支えていくのか理解を深め、保育者の役割を検討します。

教科書

なし

参考書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」
厚生労働省「保育所保育指針解説書」

成績評価の方法・基準

試験、提出物、出席状況、授業態度を総合して評価します。

事前準備学習

なし

13152 保育内容研究・人間関係 b
(Studies in Nursery School Materials : Human Relations b)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 菅野 ひろみ

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

- (1) 幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「人間関係」について概略を説明することができる。
- (2) 子どもの人間関係の発達段階に応じた遊びや援助方法を具体的に述べることができる。

授業計画

- 第1回 この授業の到達目標と概略
- 第2回 幼稚園教育要領と保育所保育指針における領域「人間関係」
- 第3回 子どもの発達と人間関係 0～3歳
- 第4回 子どもの発達と人間関係 4歳
- 第5回 子どもの発達と人間関係 5歳
- 第6回 家族とのかかわりと子どもの自立
- 第7回 保育者との信頼関係の構築
- 第8回 遊びと人間関係
- 第9回 子ども同士のかかわりと保育者の役割
- 第10回 事例検討「自立と協同」
- 第11回 事例検討「ルール」
- 第12回 事例検討「思いやり」
- 第13回 事例検討「親子関係」
- 第14回 保護者と保育者の人間関係
- 第15回 保育者自身の人間関係の発達を考える、および総まとめ

授業概略

幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「人間関係」の内容をふまえ、子どもの発達段階に即した指導や援助の方法を学びます。人間関係の広がりや深まりがどのように子どもの社会性をはぐくみ、自立を支えていくのか理解を深め、保育者の役割を検討します。

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

教科書

なし

参考書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」
厚生労働省「保育所保育指針解説書」

成績評価の方法・基準

試験、提出物、出席状況、授業態度を総合して評価します。

事前準備学習

なし

13153 保育内容研究・環境 a

(Studies in Nursery School Materials : Environment a)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 北 脩

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

保育における自然との係わりについて理解し、子供の心身の発達を支援することができるような保育教材を立案・開発し実施できる。

授業計画

1. 子供と環境
- 2～5. 植物の栽培・土づくり・種まき・移植
- 6～7. 植物の観察・遊びの対象となる花や葉の観察
- 8～11. 植物を材料とした遊びや道具の製作・色水づくり・染色・水鉄砲、竹トンボ
- 12～14. 動物の飼育・観察
15. まとめ

授業概略

子供と環境との係わりについての理解を図ると同時に、環境の視点から、子供の心身の発達を支援することができるような保育教材を立案し実施できるように実習していきます。授業では、子供たちの身の回りの環境、特に自然環境の中の植物、動物を対象にして庭や林、海辺や川辺の植物の観察、草花や作物の栽培・加工、海や川の動物の観察、小動物の飼育など具体的な教材を選び実習する予定です。

教科書

必要な資料は授業時に配布します。

参考書

なし

成績評価の方法・基準

レポート、各種提出物、出席状況など総合的に評価します。

事前準備学習

身近な動物や植物に関心を持つように努めてください。

13153 保育内容研究・環境 b

(Studies in Nursery School Materials : Environment b)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 北 脩

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

保育における自然との係わりについて理解し、子供の心身の発達を支援することができるような保育教材を立案し実施できる。

授業計画

1. 子供と環境
- 2～5. 植物の栽培・土づくり・種まき・移植

6～7. 植物の観察・遊びの対象となる花や葉の観察

8～11. 植物を材料とした遊びや道具の製作・色水づくり・染色・水鉄砲、竹トンボ

12～14. 動物の飼育・観察

15. まとめ

授業概略

子供と環境との係わりについての理解を図ると同時に、環境の視点から、子供の心身の発達を支援することができるような保育教材を立案し実施できるように実習していきます。授業では、子供たちの身の回りの環境、特に自然環境の中の植物、動物を対象にして庭や林、海辺や川辺の植物の観察、草花や作物の栽培・加工、海や川の動物の観察、小動物の飼育など具体的な教材を選び実習する予定です。

教科書

必要な資料は授業時に配布します。

参考書

なし

成績評価の方法・基準

レポート、各種提出物、出席状況など総合的に評価します。

事前準備学習

身近な動物や植物に関心を持つように努めてください。

13154 保育内容研究・言葉 a

(Studies in Nursery School Materials : Language a)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 原口 なおみ

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

誕生から入学までの子どもの言葉の発達過程を理解し、子どもの言葉を育てる児童文化財を適切に選び、活用することができる。

授業計画

1. 言葉の誕生・0歳児の「ことば」
2. わらべうた
3. 1歳児の発達と言葉
4. 赤ちゃん絵本
5. 2歳児の発達・言葉が生まれる時
6. 3歳児の言葉
7. 物語絵本との出会い
8. 4歳児の言葉
9. 人形劇ワークショップ
10. 5歳児の言葉
11. 昔話を聞く意味
12. 文字を覚えるということ
13. 絵本の読み聞かせ実習
14. 紙芝居・ペープサート・エプロンシアターの実習
15. 児童文化財を使って指導案を作る

授業概略

誕生から入学までの子どもの言葉の発達過程を示し、それぞれの発達段階に合った児童文化財について学ぶ。乳児期のわらべうた、赤ちゃん絵本、幼児期の紙芝居、物語絵本、簡単な人形劇（ペープサート、エプロンシアターを含む）おはなし、幼年童話などを実演・紹介し、それぞれのジャンルの特徴を説明して、保育の現場で活用できる保育実技を習得する。授業後半には、一人ひとり実技を発表し、保育教材を選ぶ視点と、子どもたちに届ける技を獲得する。

教科書

小川清実『演習 児童文化 保育内容としての実践と展開』 萌文書林 2010年 1800円

参考書

『幼稚園教育要領』特に第2章ねらい及び9内容の言葉の

項

岡本夏木『幼児期』岩波新書 2005年
汐見稔幸『はじめて出会う育児の百科』小学館 2003年

成績評価の方法・基準

実技習得のためには出席することが大前提になる。とくに読み聞かせ等の実習を行わなかった場合は失格とする。実技（作品の選び方と演じ方）・授業時の小レポート・学期末のレポート（絵本の解題・部分実習指導案）を総合的に評価する。

事前準備学習

自分が幼い時に会った絵本・わらべうたなどを、読み直してみると、講義のイメージがつかめるでしょう。

13154 保育内容研究・言葉 b

(Studies in Nursery School Materials : Language b)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 原口 なおみ

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

誕生から入学までの子どもの言葉の発達過程を理解し、子どもの言葉を育てる児童文化財を適切に選び、活用することができる。

授業計画

1. 言葉の誕生・0歳児の「ことば」
2. わらべうた
3. 1歳児の発達と言葉
4. 赤ちゃん絵本
5. 2歳児の発達・言葉が生まれる時
6. 3歳児の言葉
7. 物語絵本との出会い
8. 4歳児の言葉
9. 人形劇ワークショップ
10. 5歳児の言葉
11. 昔話を聞く意味
12. 文字を覚えるということ
13. 絵本の読み聞かせ実習
14. 紙芝居・ペープサート・エプロンシアターの実習
15. 児童文化財を使って指導案を作る

授業概略

誕生から入学までの子どもの言葉の発達過程を示し、それぞれの発達段階に合った児童文化財について学ぶ。乳児期のわらべうた、赤ちゃん絵本、幼児期の紙芝居、物語絵本、簡単な人形劇（ペープサイト、エプロンシアターを含む）おはなし、幼年童話などを実演・紹介し、それぞれのジャンルの特徴を説明して、保育の現場で活用できる保育実技を習得する。授業後半には、一人ひとり実技を発表し、保育教材を選ぶ視点と、子どもたちに届ける技を獲得する。

教科書

小川清実『演習 児童文化 保育内容としての実践と展開』萌文書林 2010年 1800円

参考書

『幼稚園教育要領』特に第2章ねらい及び9内容の言葉の項

岡本夏木『幼児期』岩波新書 2005年

汐見稔幸『はじめて出会う育児の百科』小学館 2003年

成績評価の方法・基準

実技習得のためには出席することが大前提になる。とくに読み聞かせ等の実習を行わなかった場合は失格とする。実技（作品の選び方と演じ方）・授業時の小レポート・学期末のレポート（絵本の解題・部分実習指導案）を総合的に評価する。

事前準備学習

自分が幼い時に会った絵本・わらべうたなどを、読み直してみると、講義のイメージがつかめるでしょう。

13155 保育内容研究・表現 I a

(Studies in Nursery School Materials : Expression I a)

配置年次 3

単位数 2 期間 前期

担当者 鎌形 由貴乃

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

受講者自身が音楽体験を通して豊かな表現者となることができる。また、音楽体験を通して得た感覚や感動などを実際の現場でどの様に子どもたちに伝え、共有していくのかを考えることができる。

授業計画

- 【第01回】オリエンテーション
- 【第02回】歌って！歌って！想像して！—子どもたちにとって歌とは、音楽とは。
- 【第03回】歌って！歌って！想像して！—子どもたちにとって歌とは、音楽とは。
- 【第04回】子どもの音楽表現を考える：VTR（その1）
- 【第05回】音を探しにいこう—無意識の意識化=子どもの世界
- 【第06回】〈朝の会〉模擬実習（全5回）
- 【第07回】“わらべうた”“プレイソング”—伴奏がなくても音楽を感じさせる歌を歌おう。
- 【第08回】“子守歌”考—感情から出発する音楽表現
- 【第09回】子どもの音楽表現を考える：VTR（その2）
- 【第10回】弾き歌い（弾き語り）クリニック—子どもたちは保育者の演奏から何を感じるのか。
- 【第11回】弾き歌い（弾き語り）クリニック
- 【第12回】弾き歌い（弾き語り）クリニック
- 【第13回】実技試験に向けての準備—歌の表現を通して自分という存在や自分の空間を意識する。
- 【第14回】子どもたちと音楽空間・表現空間を共有するために必要なものとは何だろう：VTR（その3）
- 【第15回】授業のまとめ

授業概略

子どもたちにとって、音楽は生活の中に自然な形で存在する。この授業では、自然体で存在する音楽表現や子どもの表現活動などに目を向け考察し、理解を深めていく。また〈朝の会〉の模擬実習や〈弾き語りクリニック〉を行うことにより、自分の表現手段を整え、現場での活動に必要な知識・技術を身につけることができるようにする。

教科書

神原雅之・鈴木恵津子「幼稚園教諭・保育士養成課程『幼児のための音楽教育』」教育芸術社、2010年。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

成績評価の方法・基準

授業時の課題（レポート、感想文、演習など）、実技試験、出席状況などから総合的に判断する。

事前準備学習

なし

13155 保育内容研究・表現 I b

(Studies in Nursery School Materials : Expression I b)

配置年次 3

単位数 2 期間 前期

担当者 鎌形 由貴乃

共

通

E

P

e

P

c

C

生

活

基

礎

W

F

看

護

基

礎

N

経

営

基

礎

M

卒

外

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

受講者自身が音楽体験を通して豊かな表現者となることができる。また、音楽体験を通して得た感覚や感動などを実際の現場でどの様に子どもたちに伝え、共有していくのかを考えることができる。

授業計画

【第01回】オリエンテーション

【第02回】歌って！歌って！想像して！－子どもたちにとって歌とは、音楽とは。

【第03回】歌って！歌って！想像して！－子どもたちにとって歌とは、音楽とは。

【第04回】子どもの音楽表現を考える：VTR（その1）

【第05回】音を探しにいこう－無意識の意識化＝子どもの世界

【第06回】〈朝の会〉模擬実習（全5回）

【第07回】“わらべうた”“プレイソング”－伴奏がなくても音楽を感じさせる歌を歌おう。

【第08回】“子守歌”考－感情から出発する音楽表現

【第09回】子どもの音楽表現を考える：VTR（その2）

【第10回】弾き歌い（弾き語り）クリニック－子どもたちは保育者の演奏から何を感じるのか。

【第11回】弾き歌い（弾き語り）クリニック

【第12回】弾き歌い（弾き語り）クリニック

【第13回】実技試験に向けての準備－歌の表現を通して自分という存在や自分の空間を意識する。

【第14回】子どもたちと音楽空間・表現空間を共有するために必要なものとは何だろう：VTR（その3）

【第15回】授業のまとめ

授業概略

子どもたちにとって、音楽は生活の中に自然な形で存在する。この授業では、自然体で存在する音楽表現や子どもの表現活動などに目を向け考察し、理解を深めていく。また〈朝の会〉の模擬実習や〈弾き語りクリニック〉を行うことにより、自分の表現手段を整え、現場での活動に必要な知識・技術を身につけることができるようにする。

教科書

神原雅之・鈴木恵津子「幼稚園教諭・保育士養成課程『幼児のための音楽教育』」教育芸術社、2010年。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

成績評価の方法・基準

授業時の課題（レポート、感想文、演習など）、実技試験、出席状況などから総合的に判断する。

事前準備学習

なし

13156 保育内容研究・表現Ⅱ a

(Studies in Nursery School Materials : Expression II a)

配置年次 3

単位数 2 期間 前期

担当者 信太 進

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

幼児の発達の段階に沿い、実践的な造形表現の保育計画を立案することができる。

授業計画

1 幼児の発達と描画1－線による描画

2 幼児の発達と描画2－色による描画

3 手をつかって遊ぶ1－手形遊びの計画

4 手をつかって遊ぶ2－手形遊び

5 手をつかって遊ぶ3－粘土遊びの計画

6 手をつかって遊ぶ4－粘土遊び

7 手をつかって遊ぶ5－粘土遊びと着色

8 材料や技法を楽しむ1－材料遊びの計画

9 材料や技法を楽しむ2－材料遊び

10 材料や技法を楽しむ3－材料遊びと壁面構成

11 自然の造形遊び1－造形遊びの計画

12 自然の造形遊び2－造形遊び

13 自然の造形遊び3－造形遊びと素材

14 保育計画案の作成

15 まとめ

授業概略

幼児は、遊びの中で成長に欠かすことのできない貴重な経験を重ねていきます。造形的な表現もまた遊びのひとつと捉え、幼児が楽しむことができる表現遊びについて理解を深めましょう。

教科書

教科書はありません。プリント・参考資料などを配布します。

参考書

『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』

成績評価の方法・基準

課題と、出席状況・授業態度（準備・片付け・掃除）を総合して評価します。

事前準備学習

なし

13156 保育内容研究・表現Ⅱ b

(Studies in Nursery School Materials : Expression II b)

配置年次 3

単位数 2 期間 前期

担当者 信太 進

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

幼児の発達の段階に沿い、実践的な造形表現の保育計画を立案することができる。

授業計画

1 幼児の発達と描画1－線による描画

2 幼児の発達と描画2－色による描画

3 手をつかって遊ぶ1－手形遊びの計画

4 手をつかって遊ぶ2－手形遊び

5 手をつかって遊ぶ3－粘土遊びの計画

6 手をつかって遊ぶ4－粘土遊び

7 手をつかって遊ぶ5－粘土遊びと着色

8 材料や技法を楽しむ1－材料遊びの計画

9 材料や技法を楽しむ2－材料遊び

10 材料や技法を楽しむ3－材料遊びと壁面構成

11 自然の造形遊び1－造形遊びの計画

12 自然の造形遊び2－造形遊び

13 自然の造形遊び3－造形遊びと素材

14 保育計画案の作成

15 まとめ

授業概略

幼児は、遊びの中で成長に欠かすことのできない貴重な経験を重ねていきます。造形的な表現もまた遊びのひとつと捉え、幼児が楽しむことができる表現遊びについて理解を深めましょう。

教科書

教科書はありません。プリント・参考資料などを配布します。

参考書

『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』

成績評価の方法・基準

課題と、出席状況・授業態度（準備・片付け・掃除）を総合して評価します。

事前準備学習

なし

13157 保育方法の研究 a

(Studies in Nursery School Methodology a)

配置年次 3

単位数 2 期間 後期

担当者 平山 はるみ、副島 由美子、海老澤 榮子

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

様々な保育実践の研究を通じて、多様な保育方法を知ることができる。多様な保育観・子ども観に触れて、自らの保育者観を問い直す。

授業計画

- 第1回 入園期の幼児の姿と対応
- 第2回 保育者の一日
- 第3回 わらべうたの意義と実際
- 第4回 園児・保護者との信頼関係づくり
- 第5回 素敵な保育者になるために
- 第6回 入園直後の三歳児・園生活に慣れるために
- 第7回 あそびや生活の仕方と環境構成
- 第8回 地域や家庭との連携
- 第9回 障害のある幼児と共に
- 第10回 二人担任のクラスづくり
- 第11回 あそびの中で学ぶ幼児期の子どもたち
- 第12回 子どもも保育者も共に楽しくなる保育（園生活）づくり
- 第13回 異年齢集団と同年齢集団のからみの中で育つ人間らしさ
- 第14回 面白いゾ 3歳児保育
- 第15回 いろいろな子がいて面白い～豊かなクラス運営～

授業概略

第1回～第5回を海老澤が、第6回～第10回を平山が、第11回～第15回を副島が担当する。各担当者が、それぞれの教育実践を紹介しながら、現代日本の保育者に求められている教育的課題を、具体的に指摘する。また、課題に応えるために必要な、様々な保育方法を紹介する。

教科書

特に指定しない。授業で使用する資料は適宜配布し、参照すべき文献・資料は授業を進めながら紹介する。

参考書

『幼稚園指導要領・保育所保育指針』（フレーベル館）

成績評価の方法・基準

三人の担当者が、それぞれの担当回のみで課題・試験を課し、素点を出す。三人の素点の平均点により最終的な評定を出す。

事前準備学習

授業の中で紹介される保育方法について、文献で詳しく調べる、現場を見学させていただくなど、自ら研究を深めることが望ましい。

13157 保育方法の研究 b

(Studies in Nursery School Methodology b)

配置年次 3

単位数 2 期間 後期

担当者 平山 はるみ、副島 由美子、海老澤 榮子

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

様々な保育実践の研究を通じて、多様な保育方法を知ることができる。多様な保育観・子ども観に触れて、自らの保育者観を問い直す。

授業計画

- 第1回 あそびの中で学ぶ幼児期の子どもたち
- 第2回 子どもも保育者も共に楽しくなる保育（園生活）づくり
- 第3回 異年齢集団と同年齢集団のからみの中で育つ人間らしさ
- 第4回 面白いゾ 3歳児保育
- 第5回 いろいろな子がいて面白い～豊かなクラス運営～
- 第6回 入園期の幼児の姿と対応
- 第7回 保育者の一日
- 第8回 わらべうたの意義と実際
- 第9回 園児・保護者との信頼関係づくり
- 第10回 素敵な保育者になるために
- 第11回 入園直後の三歳児・園生活に慣れるために
- 第12回 あそびや生活の仕方と環境構成
- 第13回 地域や家庭との連携
- 第14回 障害のある幼児と共に
- 第15回 二人担任のクラスづくり

授業概略

第1回～第5回を副島が、第6回～第10回を海老澤が、第11回～第15回を平山が担当する。各担当者が、それぞれの教育実践を紹介しながら、現代日本の保育者に求められている教育的課題を、具体的に指摘する。また、課題に応えるために必要な、様々な保育方法を紹介する。

教科書

特に指定しない。授業で使用する資料は適宜配布し、参照すべき文献・資料は授業を進めながら紹介する。

参考書

『幼稚園指導要領・保育所保育指針』（フレーベル館）

成績評価の方法・基準

三人の担当者が、それぞれの担当回のみで課題・試験を課し、素点を出す。三人の素点の平均点により最終的な評定を出す。

事前準備学習

授業の中で紹介される保育方法について、文献で詳しく調べる、現場を見学させていただくなど、自ら研究を深めることが望ましい。

13158 幼児理解と教育相談 a

(Understanding Preschoolers and Educational Counseling a)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 藤平 雅子

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

日常生活の中で現れる子どもの問題行動や症状を、“子どもからのSOS”として理解し、保育者として援助する視点を学ぶことができるとともに、教育相談において重要なカウンセリングの基本を会得することができる。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 教育相談とは
- 第3回 子どもの問題行動・症状
- 第4回 こころの発達理論

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

- 第5回 親子関係、親の養育態度
- 第6回 カウンセリングについて
- 第7回 <演習>…傾聴訓練(話し手と聴き手、他己紹介)
- 第8回 <演習>…ロールプレイ
- 第9回 遊戯療法・アートセラピー(子どもの絵の見方)
- 第10回 <演習>…コラージュ・なぐり描き
- 第11回 援助者としての自己理解(エゴグラム)
- 第12回 事例研究…登園できなくなったA夫とS子
- 第13回 事例研究…友達と関われないA男、場面緘黙児S子
- 第14回 事例研究…チック症状がひどくなったM子
- 第15回 総まとめ

授業概略

子どもは、こころの中に大きな不安や不満・ストレスを抱かえると、種々の問題行動や様々な症状を表してきます。特に幼児期に見られる分離不安や登園拒否、チック、選択性緘黙症、心身症等は、いずれも“子どもからのSOS”ととらえることが大切です。

この講義では、保育者として子どもからのサインをどう受け止め、どう理解し、どう援助していくかを探るとともに、教育相談の主な手法であるカウンセリングや遊戯療法等についての基礎を学びます。

理論のみでなく、演習を通して体験的に学ぶことを主眼とし、さらに、いろいろな事例から、子どものこころに対する理解を深めていきます。

思春期・青年期までも視野に入れ“人間の成長と発達”そして“人のこころ”について考える時間にできたらと思います。

教科書

授業で使用する資料については、すべて配布します。

参考書

参考図書はその都度紹介します。

成績評価の方法・基準

「履修要覧」に記載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。なお、試験の素点を100点満点とし、欠席・授業態度は状況に応じて減点の対象とします。

事前準備学習

なし

備考

第11回エゴグラム検査用紙代として200円徴収します。

13158 幼児理解と教育相談 b

(Understanding Preschoolers and Educational Counseling b)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 藤平 雅子

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 保育

到達目標

日常生活の中で現れる子どもの問題行動や症状を、“子どもからのSOS”として理解し、保育者として援助する視点を学ぶことができるとともに、教育相談において重要なカウンセリングの基本を会得することができる。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 教育相談とは
- 第3回 子どもの問題行動・症状
- 第4回 こころの発達理論
- 第5回 親子関係、親の養育態度
- 第6回 カウンセリングについて
- 第7回 <演習>…傾聴訓練(話し手と聴き手、他己紹介)
- 第8回 <演習>…ロールプレイ
- 第9回 遊戯療法・アートセラピー(子どもの絵の見方)

- 第10回 <演習>…コラージュ・なぐり描き
- 第11回 援助者としての自己理解(エゴグラム)
- 第12回 事例研究…登園できなくなったA夫とS子
- 第13回 事例研究…友達と関われないA男、場面緘黙児S子
- 第14回 事例研究…チック症状がひどくなったM子
- 第15回 総まとめ

授業概略

子どもは、こころの中に大きな不安や不満・ストレスを抱かえると、種々の問題行動や様々な症状を表してきます。特に幼児期に見られる分離不安や登園拒否、チック、選択性緘黙症、心身症等は、いずれも“子どもからのSOS”ととらえることが大切です。

この講義では、保育者として子どもからのサインをどう受け止め、どう理解し、どう援助していくかを探るとともに、教育相談の主な手法であるカウンセリングや遊戯療法等についての基礎を学びます。

理論のみでなく、演習を通して体験的に学ぶことを主眼とし、さらに、いろいろな事例から、子どものこころに対する理解を深めていきます。

思春期・青年期までも視野に入れ“人間の成長と発達”そして“人のこころ”について考える時間にできたらと思います。

教科書

授業で使用する資料については、すべて配布します。

参考書

参考図書はその都度紹介します。

成績評価の方法・基準

「履修要覧」に記載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。なお、試験の素点を100点満点とし、欠席・授業態度は状況に応じて減点の対象とします。

事前準備学習

なし

備考

第11回エゴグラム検査用紙代として200円徴収します。

13159 保育実習指導 I

(Nursery School Education Practicum Guidance I)

配置年次 2

単位数 1 期間 通年

担当者 大島 孝子、飛田 隆、中島 美那子

履修可能学科

Pc

関連資格

保育

到達目標

実習生としての心構えが持てる。保育園の役割が理解できる。保育士の仕事についての基礎知識を理解することができる。子どもの発達についての基礎知識を獲得することができる。保育園の環境、教材等について理解することができる。施設の役割が理解できる。障害児について基礎的知識を獲得できる。児童虐待についての基礎知識を学び理解することができる。

授業計画

1. 保育所・入所施設の理解。
2. 保育実習の意義(保育所・施設)。
3. 実習生心得。
4. 乳幼児の保育。
5. 一日観察実習の進め方。
6. 記録・日誌と保育計画。
7. 保育士の役割と実習生としての態度(学外講師)。
8. 一日観察実習反省・報告。
9. 保育所における子どもの姿・保育士の仕事(学外講師)。
10. 保育実習の具体的方法・保育計画・実習日誌・教材研究。

11. 保育実習 I A 反省と報告、今後の自己課題について。
12. 施設実習の意義。
13. 入所施設における保育士の役割と利用者の生活（学外講師）。
14. 保育実習 I B 反省と報告、今後の自己の課題について。
15. 総まとめ。

授業概略

1. 保育実習に必要な心構え・倫理観・基礎知識を習得する。
2. 一日観察実習（保育所）を経験し、保育実習 I A・I B 履修に向けての自己点検・準備の機会とする。
3. 保育実習体験を通して一人一人が学習課題を具体化・明確化する。
4. 実習を通して学んだことを深める。
5. 実習を通して気づいた課題を整理し次の実習に生かせるようにする。

教科書

必要な資料等はこちらで配布する。

参考書

必要に応じて紹介する。

成績評価の方法・基準

授業態度、出席、レポート、実習、課題等の取り組みなど総合的に判断する。

事前準備学習

保育園、施設等について事前に調べておくことが望ましい。

13160 保育実習 I A

(Nursery School Education Practicum IA)

配置年次 2

単位数 2 期間 通年

担当者 飛田 隆、大畠 孝子

履修可能学科

Pc

関連資格

保育

到達目標

保育所における保育士の役割を理解できる。子どもの発達に対する理解を深めることができる。子どもの特徴に合わせた対応の仕方を知ることができる。保育所の環境について学び理解することができる。

授業計画

保育実習によって、実践的に以下のことを学ぶ。

1. 保育所の概要（沿革・特徴・地域性など）。
2. 子ども一人ひとりに合った指導計画・援助方法。
3. 保育士の職務内容と役割。
4. 実践の場における理論と技術や支援の方法。
5. 実習生としての責任と社会人としてのふさわしい行動。事前に細菌検査をすませる。

実習先を事前に訪問し、オリエンテーションを受ける。

『保育実習の手引き』はよく読んでおく。指定の11日間に保育所実習を行う。実習の進め方に関しては実習先の指示に従う。実習終了後には必ず礼状を出す。

授業概略

保育実習を通して、以下のことを習得する。

1. 実習生としての責任とふさわしい態度、心構え。
2. 保育の基礎的な理論と技術の習得。
3. 保育所における保育の方法や援助の方法。
4. 子ども一人ひとりに合った保育計画の立案、および準備や指導の方法。
5. 子どもの遊びについて。

教科書

保育実習指導 I で配布する『保育実習の手引き』

参考書

必要に応じて紹介する。

成績評価の方法・基準

実習先による評価、実習日誌への記入内容、実習終了後レポートなどにより総合的に評価する。

事前準備学習

保育所の役割、保育士の仕事内容、子どもの発達等について学んでおくことが望ましい。

備考

「保育実習指導 I」を同時履修することが実習の必須条件となります。

13161 保育実習 I B

(Nursery School Education Practicum IB)

配置年次 カリキュラムにより異なります。

単位数 2 期間 通年

担当者 大畠 孝子、飛田 隆、中島 美那子

履修可能学科

Pc

関連資格

保育

到達目標

入所施設（養護系施設・障害児施設）における保育士の役割を実践的に学ぶ。利用者である子ども個々の特徴に対する理解を深め、対応の仕方を知る。

授業計画

1. 実習前
実習先施設の実施体系や役割について、ならびに施設利用者の背景・特徴、そして実習日誌の書き方などに関する事前指導を受けることが施設実習の前提となります。
2. 実習
指定の12日間に入所施設での実習を行います。実習の進め方については、実習先施設の指示に従うことが基本となります。
3. 実習終了後
実習終了後に、実習での学習事項、反省、今後の課題などに関する報告レポートを作成します。

授業概略

施設実習によって、実践的に以下のことを学びます。

1. 実習施設の概要（沿革・組織・機能・地域性など）
2. 施設利用者個々の特徴（入所の経緯、生育歴、性格、障害の内容・程度、人間関係等）と、一人ひとりに合った養護計画・援助方法
3. 保育士をはじめとする施設に働くさまざまな職種の内容・役割
4. 実践の場における理論と技術の統合
5. 実習生としての責任とふさわしい行動様式

教科書

保育実習指導 I で配布する『保育実習の手引き』

参考書

必要に応じ、「保育実習指導 I」の中で紹介する。

成績評価の方法・基準

実習先施設による評価、実習日誌への記入内容、実習終了後レポートなどにより総合的に評価します。

事前準備学習

児童養護や障害に関する内容を扱う授業を熱心に受講し、理解を深めておくことが必要です。

備考

「保育実習指導 I」を同時履修することが実習の必須条件となります。

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

13162 保育実習Ⅱ (Nursery School Education Practicum II)

配置年次 3
単位数 2 期間 通年
担当者 飛田 隆、大島 孝子
履修可能学科

Pc
関連資格
保育

到達目標

保育実習ⅠAを通して学んだ内容をふまえ、保育士として必要な知識・技術を習得することができる。保育制度について理解することができる。児童虐待、障害児保育、病児保育等についても理解することができる。保育士の社会的役割等について理解できる。保育士の職務内容について理解できる。

授業計画

1. 実習前
保育実習ⅠAをふまえた自己課題を明確にし、実習日誌や指導案等に関する事を学ぶ。
保育士として必要な資質・能力・技術を学ぶ。
2. 実習
指定の保育所で11日間の実習を行う。保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。
子どもの個人差を理解し対応方法を学ぶ。
保育士の職務内容を理解する。
3. 実習終了後
実習での学習事項、反省、今後の課題などに関する報告レポートを作成する。
保育実習から学んだ今後の自己の課題を明確化させる。

授業概略

- 保育実習を通して、以下のことを習得する。
1. 実習生としての責任とふさわしい態度、社会人としての心構え。
 2. 保育の理論と技術の習得。
 3. 保育所における保育の方法や援助の方法。
 4. 子ども一人ひとりに合った保育計画の立案、および準備や指導の方法。
 5. 職員間の協力と連携の方法、およびそのあり方。

教科書

必要な資料は配布する。

参考書

必要な場合は適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

実習先による評価、実習日誌への記入内容、実習終了後のレポートなどにより総合的に評価する。

事前準備学習

保育実習ⅠAでの自己課題を明らかにし、事前に必要な知識を習得しておくことが必要。

備考

保育実習ⅠAを履修済みであることが履修の条件となります。保育実習指導Ⅱを同時履修することが実習の必須条件となります。

13163 保育実習Ⅲ (Nursery School Education Practicum III)

配置年次 3
単位数 2 期間 通年
担当者 大島 孝子、飛田 隆、中島 美那子
履修可能学科

Pc
関連資格
保育

到達目標

保育実習ⅠBを通して学んだ内容をふまえ、児童養護系施設あるいは障害児施設の保育士として必要な専門的知識・技術を実践的に習得することができる。

授業計画

1. 実習前
保育実習ⅠBをふまえた自己課題を明確にし、実習日誌や指導案等に関する実習指導を受けます。
2. 実習
指定の12日間に施設（養護系施設・障害児施設）にて実習を行います。実習の進め方に関しては、実習施設の指示に従うことを基本とします。
3. 実習終了後
実習での学習事項、反省、今後の課題などに関する報告レポートを作成し、提出します。

授業概略

- 施設実習を通して、以下のことを習得します。
1. 実習生としての責任とふさわしい行動様式
 2. 理論と技術の実践の場における統合
 3. 施設における保育の方法や技術
 4. 施設利用者一人ひとりに合った養護計画・援助方法の立案、および準備や指導の方法
 5. 職員間の協力と連携の方法、およびそのあり方

教科書

『保育実習の手引き』

参考書

必要に応じ紹介します。

成績評価の方法・基準

実習先施設による評価、実習日誌への記入内容、実習終了後のレポートなどにより総合的に評価します。

事前準備学習

保育実習ⅠBでの課題を明らかにし、事前に必要な知識を習得しておくことが大切です。

備考

保育実習ⅠBを履修済みであることが履修の条件となります。保育実習指導Ⅱを同時履修することが実習の必須条件となります。

13164 保育環境デザインa (Environmental Design in Nursery School a)

配置年次 カリキュラムにより異なります。

単位数 2 期間 後期

担当者 佃 彰一郎

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

保育

到達目標

幼児の造形表現の環境を整備するために必要とされる知識技能を修得する。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 幼児の造形制作の環境
- 第3回 土粘土による表現
- 第4回 土粘土あそびの計画
- 第5回 土粘土あそびの発表
- 第6回 線による表現
- 第7回 デザイン表現の基礎
- 第8回 マイキャラクターのデザイン
- 第9回 様々な描画法1
- 第10回 様々な描画法2
- 第11回 色彩感覚の成り立ち
- 第12回 環境と色彩理論
- 第13回 配色演習
- 第14回 色紙の造形あそび

第15回 成長と自己表現

授業概略

保育者が幼児の造形表現の環境を整備するために必要とされる知識技能を学ぶ。幼児は家庭や保育園、幼稚園での生活の中で遊びながら育っていく。とくに遊ぶプロセスを通して感情、感覚、運動、社会性、知能のほとんどがはぐくまれると考えられる。こどもに意欲的な表現をうながすためには保育者自身の充実した表現の積み重ねがなければならない。以上の観点からこの授業は幼児の造形表現の環境を援助し共有することを目的として進められる。

教科書

授業で使用する資料は全て配布する。

参考書

なし

成績評価の方法・基準

提出物、発表、そして用具、素材などに対する適切な扱い、片付け、清掃の状況を総合して評価した点数に出席率を乗じて評価する。なお期限を過ぎた提出物は最低基準点で評価されます。

事前準備学習

保育士、幼稚園教諭の仕事に対して興味を持ち、理解していることが望ましい。

備考

教室の都合上、定員30名程度とします。幼児保育専攻専門科目ですのでPc学生（高学年）を優先します、他学科の学生は履修できない場合があります。第1回の授業には必ず出席してください。無作為に設定したグループでの活動があります。

13164 保育環境デザインb

(Environmental Design in Nursery School b)

配置年次 カリキュラムにより異なります。

単位数 2 期間 後期

担当者 佃 彰一郎

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

保育

到達目標

幼児の造形表現の環境を整備するために必要とされる知識技能を修得する。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 幼児の造形制作の環境
- 第3回 土粘土による表現
- 第4回 土粘土あそびの計画
- 第5回 土粘土あそびの発表
- 第6回 線による表現
- 第7回 デザイン表現の基礎
- 第8回 マイキャラクターのデザイン
- 第9回 様々な描画法1
- 第10回 様々な描画法2
- 第11回 色彩感覚の成り立ち
- 第12回 環境と色彩理論
- 第13回 配色演習
- 第14回 色紙の造形あそび
- 第15回 成長と自己表現

授業概略

保育者が幼児の造形表現の環境を整備するために必要とされる知識技能を学ぶ。幼児は家庭や保育園、幼稚園での生活の中で遊びながら育っていく。とくに遊ぶプロセスを通して感情、感覚、運動、社会性、知能のほとんどがはぐくまれると考えられる。こどもに意欲的な表現をうながすためには保育者自身の充実した表現の積み重ねがなければならない。以上の観点からこの授業は幼児の造形表現の環境

を援助し共有することを目的として進められる。

教科書

授業で使用する資料は全て配布する。

参考書

なし

成績評価の方法・基準

提出物、発表、そして用具、素材などに対する適切な扱い、片付け、清掃の状況を総合して評価した点数に出席率を乗じて評価する。なお期限を過ぎた提出物は最低基準点で評価されます。

事前準備学習

保育士、幼稚園教諭の仕事に対して興味を持ち、理解していることが望ましい。

備考

教室の都合上、定員30名程度とします。幼児保育専攻専門科目ですのでPe学生（高学年）を優先します、他学科の学生は履修できない場合があります。第1回の授業には必ず出席してください。無作為に設定したグループでの活動があります。

13167 保育実習指導Ⅱ

(Nursery School Education Practicum Guidance II)

配置年次 3

単位数 1 期間 通年

担当者 大島 孝子、飛田 隆、中島 美那子

履修可能学科

Pc

関連資格

保育

到達目標

保育実習ⅠA、ⅠBを通して学んだ内容をふまえ、自己点検をし保育士として必要な知識・技術を習得することができる。保育制度について理解を深め適切な資料を用いて説明することができる。児童虐待、障害児保育、病児保育等について理解することができる。保育士の社会的役割等について理解できる。

授業計画

1. 保育実習ⅠA・ⅠBを通して学んだ事を振り返り自己課題を明確にする。
2. 保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。
3. 保育所における子育て支援のニーズについて理解を深める。
4. 障害児保育や児童虐待等について学ぶ。
5. 子どもの個人差を理解し対応方法を学ぶ。
6. 年齢の違いによる発達を理解し年齢に応じた援助を理解する。
7. 発達に遅れがある子どもや生活環境にともなう多様な保育ニーズを理解し、その対応について学ぶ。
8. こどもの家庭とのコミュニケーションの方法を理解する。
9. 指導計画を立案し、準備や指導について学ぶ。
10. 実習から自己の課題を明確化して実習生としての責任を自覚し、ふさわしい態度を身に付ける。
11. 地域社会に対する理解を深め、連携の方法や支援のあり方について学ぶ。
12. 保育士の職務内容を理解する。
13. 保育士としての職業倫理を学ぶ。
14. 子どもの最善の利益とは何か学ぶ。
15. 総まとめ

授業概略

1. 実習生としての責任とふさわしい態度、倫理観、社会人としての心構え。
2. 保育実習ⅠA・ⅠBでの自己課題の点検・準備の機会とする。
3. 保育所における保育の方法や援助の方法。保育の理論

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

と技術の習得。

- 子ども一人ひとりに合った保育計画の立案、および準備や指導の方法。
- 職員間の協力と連携の方法、およびそのあり方。
- 保育実習を通して一人一人が学習課題を具体化・明確化する。
- 実習を通して気づいた課題を整理し次の実習に生かせるようにする。

教科書

必要な資料は適宜配布する。

参考書

必要に応じて紹介する。

成績評価の方法・基準

出席状況、授業態度、レポート等総合的に判断し評価する。

事前準備学習

保育実習ⅠA・ⅠBを振り返り自己課題を明確化し、必要な知識、技術等を事前に学んでおくことが望ましい。

13168 教職論 a

(Studies in the Teaching Profession a)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 川本 欣治

履修可能学科

Pc

関連資格

教職

到達目標

幼稚園教諭、保育園保育士として、社会的にその役割を果たそうとするとき、その必要な態度育成のための基盤的な知識、考えを身につけることができる。

授業計画

- オリエンテーション
- 幼児期の教育の重要性
- 今日の幼児を取り巻く環境
- 幼児教育の先人の思想と実践（西欧）
- 幼児教育の先人の思想と実践（日本）
- 日本の幼児教育の歴史（明治以降）
- 幼稚園教育要領、保育所保育指針と現場での実践（その1）
- 幼稚園教育要領、保育所保育指針と現場での実践（その2）
- 幼稚園の教育課程と保育者
- 保育者に求められる資質・能力
- 子ども理解の重要性
- 保護者支援・連携・協力
- 幼・保・小連携・接続
- 今後の幼児教育の課題と保育者像
- まとめ、テスト

授業概略

幼児期の教育は、その後の教育の最も基盤となるものであり、子どもの心身の成長に大きな影響を及ぼすものである。また、子どもを取り巻く今日の社会状況、家庭状況の急激な変化により、幼稚園保育所での保育者の果たす役割は大きなものとなっている。

これらを踏まえ、幼稚園、保育所での保育者の在り方を、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」を掲げ所しながら、様々な視点からも学んでいく。

教科書

教科書は使用しない。必要資料を適宜配布する。

参考書

幼稚園教育要領、保育所保育指針

成績評価の方法・基準

定期テスト80パーセント・レポート20パーセントとし、それに出席・遅刻回数、授業態度を加味する。

事前準備学習

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」を一読しておく。また、最近の幼児教育に関する情報に触れておく（新聞、その他）

13168 教職論 b

(Studies in the Teaching Profession b)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 川本 欣治

履修可能学科

Pc

関連資格

教職

到達目標

幼稚園教諭、保育園保育士として、社会的にその役割を果たそうとするとき、その必要な態度育成のための基盤的な知識、考えを身につけることができる。

授業計画

- オリエンテーション
- 幼児期の教育の重要性
- 今日の幼児を取り巻く環境
- 幼児教育の先人の思想と実践（西欧）
- 幼児教育の先人の思想と実践（日本）
- 日本の幼児教育の歴史（明治以降）
- 幼稚園教育要領、保育所保育指針と現場での実践（その1）
- 幼稚園教育要領、保育所保育指針と現場での実践（その2）
- 幼稚園の教育課程と保育者
- 保育者に求められる資質・能力
- 子ども理解の重要性
- 保護者支援・連携・協力
- 幼・保・小連携・接続
- 今後の幼児教育の課題と保育者像
- まとめ、テスト

授業概略

幼児期の教育は、その後の教育の最も基盤となるものであり、子どもの心身の成長に大きな影響を及ぼすものである。また、子どもを取り巻く今日の社会状況、家庭状況の急激な変化により、幼稚園保育所での保育者の果たす役割は大きなものとなっている。

これらを踏まえ、幼稚園、保育所での保育者の在り方を、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」を掲げ所しながら、様々な視点からも学んでいく。

教科書

教科書は使用しない。必要資料を適宜配布する。

参考書

幼稚園教育要領、保育所保育指針

成績評価の方法・基準

定期テスト80パーセント・レポート20パーセントとし、それに出席・遅刻回数、授業態度を加味する。

事前準備学習

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」を一読しておく。また、最近の幼児教育に関する情報に触れておく（新聞、その他）

13169 教育行政学 a

(Public Administration in Education a)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 池内 耕作

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 社教

到達目標

教育行政が依拠する法令・制度の内容、組織体制、運用実態、現状の課題や問題点を、様々な社会情勢を踏まえながら、適切な資料を用いて説明することができる。

授業計画

- 【第01回】この授業の到達目標と概略
- 【第02回】公教育の原理1－西洋における公教育概念の系譜－
- 【第03回】公教育の原理2－我が国における公教育概念の形成－
- 【第04回】旧・教育基本法
- 【第05回】新・教育基本法
- 【第06回】学校制度と学校体系
- 【第07回】学校の種類
- 【第08回】中央教育行政組織－文部科学省と審議会
- 【第09回】地方教育行政組織－教育委員会
- 【第10回】教育課程行政1－学習指導要領の変遷
- 【第11回】教育課程行政2－現行学習指導要領
- 【第12回】諸外国の教育行政改革1－英・仏
- 【第13回】諸外国の教育行政改革2－独・仏
- 【第14回】諸外国の教育行政改革3－中・韓
- 【第15回】日本の教育行政改革とこの講義のまとめ

授業概略

現在の教育を支えたり、動かしたりしている教育行政の理念や実態について、関連法令をはじめとする様々な資料に依拠して解説します。日本の教育行政を中心としますが、その理念の原型となった西洋の公教育理念や、現在の諸外国における教育行政改革の動向についてもあわせて取り上げます。

教科書

授業で使用する資料については全て配付します。

参考書

購入必須ではありませんが、次の書籍は講義内容をより深く理解する上で自修することが望ましいので紹介します。新井郁夫・牧昌見編著『教育学基礎資料第6版』樹村房、2010年、1,470円（税込）

成績評価の方法・基準

最終試験の素点を100点満点とし、無断欠席1回につき10点、無断遅刻1回につき5点を減じたものを、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。

事前準備学習

可能であれば上記参考書を入手し、事前に理解を深めておくこと。

13169 教育行政学 b

(Public Administration in Education b)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 池内 耕作

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 社教

到達目標

教育行政が依拠する法令・制度の内容、組織体制、運用実態、現状の課題や問題点を、様々な社会情勢を踏まえながら、適切な資料を用いて説明することができる。

授業計画

- 【第01回】この授業の到達目標と概略
- 【第02回】公教育の原理1－西洋における公教育概念の系譜－
- 【第03回】公教育の原理2－我が国における公教育概念の形成－

【第04回】旧・教育基本法

【第05回】新・教育基本法

【第06回】学校制度と学校体系

【第07回】学校の種類

【第08回】中央教育行政組織－文部科学省と審議会

【第09回】地方教育行政組織－教育委員会

【第10回】教育課程行政1－学習指導要領の変遷

【第11回】教育課程行政2－現行学習指導要領

【第12回】諸外国の教育行政改革1－英・仏

【第13回】諸外国の教育行政改革2－独・仏

【第14回】諸外国の教育行政改革3－中・韓

【第15回】日本の教育行政改革とこの講義のまとめ

授業概略

現在の教育を支えたり、動かしたりしている教育行政の理念や実態について、関連法令をはじめとする様々な資料に依拠して解説します。日本の教育行政を中心としますが、その理念の原型となった西洋の公教育理念や、現在の諸外国における教育行政改革の動向についてもあわせて取り上げます。

教科書

授業で使用する資料については全て配付します。

参考書

購入必須ではありませんが、次の書籍は講義内容をより深く理解する上で自修することが望ましいので紹介します。新井郁夫・牧昌見編著『教育学基礎資料第6版』樹村房、2010年、1,470円（税込）

成績評価の方法・基準

最終試験の素点を100点満点とし、無断欠席1回につき10点、無断遅刻1回につき5点を減じたものを、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。

事前準備学習

可能であれば上記参考書を入手し、事前に理解を深めておくこと。

13169 教育行政学 c

(Public Administration in Education c)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 池内 耕作

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 社教

到達目標

教育行政が依拠する法令・制度の内容、組織体制、運用実態、現状の課題や問題点を、様々な社会情勢を踏まえながら、適切な資料を用いて説明することができる。

授業計画

- 【第01回】この授業の到達目標と概略
- 【第02回】公教育の原理1－西洋における公教育概念の系譜－
- 【第03回】公教育の原理2－我が国における公教育概念の形成－
- 【第04回】旧・教育基本法
- 【第05回】新・教育基本法
- 【第06回】学校制度と学校体系
- 【第07回】学校の種類
- 【第08回】中央教育行政組織－文部科学省と審議会
- 【第09回】地方教育行政組織－教育委員会
- 【第10回】教育課程行政1－学習指導要領の変遷
- 【第11回】教育課程行政2－現行学習指導要領
- 【第12回】諸外国の教育行政改革1－英・仏
- 【第13回】諸外国の教育行政改革2－独・仏
- 【第14回】諸外国の教育行政改革3－中・韓
- 【第15回】日本の教育行政改革とこの講義のまとめ

授業概略

現在の教育を支えたり、動かしたりしている教育行政の理念や実態について、関連法令をはじめとする様々な資料に依拠して解説します。日本の教育行政を中心としますが、その理念の原型となった西洋の公教育理念や、現在の諸外国における教育行政改革の動向についてもあわせて取り上げます。

教科書

授業で使用する資料については全て配付します。

参考書

購入必須ではありませんが、次の書籍は講義内容をより深く理解する上で自修することが望ましいので紹介します。
新井郁夫・牧昌見編著『教育学基礎資料第6版』樹村房、2010年、1,470円（税込）

成績評価の方法・基準

最終試験の素点を100点満点とし、無断欠席1回につき10点、無断遅刻1回につき5点を減じたものを、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。

事前準備学習

可能であれば上記参考書を入手し、事前に理解を深めておくこと。

13169 教育行政学 d

(Public Administration in Education d)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 池内 耕作

履修可能学科

Pc

関連資格

教職 社教

到達目標

教育行政が依拠する法令・制度の内容、組織体制、運用実態、現状の課題や問題点を、様々な社会情勢を踏まえながら、適切な資料を用いて説明することができる。

授業計画

- 【第01回】この授業の到達目標と概略
- 【第02回】公教育の原理1－西洋における公教育概念の系譜－
- 【第03回】公教育の原理2－我が国における公教育概念の形成－
- 【第04回】旧・教育基本法
- 【第05回】新・教育基本法
- 【第06回】学校制度と学校体系
- 【第07回】学校の種類
- 【第08回】中央教育行政組織－文部科学省と審議会
- 【第09回】地方教育行政組織－教育委員会
- 【第10回】教育課程行政1－学習指導要領の変遷
- 【第11回】教育課程行政2－現行学習指導要領
- 【第12回】諸外国の教育行政改革1－英・仏
- 【第13回】諸外国の教育行政改革2－独・仏
- 【第14回】諸外国の教育行政改革3－中・韓
- 【第15回】日本の教育行政改革とこの講義のまとめ

授業概略

現在の教育を支えたり、動かしたりしている教育行政の理念や実態について、関連法令をはじめとする様々な資料に依拠して解説します。日本の教育行政を中心としますが、その理念の原型となった西洋の公教育理念や、現在の諸外国における教育行政改革の動向についてもあわせて取り上げます。

教科書

授業で使用する資料については全て配付します。

参考書

購入必須ではありませんが、次の書籍は講義内容をより深く理解する上で自修することが望ましいので紹介します。

新井郁夫・牧昌見編著『教育学基礎資料第6版』樹村房、2010年、1,470円（税込）

成績評価の方法・基準

最終試験の素点を100点満点とし、無断欠席1回につき10点、無断遅刻1回につき5点を減じたものを、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。

事前準備学習

可能であれば上記参考書を入手し、事前に理解を深めておくこと。

13170 教育方法の研究 a

(Introduction to Teaching Methods a)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 本田 敏明

履修可能学科

Pc

関連資格

教職

到達目標

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察することができる。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的実践例を参考にしながら理解することができる。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討することができる。

授業計画

1. はじめに：教育方法とは何か
2. 学校教育の構造（1）学校教育の領域について
3. 学校教育の構造（2）学校教育の機能について
4. 授業過程の構造（1）教授－学習過程について
5. 授業過程の構造（2）陶冶－訓育過程について
6. 授業過程の構造（3）学級教授組織について
7. 授業指導の技術と思想（1）指導的評価活動と班づくり
8. 授業指導の技術と思想（2）教材研究と発問づくり
9. 授業指導の技術と思想（3）教材研究演習
10. 授業指導の技術と思想（4）集団思考について
11. 授業指導の技術と思想（5）集団思考演習
12. 視聴覚教育について（1）定義と歴史
13. 視聴覚教育について（2）視聴覚メディアと教育
14. 視聴覚教育について（3）情報教育との関連
15. 今日の教育方法について、および総まとめ

授業概略

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察する。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的に実践例を参考にしながら理解していく。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討する。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

参考書については随時講義中に紹介する。

成績評価の方法・基準

出席、小レポート、期末試験を総合して評価する。

事前準備学習

中学校レベルでよいので、世界史（特に欧米）、日本史（特に戦後現代史）についての復習をしておくこと。

備考

教室の定員の事情でa、b、c、dそれぞれで適正受講者数に振り分けることがある。振り分けを実施するのは最初の講義開始時であるので、必ず出席すること。

13170 教育方法の研究 b

(Introduction to Teaching Methods b)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 本田 敏明

履修可能学科

Pc

関連資格

教職

到達目標

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察することができる。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的実践例を参考にしながら理解することができる。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討することができる。

授業計画

1. はじめに：教育方法とは何か
2. 学校教育の構造（1）学校教育の領域について
3. 学校教育の構造（2）学校教育の機能について
4. 授業過程の構造（1）教授－学習過程について
5. 授業過程の構造（2）陶冶－訓育過程について
6. 授業過程の構造（3）学級教授組織について
7. 授業指導の技術と思想（1）指導的評価活動と班づくり
8. 授業指導の技術と思想（2）教材研究と発問づくり
9. 授業指導の技術と思想（3）教材研究演習
10. 授業指導の技術と思想（4）集団思考について
11. 授業指導の技術と思想（5）集団思考演習
12. 視聴覚教育について（1）定義と歴史
13. 視聴覚教育について（2）視聴覚メディアと教育
14. 視聴覚教育について（3）情報教育との関連
15. 今日の教育方法について、および総まとめ

授業概略

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察する。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的に実践例を参考にしながら理解していく。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討する。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

参考書については随時講義中に紹介する。

成績評価の方法・基準

出席、小レポート、期末試験を総合して評価する。

事前準備学習

中学校レベルでよいので、世界史（特に欧米）、日本史（特に戦後現代史）についての復習をしておくこと。

備考

教室の定員の事情で a、b、c、d それぞれで適正受講者数に振り分けることがある。振り分けを実施するのは最初の講義開始時であるので、必ず出席すること。

13170 教育方法の研究 c

(Introduction to Teaching Methods c)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 本田 敏明

履修可能学科

Pc

関連資格

教職

到達目標

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察することができる。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的実践例を参考にしながら理解することができる。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討することができる。

授業計画

1. はじめに：教育方法とは何か
2. 学校教育の構造（1）学校教育の領域について
3. 学校教育の構造（2）学校教育の機能について
4. 授業過程の構造（1）教授－学習過程について
5. 授業過程の構造（2）陶冶－訓育過程について
6. 授業過程の構造（3）学級教授組織について
7. 授業指導の技術と思想（1）指導的評価活動と班づくり
8. 授業指導の技術と思想（2）教材研究と発問づくり
9. 授業指導の技術と思想（3）教材研究演習
10. 授業指導の技術と思想（4）集団思考について
11. 授業指導の技術と思想（5）集団思考演習
12. 視聴覚教育について（1）定義と歴史
13. 視聴覚教育について（2）視聴覚メディアと教育
14. 視聴覚教育について（3）情報教育との関連
15. 今日の教育方法について、および総まとめ

授業概略

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察する。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的に実践例を参考にしながら理解していく。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討する。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

参考書については随時講義中に紹介する。

成績評価の方法・基準

出席、小レポート、期末試験を総合して評価する。

事前準備学習

中学校レベルでよいので、世界史（特に欧米）、日本史（特に戦後現代史）についての復習をしておくこと。

備考

教室の定員の事情で a、b、c、d それぞれで適正受講者数に振り分けることがある。振り分けを実施するのは最初の講義開始時であるので、必ず出席すること。

13170 教育方法の研究 d

(Introduction to Teaching Methods d)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 本田 敏明

履修可能学科

Pc

関連資格

教職

到達目標

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察することができる。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的実践例を参考にしながら理解することができる。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討することができる。

授業計画

1. はじめに：教育方法とは何か

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

2. 学校教育の構造 (1) 学校教育の領域について
3. 学校教育の構造 (2) 学校教育の機能について
4. 授業過程の構造 (1) 教授-学習過程について
5. 授業過程の構造 (2) 陶冶-訓育過程について
6. 授業過程の構造 (3) 学級教授組織について
7. 授業指導の技術と思想(1)指導の評価活動と班づくり
8. 授業指導の技術と思想(2)教材研究と発問づくり
9. 授業指導の技術と思想(3)教材研究演習
10. 授業指導の技術と思想(4)集団思考について
11. 授業指導の技術と思想(5)集団思考演習
12. 視聴覚教育について (1) 定義と歴史
13. 視聴覚教育について (2) 視聴覚メディアと教育
14. 視聴覚教育について (3) 情報教育との関連
15. 今日の教育方法について、および総まとめ

授業概略

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察する。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的に実践例を参考にしながら理解していく。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討する。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

参考書については随時講義中に紹介する。

成績評価の方法・基準

出席、小レポート、期末試験を総合して評価する。

事前準備学習

中学校レベルでよいので、世界史(特に欧米)、日本史(特に戦後現代史)についての復習をしておくこと。

備考

教室の定員の事情で a、b、c、d それぞれで適正受講者数に振り分けることがある。振り分けを実施するのは最初の講義開始時であるので、必ず出席すること。

13171 初等教育実習Ⅲ(事前事後指導1単位を含む)

(Elementary Education Practicum III (Including 1 Credit of Guidance and Followup))

配置年次 3

単位数 3 期間 通年

担当者 大畠 孝子、飛田 隆

履修可能学科

Pc

関連資格

教職

到達目標

1. 求める教師像に向かって責任ある教育実習を実現する。
2. 幼児教育の理論や技術を総合的に実践する。

授業計画

1. 教育実習の意義・目的と心得
 - (1) 教育実習の意義と目的
 - (2) 実習生の心得 実習生・社会人・職業人としての態度
 - (3) 一日観察実習について
2. 一日観察実習(大学附属幼稚園で実施)
 - (1) 実習園の人的・物的環境等の観察
 - (2) 実習への見通しを待つ
 - レポート提出
3. 教育実習の内容
 - (1) 見学・観察実習の目標と要点
 - (2) 参加実習の目標と要点
 - (3) 指導実習の目標と要点
4. 教育実習の具体的方法 (I)
 - (1) 幼児理解の要点
 - (2) 保育指導案の書き方

- (3) 教育実習日誌の目的と書き方

5. 教育実習の具体的方法 (II)

- (1) 教材研究の仕方
- (2) 実技の具体的方法
- (3) 具体的保育の展開

6. 教育実習の具体的方法 (III)

- (1) 教材研究の仕方
- (2) 実技の具体的方法
- (3) 具体的保育の展開

7. 模擬保育と保育観察 (I)

8. 模擬保育と保育観察 (II)

9. 模擬保育と保育観察 (III)

10. 教育実習(2週間)

11. 教育実習事後指導

- (1) 反省報告会
- (2) 今後の教育研究について
- (3) お礼状の作成

○レポート提出

(実習終了後10日以内2000字程度)

授業概略

幼稚園の教師になろうとするには、教育という活動が行われる幼稚園の場で、実践を通して学ぶことが必要とされます。大学において学んだ幼児教育の理論や技術を総合的に実践し、自己のものの見方や考え方を振り返り、自己の課題を明らかにし、具体的に目指す教師像に向かって努力し続けるということが大切です。そして、よい実習をするためには、しっかりとした理念を持つこと、保育の技術を豊富に持つこと、子どもの状態に応じて多様な方法を考え出す柔軟性を持つことが必要です。

各自が実習に向けて、数枚の指導案を作成し、幼児の理解を深め教師としての援助の仕方をイメージできるように模擬保育を通して学びを深めます。その一助として、現場の教師に来ていただき、具体的な保育の展開を教示していただきます。

具体的な進路を確実にするためにも授業時間のみならず、生活の中で感性を磨く日常的な努力が求められます。

教科書

実習日誌に叙述している内容を中心として、関係する資料を用意します。

参考書

小川博久他編『幼稚園教育実習ノート 充実した教育実習を体験しよう』(協同出版)

成績評価の方法・基準

実習園の評価と教育実習日誌の記録及び実習後のレポート等を総合的に評価する。

事前準備学習

授業で出された課題について、充分に準備しておくこと。

備考

初等教育実習Ⅳとセットで履修すること。

13172 初等教育実習Ⅳ

(Elementary Education Practicum IV)

配置年次 3

単位数 2 期間 通年

担当者 大畠 孝子、飛田 隆

履修可能学科

Pc

関連資格

教職

到達目標

1. 求める教師像に向かって責任ある教育実習を実現する。
2. 幼児教育の理論や技術を総合的に実践する。

授業計画

1. 教育実習の意義・目的と心得

- (1) 教育実習の意義と目的
- (2) 実習生の心得 実習生・社会人・職業人としての態度
- (3) 一日観察実習について
- 2. 一日観察実習 (大学附属幼稚園で実施)
 - (1) 実習園の人的・物的環境等の観察
 - (2) 実習への見通しを待つ
 - レポート提出
- 3. 教育実習の内容
 - (1) 見学・観察実習の目標と要点
 - (2) 参加実習の目標と要点
 - (3) 指導実習の目標と要点
- 4. 教育実習の具体的方法 (I)
 - (1) 幼児理解の要点
 - (2) 保育指導案の書き方
 - (3) 教育実習日誌の目的と書き方
- 5. 教育実習の具体的方法 (II)
 - (1) 教材研究の仕方
 - (2) 実技の具体的方法
 - (3) 具体的保育の展開
- 6. 教育実習の具体的方法 (III)
 - (1) 教材研究の仕方
 - (2) 実技の具体的方法
 - (3) 具体的保育の展開
- 7. 模擬保育と保育観察 (I)
- 8. 模擬保育と保育観察 (II)
- 9. 模擬保育と保育観察 (III)
- 10. 教育実習 (2週間)
- 11. 教育実習事後指導
 - (1) 反省報告会
 - (2) 今後の教育研究について
 - (3) お礼状の作成
 - レポート提出

授業概略

幼稚園の教師になろうとするには、教育という活動が行われる幼稚園の場で、実践を通して学ぶことが必要とされます。大学において学んだ幼児教育の理論や技術を総合的に実践し、自己のものの見方や考え方を振り返り、自己の課題を明らかにし、具体的に目指す教師像に向かって努力し続けるということが大切です。そして、よい実習をするためには、しっかりとした理念を持つこと、保育の技術を豊富に持つこと、子どもの状態に応じて多様な方法を考え出す柔軟性を持つことが必要です。

各自が実習に向けて、数枚の指導案を作成し、幼児の理解を深め教師としての援助の仕方をイメージできるように模擬保育を通して学びを深めます。その一助として、現場の教師に来ていただき、具体的な保育の展開を教示していただきます。

具体的な進路を確実にするためにも授業時間のみならず、生活の中で感性を磨く日常的な努力が求められます。

教科書

実習日誌に叙述している内容を中心として、関係する資料を用意します。

参考書

小川博久他編『幼稚園教育実習ノート 充実した教育実習を体験しよう』(協同出版)

成績評価の方法・基準

実習園の評価と教育実習日誌の記録及び実習後のレポート等を総合的に評価する。

事前準備学習

授業で出された課題について、十分に準備しておくこと。

備考

初等教育実習Ⅲとセットで履修すること。

13173 小学校国語科研究 c

(Subject Study of Elementary School Japanese Language Teaching c)

配置年次 3

単位数 2 期間 前期

担当者 川本 欣治

履修可能学科

Pc

関連資格

教職

到達目標

幼稚園、保育園でのことばの指導に関する知識を深めることができる。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 ことばの機能
- 3 生産・創造としてのことばと言語生活
- 4 ことばの獲得、発達
- 5 ことばの発達における親の役割
- 6 幼稚園教育におけることばの教育の概観
- 7 幼稚園教育要領「言葉」内容(1)(2)
- 8 幼稚園教育要領「言葉」内容(3)(4)
- 9 幼稚園教育要領「言葉」内容(5)(6)
- 10 幼稚園教育要領「言葉」内容(7)(8)
- 11 幼稚園教育要領「言葉」内容(9)
- 12 幼稚園教育要領「言葉」内容(10)
- 13 子どもへの「お話」(民話の語りの特長を生かした語り、その他)
- 14 小学校低学年における国語科指導との関連
- 15 まとめ、テスト

授業概略

幼稚園、保育園におけることばの教育について「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」などの内容を現場の実態に関連させて、より具体的に学ぶとともに、ことばに関する知識を深める。

また、受講者の国語力の向上、ことばによる表現力の向上に関する内容も学習する。

教科書

適宜、必要資料を配布する。

参考書

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」

成績評価の方法・基準

テスト 80パーセント、レポート等 20パーセントとし、出席・遅刻回数、授業態度を加味する。

事前準備学習

幼稚園教育要領、保育所保育指針を一読しておく。

13173 小学校国語科研究 d

(Subject Study of Elementary School Japanese Language Teaching d)

配置年次 3

単位数 2 期間 前期

担当者 川本 欣治

履修可能学科

Pc

関連資格

教職

到達目標

幼稚園、保育園でのことばの指導に関する知識を深めることができる。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 ことばの機能
- 3 生産・創造としてのことばと言語生活
- 4 ことばの獲得、発達
- 5 ことばの発達における親の役割

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

- 6 幼稚園教育におけることばの教育の概観
- 7 幼稚園教育要領「言葉」内容(1)(2)
- 8 幼稚園教育要領「言葉」内容(3)(4)
- 9 幼稚園教育要領「言葉」内容(5)(6)
- 10 幼稚園教育要領「言葉」内容(7)(8)
- 11 幼稚園教育要領「言葉」内容(9)
- 12 幼稚園教育要領「言葉」内容(10)
- 13 子どもへの「お話」(民話の語りの特長を生かした語り、その他)
- 14 小学校低学年における国語科指導との関連
- 15 まとめ、テスト

授業概略

幼稚園、保育園におけることばの教育について「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」などの内容を現場の実態に関連させて、より具体的に学ぶとともに、ことばに関する知識を深める。

また、受講者の国語力の向上、ことばによる表現力の向上に関する内容も学習する。

教科書

適宜、必要資料を配布する。

参考書

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」

成績評価の方法・基準

テスト 80パーセント、レポート等 20パーセントとし、出席・遅刻回数、授業態度を加味する。

事前準備学習

幼稚園教育要領、保育所保育指針を一読しておく。

児理解をどう受け止め、また、望ましい指導や援助はどうあったらよいかについて解説いたします。また、3回の自作教材発表会では、協議も含め、教材研究や指導法の改善についても解説いたします。

教科書

フレーベル館『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』2009年

参考書

なし

成績評価の方法・基準

最終試験の素点を100点満点とし、無断欠席1回につき10点、無断遅刻1回につき5点を減じたものを、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。

事前準備学習

自作教材づくり課題(3週間に1回)3回あり

13174 小学校算数科研究 d

(Subject Study of Elementary School Math Teaching d)

配置年次 3

単位数 2 期間 前期

担当者 大内 弘之

履修可能学科

Pc

関連資格

教職

到達目標

幼・保の指導事項「日常生活の中で数量形などに関心をもつ」について、ねらいや内容、活動展開、指導時期や計画立案等を学び、数量形学習の指導をすることができる。指導内容の系統性、評価の観点項目とその趣旨も理解をすることができる。

授業計画

- 【第01回】この授業の到達目標と概略
- 【第02回】幼児の日常生活と数・量・形
- 【第03回】「数と計算」数をとらえる学びと教材づくり
- 【第04回】10数概念の形成
- 【第05回】計算発達の過程
- 【第06回】自作教材発表会そのⅠ
- 【第07回】「量と測定」量をとらえる学びと教材づくり
- 【第08回】量体験と数概念の形成
- 【第09回】測定・比較、量の相対化・系列化
- 【第10回】自作教材発表会そのⅡ
- 【第11回】「図形」形をとらえる学びと教材づくり
- 【第12回】空間概念とその発達
- 【第13回】図形課題の設定
- 【第14回】自作教材発表会そのⅢ
- 【第15回】小学校算数科の学習へ(総まとめ)

授業概略

算数好きの子どもを増やす、数量の感覚を豊かにする、活用する活動の充実を図ることが算数科授業づくりの課題になっています。幼・保においても課題は同じことです。特に、「改善の基本方針」の中の「幼児期にふさわしい知的発達を促す教育の在り方を明確に示すこと」を中心に、幼児理解をどう受け止め、また、望ましい指導や援助はどうあったらよいかについて解説いたします。また、3回の自作教材発表会では、協議も含め、教材研究や指導法の改善についても解説いたします。

教科書

フレーベル館『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』2009年

参考書

なし

成績評価の方法・基準

最終試験の素点を100点満点とし、無断欠席1回につき10点、無断遅刻1回につき5点を減じたものを、「履修要覧」

13174 小学校算数科研究 c

(Subject Study of Elementary School Math Teaching c)

配置年次 3

単位数 2 期間 前期

担当者 大内 弘之

履修可能学科

Pc

関連資格

教職

到達目標

幼・保の指導事項「日常生活の中で数量形などに関心をもつ」について、ねらいや内容、活動展開、指導時期や計画立案等を学び、数量形学習の指導をすることができる。指導内容の系統性、評価の観点項目とその趣旨も理解をすることができる。

授業計画

- 【第01回】この授業の到達目標と概略
- 【第02回】幼児の日常生活と数・量・形
- 【第03回】「数と計算」数をとらえる学びと教材づくり
- 【第04回】10数概念の形成
- 【第05回】計算発達の過程
- 【第06回】自作教材発表会そのⅠ
- 【第07回】「量と測定」量をとらえる学びと教材づくり
- 【第08回】量体験と数概念の形成
- 【第09回】測定・比較、量の相対化・系列化
- 【第10回】自作教材発表会そのⅡ
- 【第11回】「図形」形をとらえる学びと教材づくり
- 【第12回】空間概念とその発達
- 【第13回】図形課題の設定
- 【第14回】自作教材発表会そのⅢ
- 【第15回】小学校算数科の学習へ(総まとめ)

授業概略

算数好きの子どもを増やす、数量の感覚を豊かにする、活用する活動の充実を図ることが算数科授業づくりの課題になっています。幼・保においても課題は同じことです。特に、「改善の基本方針」の中の「幼児期にふさわしい知的発達を促す教育の在り方を明確に示すこと」を中心に、幼

に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。
事前準備学習
自作教材づくり課題（3週間に1回）3回あり

13175 小学校生活科研究 c

(Subject Study of Elementary School Life Studies Teaching c)

配置年次 3
単位数 2 期間 後期
担当者 大内 弘之
履修可能学科

Pc
関連資格
教職
到達目標

幼稚園教育要領の総則、ねらい及び内容、5領域「健康、人間関係、環境、言葉、表現」のねらいと内容を理解することができる。園生活での多様な活動や体験を通して、身体の基本づくりや人と関わる力の基礎づくり、言葉で伝え合う力の基礎づくりの指導・援助をすることができる。また、小学校生活科の学習を見通した幼稚園での保育をすることができる。

授業計画

- 【第01回】この授業の到達目標と概略（生きる力の基礎づくりとしての幼稚園教育）
- 【第02回】「健康領域」基本と内容、遊びの興味・関心を戸外に
- 【第03回】生活のリズムと基本的な生活習慣、食育の体験
- 【第04回】「人間関係」基本と内容、協同的な学びの活動・体験
- 【第05回】規範意識の芽生え、自己発揮の自信
- 【第06回】「環境」基本と内容、自然体験の充実
- 【第07回】思考力の芽生えを培う教育の事例
- 【第08回】「言葉」基本と内容、コミュニケーション能力の育成
- 【第09回】言葉による伝え合いの活動・体験
- 【第10回】文字教育と読み聞かせ活動
- 【第11回】「表現」基本と内容、生活・環境分野の表現
- 【第12回】情操・音楽分野の表現
- 【第13回】地域との協働的な学びをデザインする「お正月遊び」
- 【第14回】指導計画作成のポイント
- 【第15回】生活科の学習を見通した幼稚園での保育（まとめ）

授業概略

幼稚園教育要領、保育所保育指針、初等教育資料、研究集会資料等、様々な資料に依拠して生活科の学習を見通した幼稚園での保育（体験や指導事項）を解説します。接続期のスタートカリキュラム、幼児と児童の交流活動等についてもあわせて取り上げます。

教科書

フレーベル館『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』2009年

参考書

なし

成績評価の方法・基準

最終試験の素点を100点満点とし、無断欠席1回につき10点、無断遅刻1回につき5点を減じたものを、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。

事前準備学習

なし

13175 小学校生活科研究 d

(Subject Study of Elementary School Life Studies Teaching d)

配置年次 3
単位数 2 期間 後期
担当者 大内 弘之
履修可能学科

Pc
関連資格
教職
到達目標

幼稚園教育要領の総則、ねらい及び内容、5領域「健康、人間関係、環境、言葉、表現」のねらいと内容を理解することができる。園生活での多様な活動や体験を通して、身体の基本づくりや人と関わる力の基礎づくり、言葉で伝え合う力の基礎づくりの指導・援助をすることができる。また、小学校生活科の学習を見通した幼稚園での保育をすることができる。

授業計画

- 【第01回】この授業の到達目標と概略（生きる力の基礎づくりとしての幼稚園教育）
- 【第02回】「健康領域」基本と内容、遊びの興味・関心を戸外に
- 【第03回】生活のリズムと基本的な生活習慣、食育の体験
- 【第04回】「人間関係」基本と内容、協同的な学びの活動・体験
- 【第05回】規範意識の芽生え、自己発揮の自信
- 【第06回】「環境」基本と内容、自然体験の充実
- 【第07回】思考力の芽生えを培う教育の事例
- 【第08回】「言葉」基本と内容、コミュニケーション能力の育成
- 【第09回】言葉による伝え合いの活動・体験
- 【第10回】文字教育と読み聞かせ活動
- 【第11回】「表現」基本と内容、生活・環境分野の表現
- 【第12回】情操・音楽分野の表現
- 【第13回】地域との協働的な学びをデザインする「お正月遊び」
- 【第14回】指導計画作成のポイント
- 【第15回】生活科の学習を見通した幼稚園での保育（まとめ）

授業概略

幼稚園教育要領、保育所保育指針、初等教育資料、研究集会資料等、様々な資料に依拠して生活科の学習を見通した幼稚園での保育（体験や指導事項）を解説します。接続期のスタートカリキュラム、幼児と児童の交流活動等についてもあわせて取り上げます。

教科書

フレーベル館『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』2009年

参考書

なし

成績評価の方法・基準

最終試験の素点を100点満点とし、無断欠席1回につき10点、無断遅刻1回につき5点を減じたものを、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。

事前準備学習

なし

13176 小学校体育科研究 d

(Subject Study of Elementary School Physical Education Teaching d)

配置年次 3
単位数 2 期間 後期
担当者 大山 康彦
履修可能学科

Pc

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

関連資格

教職

到達目標

小学校体育の授業で扱われている運動教材、とりわけ幼児期の運動発達と関連性の深い低学年に焦点を当て、「運動遊び」の中で自然に培われる主要な基礎的運動能力確保に向けての指導方法を理解する。

授業計画

1. 体育で何を学ばせるか
2. 幼児期・児童期の運動発達の様相
3. 運動能力が身につかない!
4. 基本的運動能力とは
5. 小学校体育の構造と内容
6. 「体づくり運動」(1)
7. 「体づくり運動」(2)
8. 「体づくり運動」(3)
9. 「走・跳の運動」(1)
10. 「走・跳の運動」(2)
11. 「器械・器具を使つての運動」
12. 「ゲーム」(1)
13. 「ゲーム」(2)
14. 「ゲーム」(3)
15. 「表現/リズムダンス」

授業概略

児童期の運動発達の特徴は、人生の中でより高い運動技能への飛躍的発達を遂げる大変重要な時期であることです。特に低学年の時期はその土台作りに対応する、「熟達のための障壁」を乗り越える発達段階にあります。何を、どのようにして取り組んだらいいのでしょうか? 運動の指導が楽しくできる指導者育成を意図しています。

教科書

文科省「小学校学習指導要領解説 体育編」(東洋館出版)

参考書

特になし。

成績評価の方法・基準

1) 出席点・受講態度、2) 提出物の状況、3) 課題実技評価、4) 記述式試験、の4観点による総合評価とする。

事前準備学習

- 1) 実技授業時の運動着・体育館用シューズ・グラウンド用シューズは必ず用意すること。
- 2) 小学校教育現場で求められる指導者の身なりに準拠する。(ピアス・ネックレス類は身につけない・長つめは切る・長髪は束ねる・腰パン厳禁など)

備考

- ・一般的な体育とは異なる専門的授業科目です。
- ・出席を心がけてください。

13176 小学校体育科研究 e

(Subject Study of Elementary School Physical Education Teaching e)

配置年次 3

単位数 2 期間 後期

担当者 天野 秀哉

履修可能学科

Pc

関連資格

教職

到達目標

児童期における発育の特徴と運動発達過程についての学習を通して、小学校体育の授業で扱われている運動教材について、具体的内容の実践と観察から認識を深めることが本授業の主たる目標です。

授業計画

1. 体育の意味のとらえ方
2. 幼児期の運動発達
3. 児童期の運動発達

4. 現代社会と子どもの変容

5. 子どもの運動発達における諸問題

6. 体育教材の構造と指導計画案

7. (実技) 体づくり運動 (1)

8. (実技) 体づくり運動 (2)

9. (実技) 体づくり運動 (3)

10. (実技) 器械・器具を使つての運動 (1)

11. (実技) 器械・器具を使つての運動 (2)

12. (実技) 器械・器具を使つての運動 (3)

13. (実技) 走・跳の運動

14. (実技) ゲーム/ネット型ゲーム

15. 課題実技について (まとめ)

授業概略

児童期の運動発達における特徴は、人生の中でより高い運動技能への飛躍的発達を遂げる時期であることを重要視し、授業内容に反映させている。体育とは何を教える教科なのか? 今の小学校体育の現場では何をどのように取り組んでいるのか? 学習指導要領に提示されている運動課題に着目しながら、児童期における体育科の果たす役割について考えることのできる土台作りを行う授業である。

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編』(東洋館出版社)

参考書

配布資料あり。また、授業の中で参考書の紹介をする。

成績評価の方法・基準

筆記試験・実技試験の素点から、無断欠席、無断遅刻による減点したものを「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめる。受講態度(服装など)や学習カード提出の有無も考慮する。

事前準備学習

ケガをしない身体づくりをして臨むよう努力すること。

子どもの運動学習の場に足を運んでみる。

備考

実技授業の日は必ず運動を行う服装に着替えること。

屋外用と屋内用のシューズ2足を必ず用意すること。

13179 保育の心理学Ⅱ a

(Psychology for Child Nursing IIa)

配置年次 1

単位数 1 期間 後期

担当者 江尻 桂子

履修可能学科

Pc

関連資格

保育

到達目標

この授業では、現代の人々が発達のなかで出あうさまざまな課題について、実践的に学びます。また、発達障害を含む、障害児・者の発達と支援についても学びます。

授業計画

第1回: ことばの障害(1) 言語とは何か

第2回: ことばの障害(2) 障害の種類と支援

第3回: 発達障害をもつ子どもの発達とその支援(1)

自閉症・アスペルガー障害

第4回: 発達障害をもつ子どもの発達とその支援(2)

ADHD・学習障害

第5回: 幼児期に出会う問題: 仲間関係

第6回: 児童期に出会う問題: いじめ問題

第7回: 児童期~青年期に出会う問題(1): いのちの認識とその教育

第8回: 児童期~青年期に出会う問題(2): 社会的ひきこもり

第9回: 成人~中年期に出会う問題(1): 夫婦の問題

第10回: 老年期の問題: 様々な喪失体験の問題

- 第11回：老年期の問題：介護の問題
- 第12回：家族の抱える問題（1）親子関係とその問題
- 第13回：家族の抱える問題（2）親子関係とその問題
- 第14回：家族の抱える問題（3）育児・介護者の心理と支援
- 第15回：保育の心理学の総まとめ

授業概略

この授業では、人が発達のかなかで出あうさまざまな課題について、実践的に学びます。具体的には幼児期の仲間関係の問題や、学齢期のいじめの問題、また、青年期のひきこもりの問題、成人期における夫婦の問題、生きがいの問題、また、老年期については喪失の問題などをとりあげます。また、発達障害を含む、障害児の発達と支援についても学びます。授業の中では、グループ・ディスカッションや、模擬カウンセリング（保育・教育相談）、また、個人発表などを行い、上記の問題について実践的に学んでゆきます。これらの学びを通して、皆さんが将来、社会に出て子どもと接したり、障害や病気をもつ人と接したり、また、自分自身が育児や介護の担い手になったときに、発達心理学的な視点をもって対象を理解できるようになることが目標です。授業のあとに、感想や意見を書いて提出していただきます。試験に際しては、十分な準備が必要となります。レポートや発表会なども予定していますので、授業への積極的な参加を期待します。

教科書

授業に関連する資料は全て配布します。

参考書

授業中に適宜紹介します。

成績評価の方法・基準

1) 出席回数、2) 授業態度、3) 授業内容に対するコメント、4) 期末試験、レポートなどにより総合的に評価します。

事前準備学習

なし

備考

授業中の私語、携帯メール、音楽を聴く、飲食など、他の受講生に迷惑をかける行為やマナー違反と考えられる行為については積極的に注意し、評価に反映させます。この授業では座席を指定します。

13179 保育の心理学Ⅱb

(Psychology for Child Nursing IIb)

配置年次 1

単位数 1 期間 後期

担当者 江尻 桂子

履修可能学科

Pc

関連資格

保育

到達目標

この授業では、現代の人々が発達のかなかで出あうさまざまな課題について、実践的に学びます。また、発達障害を含む、障害児・者の発達と支援についても学びます。

授業計画

- 第1回：ことばの障害（1）言語とは何か
- 第2回：ことばの障害（2）障害の種類と支援
- 第3回：発達障害をもつ子どもの発達とその支援（1）
自閉症・アスペルガー障害
- 第4回：発達障害をもつ子どもの発達とその支援（2）
ADHD・学習障害
- 第5回：幼児期に出会う問題：仲間関係
- 第6回：児童期に出会う問題：いじめ問題
- 第7回：児童期～青年期に出会う問題（1）：いのちの認識とその教育
- 第8回：児童期～青年期に出会う問題（2）：社会的ひき

こもり

- 第9回：成人～中年期に出会う問題（1）：夫婦の問題
- 第10回：老年期の問題：様々な喪失体験の問題
- 第11回：老年期の問題：介護の問題
- 第12回：家族の抱える問題（1）親子関係とその問題
- 第13回：家族の抱える問題（2）親子関係とその問題
- 第14回：家族の抱える問題（3）育児・介護者の心理と支援
- 第15回：保育の心理学の総まとめ

授業概略

この授業では、人が発達のかなかで出あうさまざまな課題について、実践的に学びます。具体的には幼児期の仲間関係の問題や、学齢期のいじめの問題、また、青年期のひきこもりの問題、成人期における夫婦の問題、生きがいの問題、また、老年期については喪失の問題などをとりあげます。また、発達障害を含む、障害児の発達と支援についても学びます。授業の中では、グループ・ディスカッションや、模擬カウンセリング（保育・教育相談）、また、個人発表などを行い、上記の問題について実践的に学んでゆきます。これらの学びを通して、皆さんが将来、社会に出て子どもと接したり、障害や病気をもつ人と接したり、また、自分自身が育児や介護の担い手になったときに、発達心理学的な視点をもって対象を理解できるようになることが目標です。授業のあとに、感想や意見を書いて提出していただきます。レポートや発表会なども予定していますので、授業への積極的な参加を期待します。

教科書

授業に関連する資料は全て配布します。

参考書

授業中に適宜紹介します。

成績評価の方法・基準

1) 出席回数、2) 授業態度、3) 授業内容に対するコメント、4) 期末試験、レポートなどにより総合的に評価します。

事前準備学習

なし

備考

授業中の私語、携帯メール、音楽を聴く、飲食など、他の受講生に迷惑をかける行為やマナー違反と考えられる行為については積極的に注意し、評価に反映させます。この授業では座席を指定します。

13182 保育課程論

(Studies in Nursery School Curriculum)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 大畠 孝子

履修可能学科

Pc

関連資格

保育

到達目標

1. 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。
2. 保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。
3. 計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造を動的にとらえ、理解する。

授業計画

1. カリキュラムとは何か
2. 保育所における保育課程の意義
3. 保育所以外の児童福祉施設における保育の計画
4. 計画、実践、省察・評価、改善の過程の循環による保育の質の向上

5. 保育所保育指針と幼稚園教育要領
6. 保育課程と指導計画の関係
7. 保育課程の編成と実際
8. 指導計画作成の留意事項
9. 園の状況と指導計画作成の考え方
10. 長期の指導計画の作成と実際
11. 短期の指導計画の作成と実際
12. 保育の省察及び記録
13. 保育士及び保育所の自己評価
14. 保育の計画の再構成
15. 生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録

授業概略

保育内容の充実と質の向上を目指す保育の計画と評価について学ぶ。保育所保育指針と幼稚園教育要領について学び、一人一人に応じた指導の観点から、指導計画の作成について理解を深める。記録の重要性を確認し、省察可能な実践家のまなごしで、保育を動的にとらえる方法を明らかにする。

教科書

神永美津子・塩谷香編著『新保育シリーズ 教育課程・保育課程論』（光生館）

参考書

守永英子・保育を考える会著『保育の中の小さなこと 大切なこと』（フレーベル館）

津守房江著『育てるものの日常』（婦人の友社）

日本幼稚園協会 月刊誌『幼児の教育』（フレーベル館）

成績評価の方法・基準

出席状況、提出物、レポート、授業態度を総合して評価する。

事前準備学習

教科書や参考書を熟読しておくこと。